

187
THE
THESAURUS
OF
EVERY-DAY ENGLISH

英

語

活

用

寶

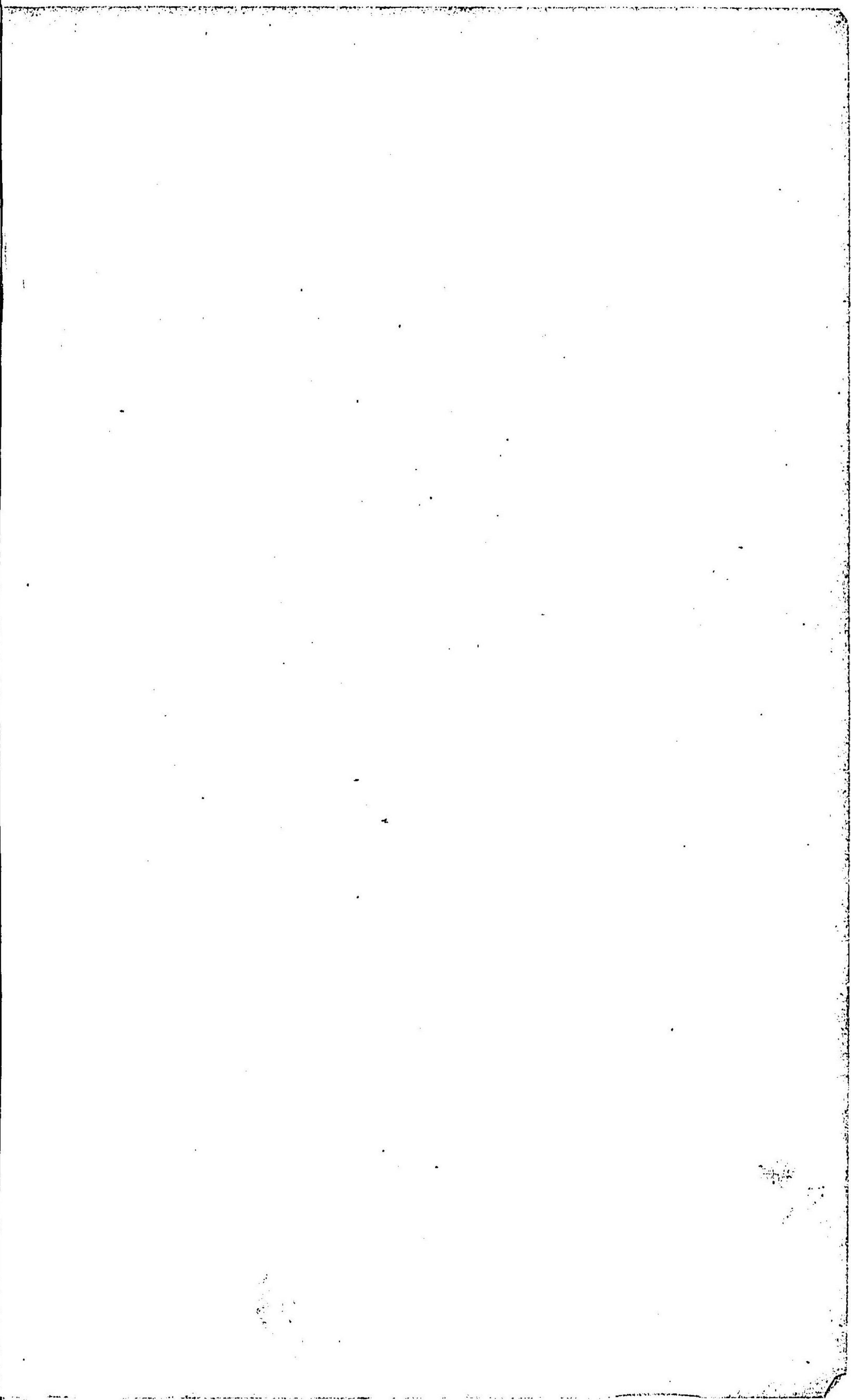
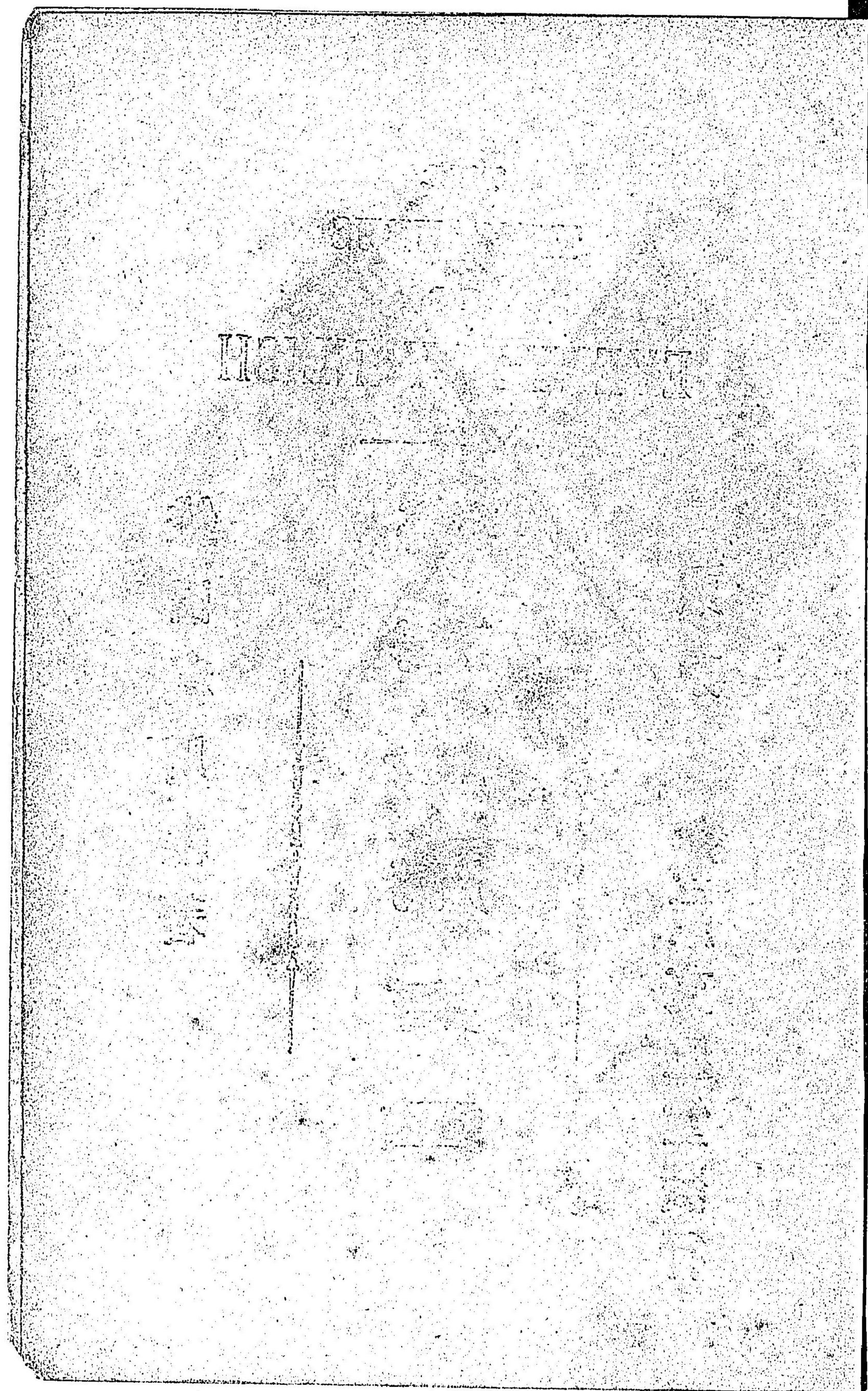
函

43. 5. 11

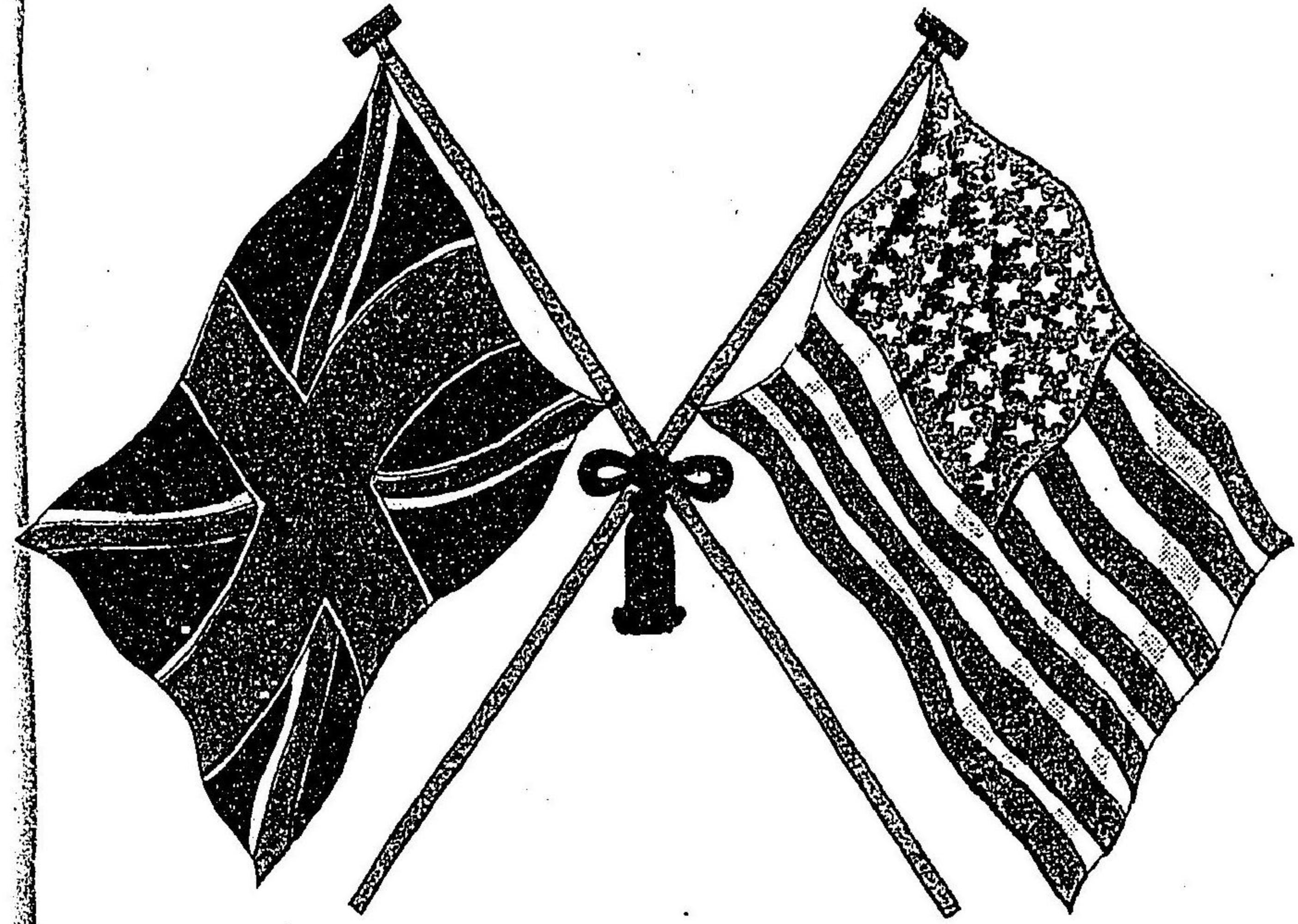
內交

鎌田稻川編著

東京 柳原文盛堂發行



英米の國旗



英國の國旗 (Union Jack) は三個の十字架交錯せるものにして、大なるは英蘭の守護神と云ふべき S. George の十字架を表し、斜なるものゝ中、白き幅廣の部は蘇克蘭の爲に St. Andrew の十字架を表し、紅地の部は愛蘭の爲に St. Patrick の十字架を表するものとす、かく St. Andrew と St. Patrick の十字架加へられしは千八百一年にして James 一世の朝なりと云ふ。

米國の國旗 (The Stars and Stripes) は紅白十三條の横線と星章を點出せる青地より成る、紅白の線は建國當時の聯邦たる十三州を表し星章は現今の聯邦數を表出せるものといふ、千七百七十六年六月二日國父 Washington 始めて此國旗を掲揚せりと傳ふ、されど當時のものには星章なく、青地の部に S. George と St. Andrew の十字架を描きたり。

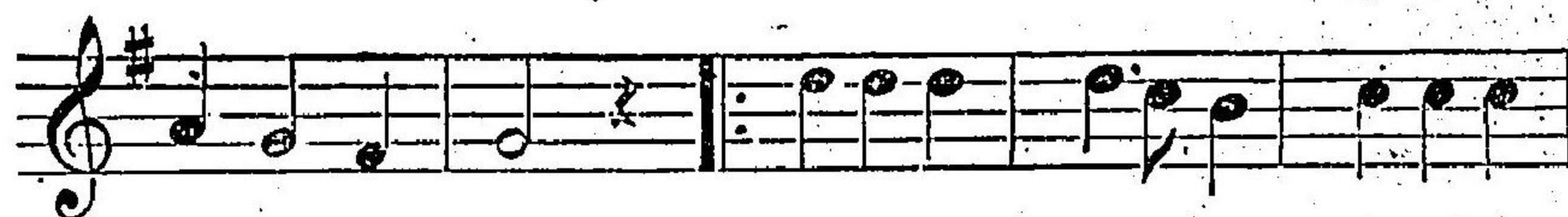
英國國歌

God save the King.

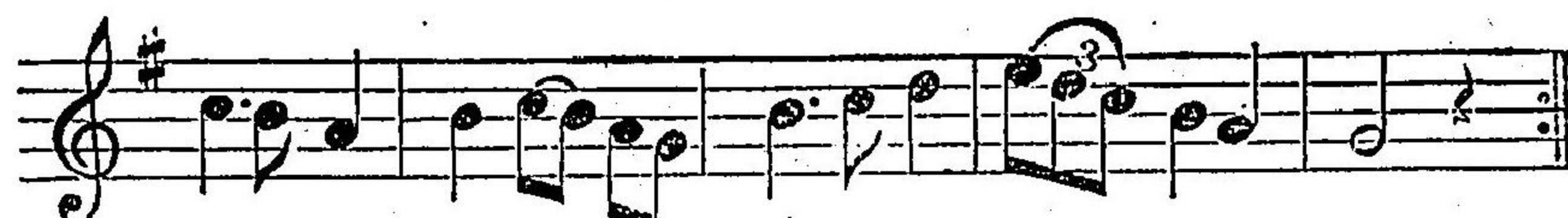
Maestoso



- 1 God save our gra-cious king, Long may king -Ed-ward reign,
- 2 O Lord our God a-rise, Scat-ter his e-ne-mies,
- 3 They choic-est gifts in store, On him be pleas'd to pour,



God save the king. Send him vic - to - ri - ous Hap - py and
And make them fall. Con - found their po - li - tics Fru - strate their
Long may he reign. May he - ar - end our land And ev - er



glo - ri - ous, Long to reign ov - er us, God save the king
kna - vish tricks, On thee our hopes we fix, God save us all
give us cause, To sing with heart and voice God save the king,

米 國 國 歌

Hail, Columbia!

Alia marcia.



1 *Hail, Co-lum-bia, hap-py land! Hail, ye he-roes, heav'n-bor'n band! Who*
2 *Im-mor-tal pa-triots, rise once more! De-fend your rights, de-fend your shore; Let*



fought and bled in Free-dom's cause, who fought and bled in Free-dom's cause, And
no rude foe with im-pious hand, Let no rude foe, with im-pious hand, In-



when the stern of war was gone En-joyed the peace your val-or won. Let in-
vade the shore where sa-cred lies Of toil and blood the well-earned prize. While



in-de-pen-dence be our boast, Ev-er mind-ful what it cost, ...
off'ring peace, sin-cere and just, In Heav'n we place a man-ly trust That

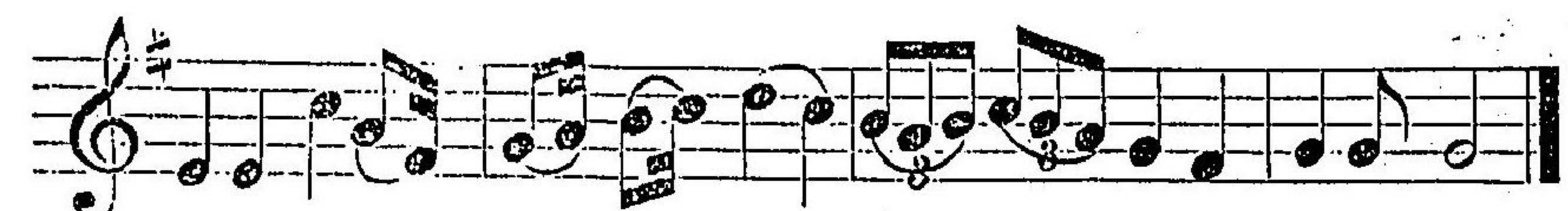


Ev-er grate-ful for the prize, Let its al-tar reach the skies
truth and jus-tice shall pre-vail, And ev'-ry scheme of bond-age fail

CHORUS



Firm u-nit-ed let us be, Rat-tying round our lib-er-ty!



As a band of broth-ers join'd - peace and safe-ty we sha'l find

例 言

英語の研究が、學校教育の主要なる位置を占むるは、今更言ふに及ばず、一般社會に於ても其緊要なるを認め、或は教師に就き、或は書籍により、時間を惜まず、勞力を厭はず、競ふて之を學び、只管後れん事を恐るゝは、我國の現状なりとす。されば此趨勢に應じてあらはれたる圖書は、汗牛充棟寧ろ多きに失するの感あるが如し、即大小の辭典よりして會話文法譯解の教科書參考書に至るまで、殆んど盡せりと云ふも不可ならず、然れども彼國の習慣、風俗、生活の狀態を述べ、食物の嗜好を語り、服裝の注意禮法の一般を述べ、所謂英語國民の實相を寫せるものは未だ之なきが如し假令之あるも之と共に日常當用の單語用句を並び記せるは殆んど之なかるべし、本書は此缺陷を補ひ、聊か英語研究の學生、及び一般人士の爲に利便をはからんが爲めに出でたり、即本書の目的は

一、英人の日常生活、風俗、習慣、禮法等を叙し、其生活の實相を學ばんとするにあり、英語研究の目的は、専門の學術研究の媒介として學ぶ事其一ならんも、文明國民の生活現象を知らんとするも、亦、其重要目的の一たる事疑ふべからず文部省が規定せる英語教授細目にも、明かに此事を指示せるを見るべし、然るに今日まで此目的に該當する著書なきは、遺憾なる次第にして、現今行はる、教科書類、若くは瀕々

として出づる文學的註釋書は勿論、此統一的智識を與ふるものに非ず、故に淺學を憚らず此一小著を公けにするなり。

二、言語は事物の符號なり、言語は形式にして事物は實體なり、されば實體を知らずして、形式を學ぶ者は、到底其真相を知る能はず、符號のみを暗んじて、事物を解せざれば、暗中の摸索と一般、決して正確なる意義を解し、是が運用に熟する能はざる可し、本書は事實を叙述すると共に、其間に用ひらるゝ言語を學ばしめんとするものにして、新なる名稱出づる毎に之に用ふる單語を挿み、一章の記事終る毎に之に要する單文、用句を掲げたり、かくせば言語は正確なる意義を以て領解せられ、且運用も亦適切なるを得べしと信ず、凡そ語學の研究には二法ありて、一は其國語の骨格たる文法上の形式に習熟する事是にして、其二は該國語の血肉たる語句を記憶する事是なり、此二者は互に相待りて用を爲すものにして、偏廢す可らず、然るに近時の學生は、往々前者に偏して後者に疎なるが如し、故に此書は英語の血肉たる語句の供給者たるに庶幾せん事を期す。

三、英語研究者の目的は多様なるべし、然れども實務を處辨する必要上より、之を學ばんとする人は、恐らく大多數を占むる事なるべし、是等の人士にして、悠々、リーダーの第一卷より着手し、若くは漫然文學的註釋書を購ふて研究するは、餘りに緩漫にして、且無意義なり、恐らくは中途にして茫洋の嘆を發し、曠廢するに至らん、此書はかゝる人に對

し最實際的の單語、用句を提供せんとする者にして無用の死語を臚列し精力を浪費せしむる憂はなかるべしと思ふ。

四、英語國民と同様の服裝をなし、彼等の嗜む調理を用ひながら其服裝の名稱、若くは用法に暗く、飲食事の禮儀作法に嫻はずば、沐猴にして冠すると同様、如何にも不似合に思はるべし、此書は服裝の注意、飲食の禮法等に關し、其要綱を記載して漏さず、故に童蒙の爲たるにとゞまらず、又一般人士にも多少の參考たるべし。

余は如上の目的を以て、此一小著を編したり、然れども淺學寡聞元より完璧を期すべくも非ず、且つ時日の短少なると、職務の多忙とは、旁引博搜の餘裕を與へず、殊に紙數の制限は數多所定の材料を削るの餘儀なきに至り、公刊するの今日、再閲して我意に満たざる事多きに驚けり、只此書備をなして江湖先覺の士更に完璧の著を親しくせられなば、編者の所懷之に過ぎず、編者も亦多日閑を得て増補大成の機あらんことを待つものなり。

附記す本書の材料は編者今日まで修得せるものを材料とせりといへども、編述の體裁等は獨人クロン Kron 氏の著に據るところ多し若し誤謬あらば批正せらんことを世上の識者に希ふ。

明治四十三年一月三日

著者識

發音と綴字

英語を記るすには羅馬字を用ふ、羅馬字は尙我國の假名の如く、只聲音を示す符號にして、其字自身には何等の意義を含まざるものなり。其數二十六ありて總稱してアルファベット (alphabet) と云ふ、字母の義なり、アルファベットは各々大小の二形を有し、大字はキャピタルレター (capital letter) と云ひ、文章の起首、人名、地名等の頭字に用ゐ、小字はスモールレター (small letter) と呼び、以上の場合の外、すべてに用ひらる、今大小二種の形を次に示すべし。

大字	^{エー} A	^{ビー} B	^{シー} C	^{ディー} D	^{イー} E	^{エフ} F	^{ジー} G	^{エイチ} H	^{アイ} I	^{ジェー} J
小字	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
大字	^{ケー} K	^{エル} L	^{エム} M	^{エヌ} N	^{オー} O	^{ピー} P	^{キュー} Q	^{アール} R	^{エス} S	^{テイ} T
小字	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
大字	^{ユー} U	^{ヴェー} V	^{ダブルユー} W	^{エクス} X	^{ワイ} Y	^{ゼッド} Z				
小字	u	v	w	x	y	z				

さて此の如く各字に我假名を附したれども、中には我國に存せざる者ある故、夫等は到底正確なる發音を、我假名にては示す能はず、只相似たる音を示せるに過ぎずと知るべし、故に特に注意すべきものを下に説明し置く故、熟讀して發音の要領を會得すべきなり。

英語活用寶函

先づ c (スイーとひびくとき) s, z のあらはす音は、上歯の端へ舌端を近づけて發する音にして、清音を出せば s, c, の示す音となり濁音を出せば, z の示す音となる。

j は g (ジーとひびくとき) と同じく舌端を下顎につけ舌の中部を成るべく上顎に近づけて發する音なり。

t, d は共に舌端を上顎の前部に強く押し當て、發する音にして、呼吸を壓したる儘離せば t の音出で、發音すると同時に離せば d の音の音出づべし。

f は下唇を前歯にて壓したる儘、強く呼吸を發したる音にして、v は同じ形状にて音聲を發して得らるゝなり、此二者はよく注意せざれば、h の音又は b の音を混じ、ファイヴ (five五) をハイヴ (hive, 蜂の巢) と誤り、ヴァール (vale, 谷) をベール (bale, 俵) と解せしむることあるべし、h の音は極めて輕き音にして、我假名のハ、ヒ、ヘ、ホ、の初發に出づる音なり。

l は舌端を上顎の前方若くは上歯の齦に押し付けたるまゝ發音すべし、こは r の音とよく區別すべきものにして r の音は舌端を少く卷く様の氣味にして震動せしめざれば發せず、且 l は輕き音なれど、r は甚強き音なり、この二者は往々混じ易けれども、大なる誤を生ずる故嚴に區別すべし、ライト (light, 光明) とライト (right, 權利) ライス (lice, 虱の複數) とライス (rice, 米) を混同せば、いかに笑ふ可き失錯を生ぜん。

二字相連なりて一音を爲す内困難なるは、th と wh なり、th

發音と綴字

は清音と濁音ありて、上下の前歯を相近づかしめ其間より舌を押し出す様にし、強く呼吸を發すれば清音出で、音聲を發せしむれば濁音出づ、シンク (think, 考ふ) スタンク (thank, 謝する) は清音の例にして、ズィス (this, これ、この) ズァット (that, あれ、あの) は濁音の例なり。

wh は hw と同様に發音するときと、h と發音すべき時と兩者あり、ホワイト (white, 白き) ホェア (where, いづこ) の如くは前者の例にして、フー (who, 誰れ) の如きは後者の例なり、who を發音するには咽喉の奥にて強く呼吸し、之にウー音を附すべし、アルファベット二十六字の中 a, e, i, o, u の五字は母音 (ヴァウエル vowel) をあらはすものとし、其他は子音 (コンソナント consonant) をあらはすものとす、母音は各々獨立の音を有すれども、子音は他の母音と合し、其力を借りて發音するものなり、今まで發音の要領として説きたるものは多く子音に關せるものなりしが、次に母音のことを略説すべし。a は (英) の如く發音するときあり、之を a の長音と稱す、フエート (fate, 運命) メート (mate, 同僚) テール (tale, 物語) の如し、アと短かく發音するときあり、之を a の短音と稱す、マン (man, 人) ハット (hat, 帽子) バック (back, 後) の如しアーとオーの間に聞ゆる時あり、カー (car, 車) スター (star, 星) パート (part, 部分) の如し、オーに近くひびく時ありボール (ball, 球) トーク (talk, 話す) の如し。e はイーと長くひびくときあり、是を e の長音と稱す。

英語活用寶函

イール (eel, 鰻) スティール (steel, 鋼) キーン (keen, 鋭利なる) の如し、我國の錢、圓に含めるエの如く發音するときあり、之を e の短音と稱す、ウェル (well, 井戸) ベル (bell, 鐘、鈴) の如し、又 r を伴ふてハー (her, 彼女の) プリファア (prefer, 好む) の如く發音するゝ時あり。

i は我國の「合ひ」の如く發音する時を i の長音と稱し、我國の「新」に含めるイの如く發音する時を、i の短音と稱すタイル (tile, 瓦) ライン (line, 線) は長音の例にして、ビル (bill, 嘴) スイット (sit, 座する) は短音の例なり。

o はオーと長くひびく時を o の長く音と稱す。ホールド (hold, 持つ) ボーン (bone, 骨) の如し、我國の「根」「盆」の如くに聞ゆる時を o の短音と稱す、オン (on, 上に) ポンド (pond, 小池) の如し、二つ相續きてウー又はウッと響くときありムーン (moon, 月) ブック (book, 本) の如し。

u は我國の「勇」の如くひびくときを u の長音と稱しアとウの間にひびくときを u の短音と稱す、キューア (cure, 癒す) スーア (sure, 確かに) は前者の例にして、ダル (dull, 鈍い) マスト (must, せざる可らず) は後者の例なり、又我國の「文」「紛」中のウの如く聞ゆるときあり、ブル (bull, 牡牛) フル (full, 充満する) の如し。

以上は母音の各個に就て各々簡短に述べたれども尙詳密なる區分、此外にありと知るべし、されど以上は主なるものなれば、之を會得すれば大過なからんる思ふ。

發音と綴字

母音二個を合して發音することあり、之を二重音 (ディフソング diphthong) と云ふ、二重音の重なるものを次に舉ぐべし ae, ea は共に e の長音と同じく發音す、例へばリープ (leap, 跳ぶ) ヒープ (heap, 積み) の如し。

ai は a の長音と同じく聞ゆるを常とすデーリィ (daily, 日々に) ツレイン (train, 列車) の如し。

au はオーとひびく、コート (caught 捕へたり) ホール (haul, 引張る) の如し、ei は三様の發音あり、即ち i の短音にひびくとき (例; レーン reign, 治世) と i の長音にひびくとき (例; ハイト height, 高さ) と e の短音にひびくとき (例; スィーズ sieze, 握む) デイスィーズ (deceive, 欺く) 是なり、ie は e の長音に等し、スィージ (siege, 籠城) グリーフ (grief, 悲み) の如し、oa は o の長音を現はす、ロード (load, 積む) ボート (boat, 小舟) の如し。

oi, oy はイとひびくボーイ (boy 男兒) ツイル (soil, 汚す) の如し。

ou, ow は我國語の「合ふ」と相似たり、例へばサウンド (sound, 響く) ナウ (now, 今) の如し。

we は「勇氣」の「勇」に同じデュー (dew, 露) グルー (grew, 生長したり) の如し。

ough は オー (au) とひびくときと (例; ホート bought, 買ひたり) アフとひびくとき (例; エナッフ enough, 十分) あり。

以上説く所只大綱のみにして細節、例外等は一切省きたれども個々の文字及び其發音に就き心得置くべき事は略々述

英語活用寶函

べ終れり、故に是より語 (ワード word) の發音に就き少しく語る所あるべし。

前にも云へる如く母音は單獨に發音さるれども子音は母音の力を借らざれば發音し難き故、一個の聲音を現はすには一個の母音か又は二個以上の文字を連ねて示さざる可からず、かく一聲音を現はす爲めに一個の母音か二個以上の文字を連ねたるものを熟音 (スィラブル syllable) といふ、すべての語は此熟音の一個又は數個相寄りて、之に意味を含めたるものにすぎざるなり。

而して此の如く英語は一個又は二個以上の熟音より成れるものなれば、一熟音の時は別として、二熟音以上の語には必ずアクセント (accent) といふもの存するなり、アクセントと云ふは強音又は高音と譯すべきものにしてある熟音を特に強く明かに發音することを云ふ、例へばペンシル (pencil, 鉛筆) は pen と sil の二熟音より成り而して pen を特に高く發音す即アクセントは第一熟音に存すればなり、我國の言語にはアクセントなき故英語を學ぶもの稍々もすれば之を等閑に附する傾向あれどそは大なる誤りなり、英米の人の語るを聞けば、アクセントの熟音のみはよく聞ゆれど其他は殆んど聞き取り難きこと多し、蓋アクセントの部さへ明了なれば他は聞き取れぬとも其語は明なればなりたとへばゴーイング (going, 行きつゝ) は第一熟音にアクセントある故ゴーは常につよくひきけどもイングは殆ん

發音と綴字

ど耳にもきこへぬなり、されば英語を學ぶものはよく注意し一語を學ぶごとに必らず其アクセントの所在を記憶し之を明瞭に發音する習慣を養ふべし、思ふに英語は一語毎に其意義と綴字とアクセントの三者を兼ね學ぶに非ざれば決して完全に學習せりとは言ひ難かるべし。

さてアクセントは夫程必要なるによりなにか共通の規則あるかと云ふに、各語區々にして到底整然たる規則の下に包括する能はず故に意義を學ぶごとに一々其アクセントを研究せざる可らず、初めより之を等閑にせばいつになりても記憶するの機會なかるべし、故に初發より深く留意して意義、綴字と共にアクセントを學ぶ必要あるなり此次に揚ぐる數例は多少規則の觀をなす故特に揚げ置く、是だけにて少からざる便益を與ふべしと信ずればなり、(本書にては假名の下に黒線を劃しアクセントのあるところを示す)

一、如何なる熟音の語にててもにて tion にて終る語は必らず其前にアクセントありネーション (nation, 國民) ポジション (position 位置) 等の如し。

二、sive に終る語は其前に必ずアクセントありコーヒースィヴ (cohesive; 粘着力ある) ポセスィヴ (possesve, 所有の) の如し。

三、tive にて終る語は其前に子音の來る時は其熟音に (例: パーセプティヴ perceptive, 知覺力ある), 母音の來る時は前々熟音に (例: リラティヴ, relative, 關係せる) にアクセントある事多

英語活用寶函

し。

四、ate にて終る三熟音及び三熟音以上の語は語尾より第三熟音にアクセントあるを常とすカルティヴェート (cultivate, 耕やす) デリケート (delicate, 柔軟なる) 等の如し。

五、ic, 又は ical にて終る語は其前にアクセントあるを常とす、ロジック (logic 論理) リパブリック (re public, 共和國) ケミカル (chemical 化學の) 等の如し。

六、ity, ety, istry 等にて終る語は其前にアクセントあるを常とすソサイエティ (society, 社會) ケミストリイ (chemistry, 化學) 等の如し。

七、able, ible にて終る三熟音以上の語も亦其前にアクセントあるを常とすポッシブル (possible, 能ふべき) アドミッシブル (admissible 許さるべき) 等の如し。

八、self にて終る二熟音の語は必ず第二熟音にアクセントありマイセルフ (myself, 余自身) の如し。

九、ish にて終る語は決して ish にアクセントを有することなしフィニッシュ (finish, 終る) パニッシュ (punish, 罪する) 等を見るべし。

十、ing にて終る語も亦決して ing にアクセントなし。

十一、a 又は ad にて始まる二熟音の語は第二熟音にアクセントあるを常とすアバウト (about, 殆んど) アロング (along, 沿ふて) の如し。

十二、be, de, re, pre 等にて始まる二熟音の語は必らず第

發音と綴字

二熟音にアクセントあるを常とすビフォーア (before, 前) リスィーヴ (recieve, 受ける) の如し、

十三、二熟音の語にしてアクセントの變化するものは名詞の時は第一熟音に、働詞の時は第二熟音にあるものとす即目的物の意味のときはオブジェクト (object) にして妨げるの意味となればオブジェクト (object) となるが如し。

是にて各文字に就ての發音、語に就ての發音等大略を述べ終りたれば一先づ發音の事は擱くべし、終りに臨み一言せん發音 (pronunciation) のことは元來書籍にて修得す可きものに非らず、又教師に接するとも、邦人なりせば到底完全なる發音を學び得べからず、是非英米の教育ある人士に就きて習得するを要す、然れども多少の用意を兼て知得し、假令ば l, r, f, v 等の字はいかなる音を現はすか、アクセントはいづくにあるか等を知り置かば實際に於て大過をおかす事なかるべく、又英語の學修に甚しき障礙を及ぼすことなかるべし、故に如上の簡短なる説明を加へ尙本書に於ては、各單語 (ヴォキャビュラリイ (Vocabulary) に假名を附し、且アクセントを記し置きたり、讀者よく假名を見ると共に困難なる發音はさきに述べたる要領によりて自ら練習し、且つアクセントに嚴密なる注意を拂はべ大なる誤謬を生ずることなかるべし。

是より綴字 (スペリング spelling) の事を述べし、英語は聲音をあらはす文字即アルファベットを以て記さるゝ故漢字

英語活用寶函

の如き象形文字とちがい發音其儘を直ちに文字に寫し得る道理なり、然るに實際は之に反し發音と綴字の間に一定の關係なく同字にして異音なるあり異字にして同音なるあり到底發音のまゝにては其綴字如何を測定す可らず、されば前に云へる如く一字の意義を知りたりとて安んず可らず、アクセントのいづくにあるかを知り且つ其綴字を學ばざる可らず、要するに意義、アクセント、綴字の三面を同時に學ばざれば、一語の完全なる知識を得たりと云ふべからずされど元より象形文字の如きものならねば、漢字を學ぶ困難とは同一にあらず些少の勞苦を辭せざれば綴字を覺ゆる事難きに非るべし、要するに一語を學ぶ毎にアクセントをさぐると等しく其綴字を一通り調べ發音といちじく相違せるものは特に注意して練習すべし。

こゝに綴字の不規則なる數例を挙げ、特に注意を促がし置くべし。

一、同一なる發音を有しながら綴字意義も全く異なるものあり例へば peel (皮は剥く) と peal (轟く) は共にピールと發音し rime (霜) と rhym (韻字) は共にライムと發音す、かゝる例少からざる故發音よりして綴字又は意義を速斷す可らず。

二、綴字全く同一なるにもかゝらず意義の相違を示す爲發音を異にすることあり例へば wound は「怪我」の時はウウンドとなり「捲きたり」の時はワウンドとなり bow は「弓」

發音と綴字

の時にはポーとなり「叩頭」の時はパウとなる如し、又發音の變化換言すれば、アクセントの所在變るによりて動詞より名詞又は形容詞に轉ずるものあり假へばプログレ^スス (progress 進歩する) は「進歩」と云ふ意味の名詞となればプログ^レスと發音しアブ^セント (absent, 留守にする) は形容詞となればアブ^セントと發音するが如し、發音異なりとて必らずしも綴字異ならざるを知るべし。

三、綴字、發音同一にして意義の相違せる語ありローズ (rose) は「薔薇」の事ともなり「起上りたり」の意味もありソック (sock) には「岩石」の義もあれば「揺れる」と云ふ事にも用ひらるゝなり。

四、全く發音せざれども綴字には必らずあらはるゝ字あり、是等は最も注意して修得すべし、例へば gh の如きは語中にありて大抵發音されず、kn の二字連なりて語の頭にあれば k は發音されず (例; ナイフ, knife), 一熟音の語にして其中の母音が長音なる時は語尾の e は發音せず (例; カイト, kite, ゲート gate, 門口); 尙かゝる例は數多あるべし是れ最注意して修得すべきものなり。

五、英米兩國によりて同語にして綴字を異にするものあり重なるものを下に掲ぐべし。

發音	意義	英國の綴り方	米國の綴り方
リ—アライズ(實現する)		realise	realize,
ユ—ティライズ(利用す)		utilise,	utilize.

英語活用寶函

此米國にて s を z と綴る語は尙多しこゝには其二例をあぐ。

レバー(労働) labour, labor.

英國にて u を入れて綴る語を米國にて省く例多し。

トラヴェラー(旅人) traveller, traveler.

フルフィル(成就する) fulfil, fulfill.

リコール(呼び返す) recal, recall.

センター(中心) centre, center.

ミーター(米突=尺の名) metre, meter.

マヌーヴァー(演習) manoeuvre, maneuver.

以上は不規則なる方面より綴字の事を述べたるが是より邦人の誤り易き綴字を數個指摘して特に注意を促さんとす。

一、con, com, im, in, syn, sym. 等の接頭語を以て始まる語を綴るにあたり此接頭語の語尾の m, n を誤る事多し、かゝる折は、次に來る文字を以て識別せざる可らず若し次に來る文字が m, p, b ならば必ず、m を以て終るべく然らざれば n にて終るべし例を擧ぐれば

カムモン (common, 普通の) コンセント (consent, 承諾) イム
メンス (immense, 無限の) シムパスイ (sympathy, 同情)
シンディケート (syndicate, 企業家聯合) 等の如し。

二、ei, ie が共に i- とひやく故綴字を誤ること多し、此時は前に c なきや否やを見るべし、若 c ならば ei にして、然らざる時は ien なり、例へはリスイザー (receive, 受ける)

發音と綴字

ブリーフ (brief, 短かき) 等の如し、勿論多少の例外はあり。
三、語尾の tion を sion と混同する事多し、其前に母音ありてジョンと濁るか又は s; 或は n が來れる時は sion にして其他は tion なりと思ひ居らば誤ること少なかるべし
テンジョン (tension, 緊張) プロフェッション (profession, 職業) オケーション (occasion, 時機) 等を見て知るべし但アツテンション (attention, 注意) インテンション (intention, 意向) 等は例外なり。

四、二熟音の語にして第二熟音にアクセントある時、able, ed, er, ing 等を加へんとせば必ず語尾の文字を二重にして後にすることを忘るべからずリグレットブル (regrettable, 悲むべき) アドミットレグ (admitting, 許容せる) の如し。

四、語尾の發音相似たるが爲めに ce を se と誤りと誤り、entery を entary に綴り、cient, ciency を cent, cency に綴る事少なからず是等は發音よりして來れる誤なればかゝる語尾を有する語を見る毎に正確に其綴字を記憶せざる可らず。

五、子音若くは母音の二重に綴られたる語を誤り只一個の子音又は母音となして綴ること多しよく注意すべし、アンナイヒレート (annihilate, 絶滅する) エムバラス (embarrass, 當惑さす) サクセスジョン (succession, 継継) オケーション (occasion, 時機) インテリジェンス (intelligence, 聰慧) ディリジェンス (diligence, 勉勵) 等はかく誤られ易き語に屬す。

英語活用寶函

六、最後に本邦學生にして書取等の際よく綴り誤れる語を下に掲ぐ、元より十中の一二に過ぎざるなり。

ベツガ- (beggar, 乞丐) }
カレンダー- (calendar, 曆) } 以上三語は語尾の ar を er
グラマ- (grammar, 文法) } と書き誤る人甚多し。
プロナシエ- (pronunciation, 發音). pronunciation

とする人多し類似の誤なり。

フオーテ- (forty, 四十), forty とするもの多し尾是又類推の誤りなり。

チェンジ- (changeable, 不足の). changable とするもの少なからず。

カレ- (courageous, 勇猛なる). 多く e 又は o を脱す。

ス- (superlative, 最上級). l を略する事多し。

アイドラ- (idolatry, 偶像禮拜). tory, 又は idora とするもの少なからず。

プリー- (premier, 首相). pre を稍々もすれば pri と誤まる。

ガヴ- (government, 政府). n を略するもの多し。

アプロ- (approach, 近寄る). p を略すること多し。

ビュー- (beautiful 美麗なる). a を省き又 l を重ねるものあり。

ビギ- (beginning, 始まり). n を略し勝なり。

ボウル- (bowl 鉢) ball と誤りつゞる。

發音と綴字

バイサイクル (bicycle, 自転車) i, y を混同轉倒すること多し。

スィガレット (cigarette, 卷煙草) } 此二語は語尾の e をおと
コープス (corpse 屍體) } す事多し。

イムミ- (immediately 直ちに) }
コムプリー- (completely 完全に) } 是等は ly の

前に e をおとす事少らからず。

イムメ- (immense 夥しき) }
エキスペ- (expense 費用) } se を ce と誤りつゞる。

アンティ- (until, まで). l を重ねる事多し。

英語活用寶函

目次

英米國旗及其由來。

英米國歌。

例言。

發音と綴字。

第一章 偉大なる國民。……………1

大英帝國の殖民地。其本土。地勢と物産。都市。政治機關。英國民の特質。獨立自營。勇氣。誠實。耐久と保守癖。紳士と家庭の二語。平和的膨脹を國是とす。英語の系統。其發達。英語を何が爲に學ぶ。

第二章 住居のこと。……………17

家根。各階の稱呼。庖廚の有様。玄關の體裁。應接間其他。家具。窓。花鉢。寢具。暖爐の構造。邸宅と地所。借家住居。家屋什器用語。庭園及草花用語。

第三章 食事のこと。……………33

食事の時刻。朝食。晝餐。正餐。食前の祈禱。献立。食後。食後の祈禱。嗜好の飲料。正餐の案内狀。食卓上の作法十五箇條。食器及食品用語。食事に就ての會話。

第四章 身装のこと。……………54

起床と盥嗽。鬚剃と整髪。着衣。靴。帽子及手袋。男子の衣服。婦人の衣服。晴着。懷中小道具。衣服の注文。平時と盛装。時計、指輪、眼鏡等。洗濯。容儀服装上の注意六項。身装用語及用句。

第五章 冠婚喪祭のこと。.....70

群居を好むは人の性。國家。家族。父母兒女の稱呼。婚約。婚姻の手續。婚儀の服装。婚禮。蜜月。財産の繼承。誕生。洗禮。十六歳以後。家庭を組織するもの。奴婢。家系崇拜。英人の健康。疾病。施療。葬式。墓銘。家族稱呼。身體各部稱呼。疾病醫藥用語。健康に就ての會話。慶吊文例四題。

第六章 交際のこと。.....99

紹介の次第。紹介狀の書式。訪問の期日。玄關にての應答。初對面の挨拶。健康の問答。訪問の種類。告別の挨拶。應接間にての注意六項。名刺のこと。記入語句五種。名刺の置方。名刺授受の作法。交際用文例四題

第七章 歳時のこと。.....115

春季。夏季。秋季。冬季。濃霧。第五季節。スィリ、スィーズン。一般の天候。年代の呼び様。標準時。靜なる日曜日。耶蘇降誕祭。クリスマスカード。饗應。裝飾。ボクシングデー。バンクホーリデー。新年。其他の祝祭日。市長就任式。誕生日。年齢に就ての問答。歳時用語及用句。時刻に就ての會話。天候に就ての會話。

第八章 運動と娛樂。.....140

運動好の國民。運動の盛況。クリケット。フットボール。ゴルフ。庭球。其他の運動。各種の競技。拳術。自轉車術。氷滑。狩獵等。漕艇術と競馬。娛樂。演劇と音樂。劇場内の模様。演奏會。其他の娛樂機關。諸種の會合。運動娛樂用語及用句。

第九章 買物のこと。.....119

小賣商の名稱。製造販賣業及卸賣商の名稱。ストアのこと。勸工場のこと。市場。貨幣のこと。英貨換算表。現金取引と貸借。度量衡換算表三種。液體の量目及瓦斯、蒸氣力等の測定。廣告をつとむる國民。興味ある廣告抄録。商用單句。商用文例二題。買物に就ての會話。

第十章 交通のこと。.....183

乗合馬車。トラムズ。カッブ。交通の瀕繁。地下鐵道の嚆矢。列車の種類と名稱。客車の設備。切符。停車場。荷物の取扱。税關。發育の際の注意。簡易生命保險。海上の交通。旅館のこと。旅館にての食事。倫敦の旅館。下宿及貸間。汽車汽船用語及用句。馬車備入の問答。旅館にての會話。

第十一章 郵便電信等のこと。.....210

驚くべき瀕繁なる通信。倫敦市内の郵便集配。郵税の等差。爲替。普通電報及無線電信。電話。書簡封筒の

英語活用寶函目次

認め方。封筒に就ての注意七項。本文のこと。其様式
及注意五個條。其他のこと三項。

第十二章 俱樂部、料理店、新聞紙等の
こと。.....224

輕便なる午餐。俱樂部の組織。料理店。献立。牡蠣。
禁酒料理店。居酒屋。咖啡店。給仕への心附。新聞紙。
タイムズ。新聞の名稱と所屬黨派。夕刊又は週刊の新
聞。週刊、月刊雜誌。新聞雜誌用語。料理店にての用語。

第十三章 階級と職業。.....238

社會階級の最上層。ナイトとエスクワイア。プロフェス
ション。ツレード。職工。其他の重なる職業。婦人の
職業。附記三件。文官職名。公共團體及結社等。陸海
軍官職名。軍隊用語附英國の陸海軍。

第十四章 學校のこと。.....262

○學校の機關。普通教育。教師の資格。成績の考査。高
等教育。○大學の數及其性質。○大學の全科と其職員。○學
生の稱呼及び其日常。○學位のこと。○端艇競漕の景況。
○辨論の修練。○學資のこと。○高雅幽邃の二學郷。○倫敦大
學及其他の大學。○學校用語及用句。○教室用語。

附 録 英米歴史年表.....289

○ 英語人名集覽.....298

○ 英語地名集覽.....351

THE
THESAURS
OF
EVERY-DAY ENGLISH

英語活用寶函

鎌田稻川編

第一章 偉大なる國民

【大英帝國の殖民地】

渾圓球上、星羅棋布せる列國の中に、大英帝國(ブリティッシュ
ニムバイア The British Empire)といふがあり、太陽は英國
の領土に没することなし(The sun never sets on the British
Empire)と誇るが如く、げにや、彼は世界の最大帝國にし
て、其廣袤千百五十萬方哩、將に地球陸地總面積の五分の
一を占め、人口約四億一千万、殆んど世界總人口の四分の一
を有す、見よ二億四千萬の民を有する印度帝國(インディアン
エムバイア The Indian Empire)は彼の有なり、面積殆んど全歐
洲に匹敵する濠州(オーストラリア Australia)は擧げて彼に屬
し、南阿の一帶ケープコロニー(Cape Colone) ロデーシア
(Rhodesia)トランスヴァール(Transvaa)等より西の方スィー
ラレオネ(Sierra Leone)ガムビア(Gambia)黄金岸(The Gold
Coast)等皆彼の併呑するところ、加ふるに北米加奈太(The

Dominion of Canada) あり、ニューファンドランド (New Foundland) あり、西印度諸島 (The West Indies) あり、紅海の關門亞典 (Aden) を制し、地中海の咽喉ジブラルター (Gibraltar) を扼し、モルタ (Malta) サイプラス (Cyprus) は彼の前哨となり、エジプト (Egypt) の舊邦も亦彼の抱擁に甘んじぬ、彼は以上を打て一丸となし以て宇内に雄視するなり。

【其本土】

然らば此大帝國を統轄する本土はいかにと云ふに、歐洲大陸の西北に孤立する一群島に外ならず、面積全帝國の百分の一に過ぎざれば、我日本よりも小に、普魯西王國よりは更に小に、其屬邦新西蘭(=コーゼーラマン New Zealand)に比すれば僅かに其半部にあたるのみ、群島中最大なるをグレートブリテン (Great Britain) と稱し英蘭 (イングラント England) ウェールス (Wales) 蘇克蘭 (スコットランド Scotland) の三者を含み、其傍らにある第二の大島を愛蘭 (アイルランド Ireland) と稱し此二島と附近に散在する小島とを併せて聯合王國 (ザユーナイツドキングダム The united kingdom; U.K) を形成す、人口四千四百萬 (千九百七年調査) 南、ドーヴァー海峡を挟んで佛國と對峙す、海峡の廣さは僅かに二十二哩に過ぎずと云ふ。

【地勢と物産】

かゝる蕞爾たる小島より起りて世界の最大帝國となれる大

帝國民はいかなるものぞ、吾人は其性格を見る前に少しく其地理的叙述を試みんとす。

グレートブリテンの海岸は屈曲多く従て良港に乏しからず、グラスコウ (Glasgow) エディンボロ (Edinburgh) リヴァプール (Liverpool) ハル (Hull) ブリスル (Bristol) 等は其最たるものなり、内地は河川多く流勢緩にして舟楫よく通じ河口の沙洲も亦稀なり、かくの如く良港に富み河川の利めるは彼國航海の發達をきたし、海軍をして優勢ならしめ商業につとめしむるに與つて力あるなり、此國の産業は工業を主とし、農業は振はず、蓋し英蘭にもウェールスにも炭田多く且つ鐵の産出多ければ機械の動力を蒸氣となせる以來工業は駸々として進み富力を増進せること莫大なり工業中最盛なるは紡績業と鐵工業にして前者はマンチエスター (Manchester) 其中心となり、後者はバーミンガム (Birmingham) 其主都と稱せらる、其他リーズ (Leeds) ブラッドフォード (Bradford) は毛織物の製造地として名高く、ウルヴァーハムトン (Wolverhampton)、ニューカスル、オン、タイン (New Castle on Tyne) は共に鐵工にあらはれ、有名なるアームストロング (Armstrong) 卿の銃砲製造所あり、是等の地に用ふる鐵は皆國産にしてミッドランド (Midland) 地方最多額を産す、かく工業盛大なる爲、輸出品も自ら製造品多く綿糸、綿布、鐵器、刃物機械、羊毛、羅紗、石炭等其主位を占む。

【都市】

此國には都市頗ぶる多く數年前の統計によれば人口十萬以上の都市約四十七に及ぶとの事なり、而して此内の首位にあるは誰も知る國都ロンドン(Lyondon)なり、東西十四哩南北九哩人口五百萬に近く實に世界第一の都會にして商業殷賑、市街壯麗をきわむ、此都は始めリンデン(Ln Dyn; 河の邊)と稱せしが羅馬人來るに及びロンドンナム(Lōndinum)と改め、後アングル人(angles)サクソン人(Saxons)等相率ゐて來りブリトン人(Briton)を逐ふて東サクソン王國を建つるや、こゝを以て首府と定めぬ、今日のロンドンは此時に創まりしなり、アングル人等入りてブリトン人を逐ひ國を建てたるはおよそ紀元前四百四十九年より五百八十五年にわたれる事にして爾來漸次勢力を扶植し威武を四方に輝かし遂に今日の大帝國を建つるに至りぬ、即大英帝國の主腦は實に此等の人種の方にしてアングロサクソン(Anglo-Saxon)民族とは之を云ふなり、ロンドン以外の都會にはスイテイ(City)とタウン(Town)との差別あり、こは我國の市町村の如く人口等を標準とせず、市制免狀(スイテイチャーター City charter)を陛下より授けられたるもの及び大僧正の管區をスイテイ(City)と稱し其他をタウン(town)と呼ぶ、さればシェフキールド(Sheffield)の如きは人口四十五萬を有すれども尙タウンに屬しカンタベリイ(Canterbury)やヨーク(York)は小都會なれども大僧正こゝに居るを以て

第一章 偉大なる國民

スイテイ(City)と稱するなり、政體は世襲君主國(ヘレダイマキモノナキイ Hereditary monarchy)にして國王陛下統治したまふ、現國王陛下はエドワード第七世(Edward VII)と申し奉り、千八百四十一年十一月九日御降誕あり、千九百一年先朝ヴィクトリア女王(Queen Victoria)崩じ玉ひし故御踐祚あらせらる、先王は印度女帝(Empress of India)の稱號を帶ばせたまひし故今王も亦印度皇帝(Emperor of India)と各乘らせせたまふ、又皇太子殿下は千三百一年以來の慣例にてウエールス親王(Prince of Wales)と申し奉る。

【政治機關】

英國の議會はパルリメント(parliament)と稱し上院{アッパーハウス upper house, }と下院{ロウアーハウス lower house, }とより成り上院は六百人の議員、下院は六百七十人の議會(m. p. と呼ぶ member of parliament の略)を有す、議員は立法權を有すること言ふまでもなし、元來此國の主權(サヴレンテイ sovereignty)は國王と議會兩者の共有に屬すれども、實權はむしろ内閣(キャビネット Cabinet)に存し、其各大臣(ミニスターズ Ministers)は主要なる政黨中より撰ばれ行政權の運用に關しては議會に對し責任を負ふものとす、上下兩院の議員資格撰出はほゞ我國貴衆兩院と相似たり但上院の議長はロード、ハイ、チャンセラー(Lord High Chancellor)と呼ばれ議事中ウールサック(wool sack)と稱する椅子によるとや、下院の議長が議事中メース(mace)と

英語活用寶函

稱する飾杖を議院の卓上に置き權威の標章とする事などは此國の習慣にして他に見ざる所なり、下院議員は七年間の任期にして歳費を受くる等の事なし、植民地も亦各々政府と議會を有すれども印度のみは一部は本國の直轄となり一部は土地在來の諸王に服従し、其上に英國君主を代表する總督(ヴァイスロイ Viceroy) 又は ガヴァナー-ジェネラル Governor-General) ありて カルカッタ (Calcutta) に駐劄す。

本土を行政上の便宜より百拾七州(カウンティ County ともシャイア Shire とも云ふ) に分ち各州に ロードレフテナント (Lord Lieutenant) と云ふ職ありて行政を主宰し シェリフ (Sheriff) なるものありて數名の合審員 (J. P. と呼ぶ Justice of the place の略なり) と司法にあたり、州會(カウンティカウンスイル County council) ありて道路、警察、教育、衛生等州民の安寧に関する事をつかさどる、是と同じく スイタイ にも タウン にも市會(コーポレーション Corporation) の如き組織ありて同様の事を管掌す、之を組織するは市長 (メーヤー mayor) 參事員 (オルダーメン aldermen) 市會議員 (カウンスイラーズ Councilors) 之なり、尙司法權運用の爲に全國を五十五の(ディストリクト district) に分ち各區に地方裁判所 (カウンティコート Count Court) を設く。

【英國民の特質】

吾人は既に大英帝國の封域と、其統治の大略を叙し終りたれば、是より、そが經營者たる アングロサクソン 民族其者

第一章 偉大なる國民

の性格 (キヤラクター Character) を述べざる可らず。

【獨立自營】

彼等の特質の第一は自營獨立の氣象旺盛なる事これなり蓋其殆め彼等の祖先が獨逸 (ジヤーマン German) の平原を去つて今日の英國に入るや氣候陰鬱、土地瘠薄加ふるに敵人四方を窺ふあり彼等此間にありて天然と戦ひ人力を盡し而して、遂に優勝の地位を占め得たり、即ち奮闘努力は、彼等の生命にして、何物をも征伏せずんば止まざるの意氣は、既に其時に養はれたり、此遺血を繼承して、彼等は今日の偉大なる英國を建造せり、従て彼等は自國を崇拜すること驚くべく、又自己を尊ぶこと著るしく、國は英國、人は英人を第一位と信じて疑はず、されば他に法律を授くる人(ロウギヴァース lawgivers) たれども他より支配を受くることを好まず他國人に對して「如何にも英國的なり」(so English) なりと云ふは極度の賞賛を意味し英國製 (イングリクシ-メイド Englishmade) なりと云ふは最良の物品と同義に用ふ、若し已のものなれば禿頭も鷲鼻も無上と心得居るとは極端の評言なれど又以て彼等が自恃主我の氣象を見るに足る、即各其信ずる所を行ひ、思ふ所を言ひ皆自家の特色を持して曾て雷同附加することなく所謂無數の人格ノ國民 (people of myriad personalities) にして 一言之を評すれば (彼等の各々は一個の島嶼なり) (in snort, every one of these is anders is an island himself Emerson) なり、實に不拔の信念を有し確固た

英語活用寶函

る行動を爲すは此國民の最貴むべき特質なり、彼等は此意氣を以て天下に濶歩し以て自國の勢力を開展し自家の運命を開拓す、これを偉大なる國民とせずしていかにか評すべき。

【勇氣】

自營獨立の氣象此の如く旺盛なれば、從て彼等の、すべては、勇氣滿溢の概あり、運動は老少を通じて最愛好し冒險は好んで彼等の爲すところ、印度に虎を狩り、亞弗利加に獅子を捕ふるは尋常茶飯事に過ぎず、體格強健膂力強く頑は驢馬の如く猛は闘犬の如し道に當る艱險は彼に取りては却て好刺戟のみ (Obstinate as a mule, stubborn as a bul-dog, the difficulties in his path will but act as incentives, to him-Max O'rell.) 此の如き勇氣あり、故に彼等の英國民たる自負心 (ナショナルプライド national pride) は多く現實にされ、彼の威嚴 (ライグニティ dignity) は曾て傷けらる事なし。

【誠實】

彼等の第二の特質とすべきは誠實の念に強きこと是なり、彼等の最も賤しむものは虚言者 (ライアー liar) なり、故に常に時間を確守し (パンクチュアリティ punctuality) 責任を重んじ (インテグリティ integrity) 日常の交際にも自家の業務にも此主義を遵奉してやぶらず、正直は最上の政略 (Honesty is the best policy) を金科玉條とす、彼等の商業が世界に發

第一章 偉大なる國民

展せる所以もまたこゝに基づけるなり、されば表裏なくお世辭なくどこまで眞面目なり誠實なり、見よ紹介狀を書くとも其紹介狀たるは他國の如く形式的にあらずして神聖なるもの (introduction are sacrament) なれば紹介者は責任を負ふて之を授く故に紹介狀を持參せずして英人を訪問せんか彼等は憤然とし之を我家より逐ひ返すべく、之を持參せば親切に取り扱ひ直ちに打解け其家族と親友となるに至るべし、且つ無用のお世辭は絶対に排斥し各々自家の信ずる所を言ひ他人の意向に面従する事を粧はず、彼等は敢て否 (No) と云ふ、然れども其否は他の然り (イエス yes) よりも遙かに信ずべき言葉なり、同時に他人が己に對し否と答ふるとも更に怒らず、(寧ろ雷同的の然りより) は自のものたる(否)を喜ぶ (They like the sayers of "No," better than the sayers of "yes." -Emerson). されば一見甚近づきがたく傲慢なるが如くなれど、一たび交際を結べば虚言なく表裏なく頗ぶる愛す可きを知る、彼等は妄りに笑はず然れども其笑ふは眞に笑ふなり、彼等は妄りに語らず然れども其語るや口頭にあらずして、全身を以て話す (The Englishman speaks with all his body). 蓋し國民としては、最も信用すべき國民と云はざるを得ず Max O'rell 評して曰く英人の信を重んずることは褒め様もなし、(It is impossible to admire too much the confidence of the English.)

【耐久と保守癖】

空言を厭ひて實行を貴び、僥倖をもとめずして、勞力を貴む故、いさほひ、彼等はすべてに耐久質實ならんことを欲す彼等が食物を見よ多量の牛肉、大塊のブディング、濃厚の黒麥酒は其普通の餐にあらずやマホガニー(mahogany)の堅牢なる食卓、羅紗の厚き上衣、堅牢なる長靴、是れ彼等の好む服装にあらずや、一切の事、皆此の如く耐久と堅牢とを愛し脆弱にして外見の美麗なるものを排斥す、思ふに彼等が頗る保守癖(コンサーヴァティブ conservative)を有し、容易に他にうつらざる點も一は自尊の念の發現ならんも亦久しきを愛し新奇を喜ばざる性格の反影なるべし、蓋し彼等が儀式、家例を重んじ、舊慣を愛し、古畫器物を蒐集する等は、よく人の知る所ならん。

【紳士及家庭の二語】

人は言ふ、英國特有の言語に二あり一は ジエントルマン (Gentleman) にして他は ホーム (home) なり此れと全く同意義の語は他國に見出す能はずと言ふ所の ジエントルマン とは、品性高雅にして體格強壯、相當の教育と富と且つ政治上の意見を有するものを稱し、我國にて富と位置さへあればひとしく稱して紳士と云ふとは其義同じからず、而して ホーム 即ち其家庭は最も趣味あるものにして慰安と平和の本源たり エマーソン の云へる如く、國民は各々の島嶼なるが如く、國家に對して家庭は又各々の島嶼なり、家庭の獨立と特權を保護するは彼等の目的にして、趣味慰安の

第一を家庭に求むることも亦他國に見ざる處なり、元來英人は繁殖力強く人口は年々に増加し來る故彼等はいづれが國外に出て、活動せざる可らず、されば彼等は天涯萬里瘴烟深き南阿の地も、白雪、天地を鎖す アラスカ (Alaska) の一角も、⁽⁴⁾ さながら隣家に到るが如く、隨所に移住し、其移住するや必ず、樂しき ホーム (家庭) を提げて去る、既に慰安の中心と共に移住するが故にいづれとして已に適せざるは無く南洋北陸到る所我郷の感を爲し、悠々自適、其業を勵み自家の運命を開拓す、即飽くまでも世界を家とするものにして地球の四隅に安んじ暮らす (Cosmopolitan in the highest degree, he is at his ease in the four corners of the earth) の趣あり、英國の膨脹はかくの如くしてなれるものにして ホーム は英人の特質を最體現するものと云ふべし。要之、英人は獨立獨行已を恃むて他に頼らず誠實を愛し實行を貴び、勇氣に満ち冒險を好み活動を生命とし耐久功をを期し重厚にして氣品ある國民なりと云はざる可からず、吾人は偉大なる英國の領土を見て其富強を羨めども英國の大は政府の力之を致せるに非ず個人の品性より獲たる産物なり個人活動の痕跡なり蓋印度大帝國の征服も其實東印度會社の一書記 クライブ (Clive) の手より始まり南阿聯邦の完成も大夢想家 (グレートドリーマー - great dreamer) と稱する セシル・ローズ (Cecil Rhodes) の頭に企てられたるものなるを知らば之を疑ふものはあらざる可し。

【平和的膨脹】

最後に述ぶべきは彼等の膨脹は頗る平和的なること之なり、彼等は元來戰鬥に勇なり、然れども其戰ふや、佛人の如く名譽の爲に戰ふにあらず、獨人の如く生活の爲に戰ふにも非ず、又露西亞の如く國民の注意を外に向はしめんが爲にもあらず、貿易を進め世界の平和を保ち人類一般を益せんとして戰ふ、彼は至る所に己の領土を獲たり、然れども他國民を征伏するは是其現在の狀態を改良し來世の福祉を得せしめんがためのみとす之を以て大英國民が膨脹的慾望を滿たすの好辭柄となすなかれ、西班牙は曾て殆んど新世界の全部を領有せり、然れども彼は自ら利するのみにして他を益するの念なかりしかば悉く失ひて今や衰殘の一老邦となりぬ、露西亞は其驚悍の蠻力を揮つて大なる飛躍を企てたり、然れども内には上下相闘き禍機いづれの時に發するか知る可からず此の如くして堅實なる國家と稱すべきや、英人、此の如き大をなして而して失ふ所未だあらず、彼が統御宜しきに適ふは勿論彼が平和的膨脹者たる所以にあらずして何ぞや、個人として吾人は英人に學ぶところ多きと共に、國家として彼に私淑する所なかるべからず、偉大なる國民なるかな。

【英語はテュートン語に屬す】

上來ほゞ英國と英人とを説けり、茲に少しく彼が用ふる國語に就て語らざる可らず。

言語學者は云ふ英語はテュートン語 (Teutonic Language) の系統に屬し和蘭語 (Dutch) 獨逸語 (シヤーマン German) ゴツス語 (Gothic) 丁抹語 (ダニッシュ Danish) 等も近親の關係を有し其構造語尾の變化相似たるは論なく、語を連結するの法も亦相似たり従て彼等は皆大古同一地域に住し、同種の言語を話せる者にして時代の變遷により諸方に分派し然る後各自の發達を遂げたる者と見ざる可らずと、此説多くは眞なるべし、ちよそ國語の發達を見るに始めは同一の語を話せる民族も漸次繁殖して四方に離居するに至り、山澤の形勢、交通の隔絶、因をなし、漸次言語に差異を生ずるに至る是を方言 (アイアレクト dialect) と稱す、而して此方言は更に發達し各々其文學を有し其歴史を有するに至り獨立して一個の國語 (ランゲージ language) と成ること言語發達一般の徑路なり、今日の英語が初めテュートン種族の言語中に生れ、アングロサクソンの用ふる方言となり一轉して今日の英語に發達し來りしは疑ふ可くもあらず。

【其發達】

歴史を案ずるにアングル人 (Angles) サクソン人 (Saxons) がブリトン人 (Britons) の救援を名としてイングランド (England) に入りし時はブリトン語即セルティック (Celtic) 語の一派が此土に行はれたる事論なし、然れども漸次アングル人サクソン人はブリトン人を驅逐し、イングランドを取りて、邑の有となせしにより、漸次、セルティック語は地を

拂ひアングロサクソン語國內に行はるゝに至りしならん、蓋サクソン國 (Saxon Kingdom) 建ち、英主エグバード (Egberd) 四隣を一統せしは紀元八百二十七年なれば此頃よりアングロサクソン語は、英國々語の起源をなせるなるべし、然らば此後變化なきかと云ふに、決して然らず、種々の變遷により次第に他國語侵入し來りいちじるしく、複雑なる國語となれるなり、其一二をあぐれば、千六十六年に佛國ノルマンディ (Normandy) 公ウキリヤム (William) 大軍を率ゐて此國に侵入し國王ハロルド (Harold) を亡ぼし、自ら王位に即きしより、サクソンの文字一時地に落ち十一世紀より十四世紀の半ばまで、教會、法廷、政治社會は全く佛語 (French) のみ用ひたる事もあり、又デーン人 (Danes) の入寇によりデーン語 (Danish) 夥しく英語に混入せるもあり又文藝復興 (リネサンス Renaissance) てふこと、十五世紀より十六世紀に亘りて起り、羅馬希臘の文學復興せるにより是等の古文學の影響を受けあまたの拉典語 (Latin) 希臘語 (Greeke) 大に混入せるもあり、且つ、國民の膨脹に従ひ、各國の國語同化されて、英語に編入せられたるも尠ならず、ある人の説によれば英語は約四萬三千語より成れる、其中二萬九千語は拉典語より來り、しかも此内大部分はノルマン語脈を経て英國語となり、一萬四千語は本來のテュートン語より出づと兎に角英語は多種の國語を包容する複雑なる國語なりと知らざる可らず、然れどもアングロサ

クソンの語脈は一系連綿今日といへども變ることなきを記すべきなり、其綴字も亦最近二百年間殆んど變化なしといへども、只た必ず發音の變遷せる爲文字と發音の關係甚不規則となり愈々複雑の觀を呈するこそ是非なけれ、尙序に知べきは今日標準英語 (スタンダードイングリッシュ Standard English) と云ふは必ずしも正系に發達せるアングロサクソン語を云ふにあらずこれ亦英語中の一方言にして千三百五十年頃オックスフォード (Oxford) やケムブリッジ (Cambridge) 大學の所在地即イーストミッドランド (East Midland) 地方の方言たりしもの、其後ロンドンに廣がりチョーサー (Chaucer, 1346—1400) をはじめ倫敦の大文豪之を用ゐたるにより遂に標準英語と呼ばれるゝに至りしなり。

【英語を何が爲に學ぶや】

却説、英國民が世界に雄視し、其殖民地は天下に遍ねく其商業は至る所に行はるゝは既に説けり、然らば吾人が今日英語を學習していかなる利益を受け、いかなる貢獻を社會に爲すべきかは敢て言を要せざるべし、然れども英語學習の必要は單にこゝにとゞまらず、吾人は之を通じて、偉大なる國民獨得の美性を學び其優所を體得せざるべからず、即實務 (ビズィネス business) の爲に學ぶと共に人格 (キャラクター character) の修養に資する爲にも學ばざるべからず、況んや彼には豊富なる文學あり、こゝに世界の偉大思想を含み人生必須の教訓を包む、此無盡の寶庫を開くも亦英語てふ關鍵

(キ=key)によらざる可らず英語の用豈又此他に喩々するを要せんや。

吾人は是より衣食住諸般の事にわたり英人の生活状態を仔細に観察せんと欲す、各章句末に添ふる所は、各々其所説の事項と関連せるもの、其事を知ると共に所用の語句を學ばんが爲なり、茲に一言すべきは、本書の内容多く英國に偏して其同胞たる米國に疎なるは稍嫌らざる所ならんもそは他の理由あるに非らず、均しく是れ英語國民なり、均しく是アングロサクソン民族なり、そのかみ英人の一部別れて米洲に移り、一大革命を経て新邦家を形成し、今日に於ては英と云ひ米と云ひ、正しく對峙の雄邦なれども、其本來を尋ねれば僅かに一の英國殖民地たりしのみ、且つや建國以來、未だ百四十年に満たざるの新邦、固定せる風俗習慣もあらざるべく、些末の點に於てこそ異同あれ大體に於ては一を推して他を知るに足らん、故に英國を主として米國に及ばず、僅かに小節に於て其異同を指示せるにとゞめたり。

第二章 住居のこと

上は雲を凌ぐ王侯の住宅より下は僅かに雨露をふせぐ賤が伏屋に至るまで、貧富貴賤により人の住居にも様々の區別あることいづれの國たりとも異ならず、こゝには先づ英國中流人士の住居を擧げて概略の模様を明らかにすべし。

【家 根】

住宅は木造のものもあり、練瓦 (ブリック brick) 造りもあり、又砂石 (サンドストーン sandstone) にて建てたるもあれど屋根 (ルーフ roof) は一様に石盤石 (スレート slate) にて葺くが如し屋上には數個の煙筒 (チムネーポット chimney pots) 聳ゆる外、風見 (ヴェーン vane 又はヴェーザーコック weathercock) 或は避雷計 (ライトニングコンダクター lightning conductor) の設けあり屋根の周圍に樋 (ガツター gutter) を繞らし之に溜れる雨水は壁に沿ふて設けたる筧 (スパウト spout) を通じ地上に放下せらる、屋根は扁平なるもの多けれど稀には尖れるもあり、家屋の前面は大抵ファセード (facade) と稱する一種の建築法を用ひ高さ張り出し椽 (バルコニー balcony) ありて其下は立關なり。

【各階の稱呼】

家屋は數階より成る、最下をグラウンドフロア (ground floor) と稱し次をフワーストフロア (first floor) と云ひ最上層をトップフロア (top floor) と稱す尙屋根裏にあたれ

る間をガレット (garret) と云ひ家根の尖鋭部の内側をロフト (loft) と稱す但米國にては呼び様を異にし、英國にて二階、(second floor) と稱するをファーストフロア (first floor) と云ふ、故に英國の三階 (third floor) が米國の二階 (second floor)、英國の四階が米國の三階にあたる義なり、是等の各階を、つなぐ階段 (スタイヤケース stair case) は普通十五段 (15 steps) より成り兩側に欄干 (バニスター-banister) あり、グラウンドフロアの下には更に地下室 (ベースメント basement) ありて、こゝは大抵臺所 (キッチェン kitchen) ながしもと (スカレリィ scullery) 食物貯藏室 (パントリー pantry) 肉類調理室 (ラーダ- larder) 酒庫 (ワインセラー wine cellar) 炭庫 (コールセラー coal cellar) に宛てらる、尤も手狭の家にては食物貯藏の室も肉類調理の室も區別する事なく兼用せらるゝ事多し。

【庖厨の模様】

臺所は光線のあたり宜しく、且つ寛濶に出来、後庭 (バックヤード back yard; 野菜など植へ附くる所なり) を覗き得る様になり居るが常なり、麵包を焼き、肉を炙る爲數個の竈 (オーヴン oven) を据へステーキ (stake) チョップ (chop) 等を作る爲め焙器 (グリッドアイアン gridiron) も備はり其他フライ鍋 (frying pan)、ソース鍋 (sauce pan) 炙肉架 (ロースティンクジャック roasting jack) 茶釜 (ティーケツドル tea kettle) 等種々排置され料理人 (クック cook) 此間を、急がはしげに、立廻りて

働らくなり、又食器架 (ドレッシング- dresser) には大皿 (プレート plates) 小皿 (ディッシュ dishes) 茶椀 (カップス cups) ソース入れ (ソースボート sauce boat) コップ (タムブラ- tumbler) 水瓶 (ジヤッガス jugs) 珈琲臼 (カフイー-ミル coffee mill) 鹽壺 (ソルトボックス salt-box) 鶏卵臺 (エツクカップス egg-cups) 等を陳ね其引出には炙肉用金串 (ラーディングピンス larding pin) 炙串 (スピッツ spits) ナイフ、肉刺、匙等を藏し戸棚 (カッパ-ド cupboard) には種々の甕類 (ポット pots) 鹽類 (タップス tubs) 籠 (バスケット basket) 手桶 (ペイルス pails) バケツ (buckets) 大甕 (ジャ- jars) 箒 (ブルーム broom) 秤 (スケール scale) 分銅 (ウェイト weights) 捕鼠器 (マウストラップ mouse trap) 等を收む又壁にかゝれるは皿蓋 (ディッシュカバー dish covers) 乳漉し (スキム- skimmer) 漏斗 (ファンネル funnel) おろし (グレーター grater) 篩 (スィーヴス sieves) 庖丁 (チヨツパーズ choppers) 俎板 (チヨツピングボード ckopping board) 等にして冷蔵室 (リフリゲレータ-ラーアイスセーフ refrigerator ice safe) は温暖の季節に葡萄酒麥酒肉類等を貯ふる様に供す。奴婢の平生生活するも亦此地下室にして肉屋 (ブッチャー butcher) 麩包屋 (ベーカ- bakery) 牛乳配達 (ミルクマン milk man) 青物屋 (グリーンegrocer) 等すべて庖厨用の物質を販ぐものは皆こゝに至る、尤彼等の出入は表玄関 (フロントド-ア front door) よりせずして勝手の小門よりし表玄関は家族又は來客の通行する所とするなり、家屋と敷石

英語活用寶函

(パーサメント pavement) との間は多量の空地を存し地下室への採光通風に便せしむ是をエアーリーア (area) と云ふ而して此周圍に鐵柵を繞らし庖厨に出入する小門は其一部に開かるゝものとす。

【玄関の體裁】

玄関に至り案内を乞ふにはベルを鳴らさざる可らず玄関のベル (bell) は二個あり右手のベルは來客の爲めに設け左手のものは使者として來れる從僕等の爲に設くるものと云ふ、ベルを鳴らして案内を爲すにも自ら規定ありて混同を許さず即ち郵便配達は二度鳴らすべく電報配達は三回普通の訪者及家族は少くとも五回連続的に鳴さざる可らず但家族は玄関の鍵 (ラッチ key) を携へて外出する事多き故さるときは特にベルを鳴す必要は生ぜざるべし、ベルの外にノッカー (knocker) と稱するものあり、こは玄関の戸の真中に附せる掛釘様のものにて之を叩ひて案内するものとす、ベルに近代風のものなれば保守的人はむしろノッカーを愛し依然玄関に備ふるにベルを以てせずノッカーを用ふる人も少くならず。

扱案内を乞へば聲に應じて玄関の戸開かるべし來客は先づ泥落 (スクレーパー scraper) にて叮嚀に靴の泥を落とし尙靴拭 (マット mat) にて更に之を清潔し屋内に入るべし(玄関に入るときに never mind a little mud など云ひて泥などはかまふかと主人より挨拶さるゝ事ありされどもそれは真にうくべきに非ず必ず清潔に拭ひ終るべし) 玄関口の廣間は普通ホール (hall) といへど狭長なるときは

第二章 住居のこと

パスセージ (passage) とも云ふこゝには傘置臺 (アムブレラスタンド umbrella stand) 帽子掛 (ハットラック hat rack) 大鏡 (ルッキングスタンド looking stand) 備へ附けらるゝ時あり、又此數者を兼用せるホールスタンド (hallstand) といふもの置かるゝ時あり尙珍らしきはこゝに銅羅傑のものを吊さるゝを見る事なり、こはゴング (gong) とて家族に食事の時刻を報ずる時打つものにして此外ある家にてはこゝに古風の大時計 (グランドファザースクロック grand father's clock) を掛け置くもあり。

【應接間其他】

玄関より大抵の家にてはパーラー (parlour) に通ず、パーラーとは佛語のパーロアル (parloir) より出でたるものにて、米國にては純粹の客間をかく稱し、英國にては家族の居間をも兼たる室をかく云ふ、手狭の家にては食堂をも兼用せしむる事珍しからず、親近の間にて訪問する時は大抵こゝにて接見さる、英國にて純粹の客間と見るべきは即ドロウイングルーム (drawing room) と稱するものにして、常に二階の表側の室を以て宛てこゝは家中にて最粧飾にも注意し數奇を凝らす様なり、元來ドロウイングルームと云ふは、もと婦人が食堂より退いて休息するところに宛てたるものにして「退出する」(withdraw) と云ふ語よりかゝる名稱起れりと云ふ、此この處をハーフランディング (half landing) 又はマガズィーン (magazin) と云ふ佛語にては entresol と稱し我國

英語常用寶函

の中二階とも云ふべしものなり、應接室の反對即裏側は浴室(bath)寢室(ベッドルーム bedroom)或は喫烟室(スモッキングルーム smoking room)圖書室(ライブラリー library)等に用ひらる、二階は多く寢室に宛て其中の一室は、育児室(ナースリー nursery)とす、便所(ウォータークロゼット water closet, 略して w. c. と記す)は各階に設けらる、各室の壁は紙張多く而して應接間食堂にては水彩畫(ウォータークラズ water-colours)油畫(オイルペインティング oil-paintings)金屬版刷物(エッチングス etchings)等を飾り、床は臺所と屋根裏の室を除く外悉く絨氈(カーペット carpet)を敷詰め玄關には油布(オイルクロス oil cloth)又はリノール(レノール linoleum)を張ること通例なり但上流の家にては寄木細工(パークット parquet)の床を張りて豪華を誇るもあり。

【家具】

各戸水道(ウォーター water)と瓦斯(gas)とを引き、又電氣の設備(エレクトリックインストレーション electric installation)もありて便利云ふ可らず、備附の家具(フアーニチャー furniture)は他國の如く繊巧にして徒らに華美ならず、英人は一般に堅牢と重厚を旨とするが如し即食堂に檜(オーク oak)又はマホガニー(mahogany)の食卓、椅子等を用ふるは最其特質をあらはせるものなり、食堂は食卓の外寫字臺(ライティングテーブル writing table)長椅子(ソファ sofa)あり、寢椅子(カウチ couch)あり、敷物を附せる椅子(スタッフドチェア stuffed chair)裝飾又はぜんまい附の椅子(アツプホルスタードチ

第二章 住居のこと

アーム upholstered chair) 臂掛椅子(アームチェア arm chair) 安樂椅子(イーズイチェア easy chair) 揺り椅子(ロッキングチェア rocking chair) など適當に按排され、壁に沿ふて棚(サイドボード side board)を据へ上にはビスケット箱(biscuit box)と酒壺とを缺ぐことなし室の一隅には一臺のピアノ(piano)あり又姿見(ミラー mirror)の一面を見ざることなし。

【窓】

英國の窓は一種の古風のもの少なからず、こは窓框(サッシュ sash)をつけ上下に開閉するものにて其様佛國革命時代の刑具たるギロチン(guillotin)に類似する故ギロチン窓(guillotin window)の名あり且つ佛獨に行はるゝ窓の如く蝶番にて開閉せず窓框にはめ牽綱(プリー pulley)にて任意に上下開閉する故サッシュウインドウ(sash window)とも呼ばる元來ロンドンは風強く戸窓の震動甚しき故俄然開閉して破砕さるゝ事すくなからず従てかてか、舊式の構造有利なる爲今も尙廢れざるものならん、窓には窓掛(カーテン curtain)の外内外二重の簾あり内側のものをローラーブラインド(roller blind)外側のものをアウターブラインド(outer blind)又はヴェネチアンブラインド Venetian blind)と稱す各々一條の紐(コード cord)にて隨意に上下するを得べし夜に入れば更に格子戸(シャッターズ shutters)を閉づ、こは木製にて窓の内側に裝置さるゝものとす。

【花鉢】

英語活用寶函

窓縁 (ウインドウシル window sill) には小やかなる植物鉢又は花鉢 (フラワーポット flower pot) を載せ食卓の上には陶製の瓶 (チャイナ China) 若くは硝子鉢 (ヴェーシズ vases) に生けたる百種の草花又は花束 (ブーケ bouquets) を飾り爐棚 (マンテルピース mantelpiece) には右の如き花瓶或は種々の玩具 (ニックナック knickknack) 又は時計 (タイムピース time piece) を安置す。

前に述べたる如く應接間是一家の中にて最善美を盡せる室なればいつれの家にて心を入れて裝飾し座にあるものをして快適ならしめる様につとむ壁に姿見 (ミラー mirror) を掛け卓子のまわりには長椅子寝椅子の外ラウンジ (lounge) と稱する無背の長椅子、セッティー (settee) と稱する有脊の長椅子、籐の椅子 (ケーンチェア cane chair) 等を順序よく安排す。

【寝具】

寢室には多少の裝飾あれど元より其主たる家具はベッド (bed) なり、英國の寢臺 (ベッドステッド bedstead) は大抵鐵又は眞鍮にて作り其上に先づぜんまい蒲團 (スプリングマットレス spring mattress) を敷き線鐵にて編める蒲團 (ワイアウーヴンマットレス wire woven mattress) か馬毛製蒲團 (ホースヘアマットレス horse hair mattress) を更に其上に敷き時には尙又羽毛製の蒲團 (フェザーベッド feather bed) を其上に重ねる事あり、寢臺の頭部には枕敷 (ホルスター bolster) あり、蒲團は敷

第二章 住居のこと

布 (シーツ sheets) にて其全部を包みかくて枕 (ピロー pillow) を据ふ、被ひり物には先づ敷布を覆ひ其上に一二枚の毛布 (ブランケット blankets) と床被 (カウンターペーン counterpane) を重ね寒氣強ければ尙此上に掛蒲團 (クイルツ quilts) を用ふるなり、寢臺の外、寢室に備へらるゝは洗面臺 (ウォッシュングスタンド washing stand) 水瓶 (ウォーターボトル water bottle) コップ、溢し桶 (スロップペイル slop pail) 衣裳机、衣服棚 (ワードローブ wardrobe) 抽斗附箆筒 (チェストオヴドロワース chest of drawers) 及數脚の椅子等なり、洗面臺上にはジャツグ (jug) 鉢 (ベシン basin) 石鹼入 (ソープディッシュ soap dish) ブラッシュトレイ (brush tray) 等すべて陶製のものを載せ衣裳机には鏡、手拭架 (タウエルホース towel horse) 又は (タウエレイル towel rail) を置き其手拭架には粗目のタオルと並のタオルと二枚をかけ箆筒の抽斗中にはシャツ (shirts) 前掛 (エプロン aprons) 襟 (カラー collar) カフス (cuffs) 靴下、下着 (アンダークロージング under clothing) 等を納む、

【暖爐の構造】

室を暖むるには常に鐵製又は陶製の暖爐 (ストーヴ stove) を用ふる國あれど英國にては臺所用に瓦斯ストーヴを見るのみにて室内を暖むるにはストーヴを用ひず皆爐 (ファイアプレース fire place) を備ふ、爐といふも我國の如き構造にあらず、壁に添ふて設けたる竈形のものにて、後は煙筒 (スモーク flue) に通じ、夫より煙は上りて煙突 (チムニー Chimney) を

英語活用寶函

經、屋外に逸する装置なり、爐前にはフエンダー(fender)と稱し鐵、眞鍮又は土にて製したる低き勾欄様のものを繞らし、絨氈等に燃料の脱落するを防ぐ、爐に用ふる燃料は石炭(コール coal)なれど稀には薪を用ふる事あり、爐の内には鐵格子(グレート grate)ありて、こゝに燃材を置き火を燃やす、フエンダーの内には火箸(タンクス tongs) 十能(シヤガエル shovel) 火搔(ポーカー poker) 等の火器(ファイアアイアンズ fire irons) をアンダイアン(andirons) と稱する灸架様のものゝ上に備へ置き石炭は常にコールカットル(coal cuttle) に滿盛されて爐邊にあり、かゝる装置なれば夏時には一見陰鬱の感を催さしむる故其前を屏風(スクリーン screen) 又は帷にて覆ひ、或は大なる花鉢を飾りて陰蔽する様なり。

近時の建築にかゝる家にては、漸次此爐を廢し鐵管中に温湯を通せしめ此管を各室に導きて、室内を暖め又は地下室にて蒸氣を作り、之を各室に導き所謂スチーム(steam)にて暖を取る装置行はるゝに至れり、此スチームにて暖むる設備の中樞はカロリフィーアズ(caloriferes) と稱せらる。前述の如くいづれの家にてても中流社會は大抵瓦斯を用ふる故各室の天井より瓦斯燈架(ギヤスアリーアズ gasaliers) の吊されて數多の支柱(ブランチ blanch) と燈口(バーナー burner) の附着せるを見る、此頃行はるゝ廉價にして最光力強きはウエルスバッハ式白熱瓦斯燈(welsbach incandescent gas

第二章 住居のこと

light) にして殆んど電燈同様の光力を有し而かも普通の瓦斯力の半ばにて足るよしなり畢竟火焰を覆ふマンテル(mantel) の装置に基づくものなるべし。

【邸宅と地所】

ロンドン市内に住宅を構ふるものは大抵少許の庭園を擁するのみなれど近郊(サブアス suburbs) に住するものは概むね庭園の外多少の畑地を屋後に擁するが如し、何分人口稠密の都市なれば假令市内に住宅ありとも其家屋のみが主人の所有たるにとゞまり地所は皆大地主の所有に屬するものと知るべし即自由所有の不動産(フリーホールド free hold) ならずして借受所有權(リースホールド lease hold) を持するなり従て毎年相當の地代(グラウンドレント ground rent) を地主に向て拂はざる可らず。

【借家住居】

以上は中流社會の私宅の有様を叙したるものなるが一般の人士假令窮乏甚しからずとも悉く邸宅を所有するは元より能ふべくもあらず左れば一軒の家屋を借若くは數室或は一室を借りて住居するもの少なからず即前者は我國の借家人にあたり後者は間借りを爲す人に似たり扱借家人は一定の借家賃を二週間毎(quarterday or quarterly) に拂ふ規定にして間借の人は二種に別れ其種類によりて拂ひ方を異にす第一種と云ふは概むね家族を有する人にて一軒の家の一部分、言ひ換ふれば二階若くは三階にて連接せる數室(フラット

英語活用寶函

flat) を借り自身にて諸家具を備附けるものを云ひ、第二種は獨身の男女 (バチエラース bachelors 及びオールドメイド old maid) にして概むね寢具附の室 (フアーニツシドアパートメント furnished apartments) を借り住居するものを指す而して第一種の人、二週間毎に借家賃を家主に拂ひ第二種の人は一週間毎 (per week) 又は一月毎 (per month) に借家人 (テナント tenant) へ間代を納附するものとす、退去又は移轉 (leaving or moving) の際は一定の期日を定めあらかじめ家主若くは借家人の元へ通告 (due notice) を爲すべし。上流の縉紳に至れば宏壯なる邸宅若くは別荘地 (タウンマンション town mansion, 又はカンツリースイート country seat) を多く封建時代の城趾に構へこゝに常住するものあり更に轉じて最下の社會に至れば殆んど見るかげもなき茅屋に起臥して僅かに雨露を凌いで足れりとするものあり、然れどもかかる貧富の兩極端はこゝに細説するの要なければ省く。

家屋家具什器用語

これより掲ぐるところの單語は概むね本文中に洩れたるものか若くは吾人の日常用ふるものゝみを擧げたり以下各章皆然り

壁 ウォール wall.	押入 カツボード cupboard.
横板 スカーティング skirting (壁と床と接する所の横板を云ふ)	洋燈 lamp. ぼや lamp-glass 又は(chimney). かさ lamp-shade
棚 シェルフ shelf	燭臺 キヤンドルステイック candle
本箱 book case,	

第二章 住居のこと

stick.	塵取 ダストパン dust pan.
細線 フィラメント filament (電燈中の光輝を發するもの)	手桶 ペイル pail.
螺旋 スウキツチ swich.	水こぼし スロップペイル slop-pail.
マントル mantle.	薫滴栓 ツーシdouche. (浴室にあり)
火架 { アンダイアン andiron, ファイアドック fire dog.	肉羹鉢 スープタリオン soap tureen.
火箸 { ボーカ pokle, タングズ tongnes	肉杓子 スープレードル soup ladle.
石炭入れ コニルスカットル coal scuttle. (暖爐用)	樽 カスク cask.
煙筒 チムネー Chinee.	樽口 タップ tap.
煤袋 bag of soot.	漏斗 フアンネル funnel.
臺所 キツチエン kitchen,	塞子 バンク bung.
麪擀 ローリングピン rolling pin.	盥 タップ tub.
食器 ドレスカー dressnr.	水注 ピッチャー pitcher.
鞴 ベラス bellows.	倉庫 ゴーダウン godown.
篩 { スイフター sifter, ドレツシヤー dredger.	階上の物置 アテイック attic.
瓦斯煖爐 gas stove.	井戸 ウェル well.
藥罐 ケットル kettle.	納屋 バーン barn.
揚物鍋 frying pan.	厩 ステアブル stable.
龍頭 タップ tap. (水の出る口)	屋根板 シングル shingle.
酒精燈 スピリットランプ spirit lamp.	庇 イーヴ eave.
藥罐の口 スパウト sp ut.	橡側 ヴェランダ veranda.
蓋 リッド lid.	

英語活用寶函

廊下 { コーリダー corridor.
ガレリー gallery. }
欄干 レイル rail.
階級段 ステイア stair.
安樂椅子 { アームチェア arm
イーズイチェア easy
chair.
chair. }
足臺 フートスツール foot stool.
蒲團 クッション cushion.
寢臺 bed 敷蒲團 マトレス mat-
tress. 敷布 シート sheet. カスタ
- (寢台の脚につける小輪) caster
又は castor.
煙草箱 サイガボックス cigar
box.
灰落 アッシュトレイ ash tray.
顔洗道具 トイレットセット toilet
set.
小兒用寢臺 ベビスカッパ babys
cab.
乳飲器 (小兒用) ナースィングボトル
nursing bottle.

掛時計 クロック clock.
時計面 ダイヤル dial. 亞刺比亞數字
アラビック フィガ Arabic figure
短針 ショートハンド short hand. 長
針 ロングハンド long hand. 齒輪ホ
イール wheel. 振子 ペンデュラム
pendulum.
粗毛氈 ラッグ rug.
唾壺 スピット spitton.
金庫 { ストロングボックス strong. box
セーフ safe }
箆筒 { ビュロー bureau
チェスト オヴ ドロワーズ
chest of drawers.
簾 ブラインド blind.
竹簾 バムブスクリーン bamboo
screen.
呼鐘 ハンドベル hand bell.
蚊帳 モスキートネット mosquito-
net.
廁 { ウォータークローゼット water
ラヴァトリイ lavatory.
closet. W. C. }
便器 チェムバ chamber.

第二章 住居のこと

【庭園及草花用語】

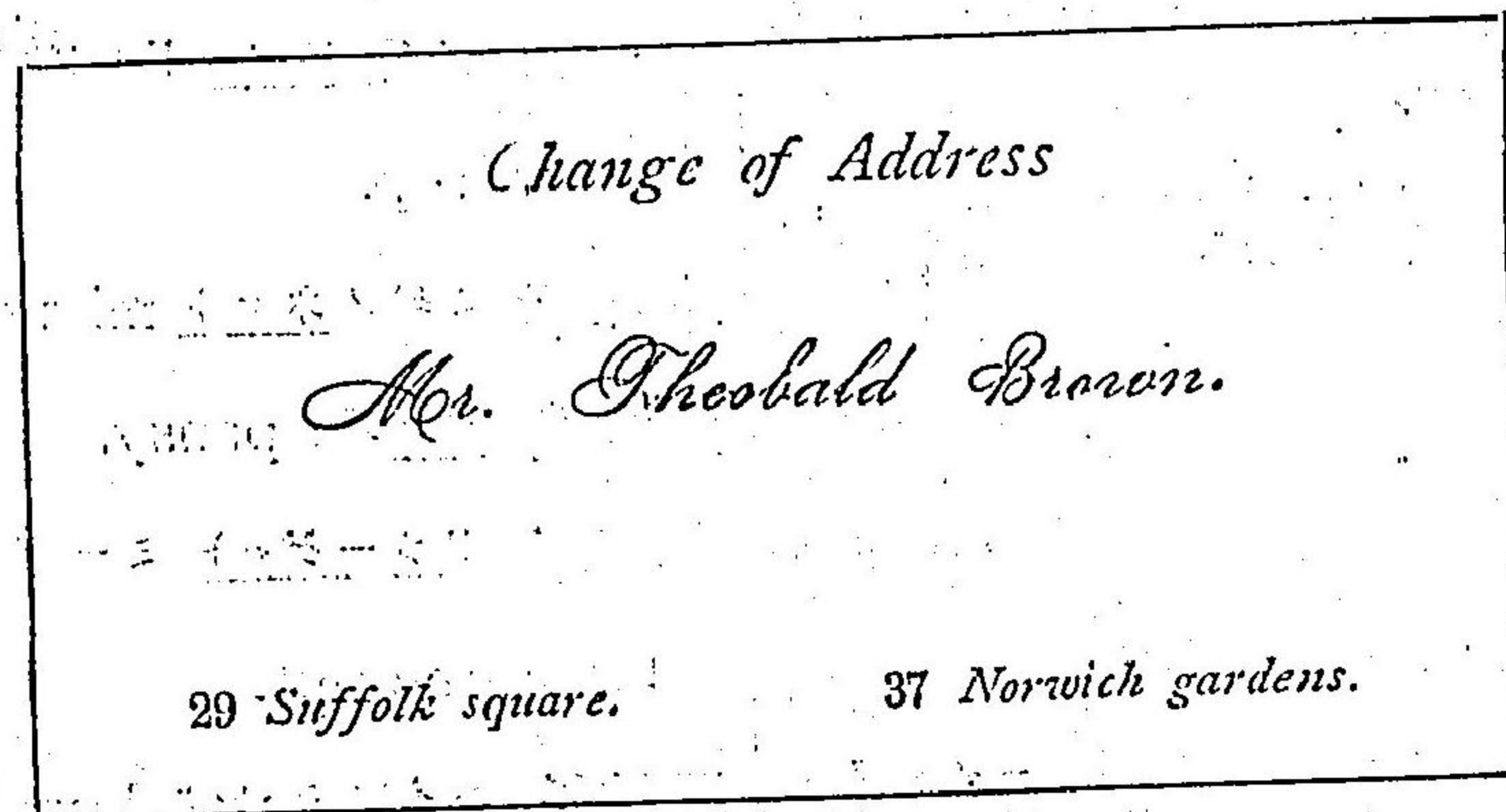
花園 フラワーガーデン flower
garden.
菜圃 キッチェンガーデン kitchen
garden.
温室 { グリーンハウス green house.
ホットハウス hot house. }
垣根 フェンス fence.
雑草 ウェーブ weeds.
ホイールハロー (一輪の耙) wheel
harrow.
熊手 ホー hoe. 草掻レーク rake.
鋤 { スベード spade.
シヤヴェル shovel. }
涼亭 { バウ bower.
サママーハウス summer house.
アーボア arbour.
パヴキリオン pavillion. }
芝生 { ローン lawn.
ターフ turf }
注露罐 ウォーターリソングカン
watering can.
生垣 ヘッジ hedge.
ずらん リリイ オヴザ ヴァレイ
lily of the vally.
常春藤 アイヴィ ivy.

さふらん クロカス crocus.
鬱金香 テューリップ tulip.
まつゆき草 スノウドロツプ
snowdrop.
木犀草 ミグノネット mignoette.
遊蝶花 パンズイ pansy.
勿忘草 フォーゲット ミー ナツト
forget-me-not.
風信子 ハイアシインス byacinth.
睡蓮 ウォーターリリイ water lily.
月桂樹 ローレル laurel. ジエレ
ニアム gennin.
水松 ユウ yew.
堇 ヴァイオレット violet.
櫻草 プリムローズ primrose.
錢苔 ライケン iichen.
薇薔 ローズ rose.
日まわり草 サンフラワー sun
flower.

(附記) 住居のことを記せる序なれば轉宅通知の様式を略記すべし、彼の國にては、轉宅する際には、知己朋友のもと

英語活用寶函

に、之を通知するに訪問名刺を用ふ、訪問名刺のことは後章交際の條に述ぶることとし、こゝには只轉宅通知の際の名刺の様式を下に示すべし。



即左方下部のアドレス (address) は自分従前の住居を示し、右方下部の分は新に轉宅するところを示すものにして左方の分は一筆抹消し置くべし、此名刺は自身持參して置くも宜しく、又郵便に附しても宜し。

第三章 食事のこと

第三章 食事のこと

是より食事の模様、食卓の作法等を述ぶべし。

【食事の時刻】

英國の家庭にては、大抵朝餐を午前八時乃至九時に、晝餐を午後一時乃至二時に、正餐を午後六時半頃に喫する事にし、尙其間、午後五時頃にティー (tea) と稱し點心様の簡短なる食事を爲すが普通なり、而して正餐 (ディナー dinner) と云ふは一日中最入念の獻立を備ふるものにして、日曜のみは是を以て晝餐に當つる故、日曜の晚餐はサッパ (supper) と稱するなり、尤中流の家庭にては平日も正餐を晝とし、上流の家庭にては之を夜とする傾向ある様なり、いづれにしてもディナーとは晝夜に拘はらず一日中最珍味佳肴多く食膳豊かなる時にして、正餐ならざる時の晝餐をランチ (lunch)、晚餐をサッパと稱するものと心得べし。

【朝餐】

朝餐 (ブレイクファスト breakfast) の膳にのぼるものは、大抵いづれの家庭も相似たるものにて、茶又は咖啡、燻肉 (ベーコン bacon) と卵、左もなくば魚類のフライ (fried fish) 等の數品に普通のパン又はバター附の焼麩包 (バタートースト buttered toast) を添ふるを常とし時には羊肉數片 (ムットンチョップ mutton chop) 燻腿 (ハム ham) 等加はり、砂糖漬の果物 (マーマレード marmalade) ジヤム (jam) も味はる、先づ朝餐

英語活用寶函

としては濃厚なるものなり、フライにする魚類は鱈 (カッド cod) 鯖 (マッケレル mackerel) 鯉 (ヘーリング herring) 等とす、英蘭又はスコットランド (Scotland) にはポーリッジ (porridge) と名づる粥様の食物を朝食とするもの多し、こはオートミール (oatmeal) を牛乳か水にて煮熟せしものと云ふ。

【晝 餐】

晝餐には犢のカツレツ (veal cutlets) 冷肉 (コールドミート Cold meat) 炙肉 (ステーキ steak) を喫し、尚チーズ (cheese) を晝餐の終りに必らず喫する習慣なり、此外鷓鴣 (パートリッジ partridge) 家兎 (ラビット rabbit) 野兎 (ヘア hare) らいちよー (クラカス grouse) の野禽、鶏 (チッキン chicken) 鴨 (ダック duck) 等の家禽も煮又は焼かれて膳にのぼり、煮又は焼きたる馬鈴薯 (ポテト potatoe) 漬物 (ピクルス pickles) 生菜 (サラダ salad) 等も亦食卓に連なる、上に冷肉と記せるは牛肉、(ビーフ beef) 羊肉、豚肉 (ポーク pork) 仔羊の肉 (ラム lamb) 等を含むものと知るべし、大抵晝餐の馳走は前日の正餐の残物を以て之に充つる事多し、晝餐の際の飲料は英人は大概水を用ゐる外人は葡萄酒 (ワイン wine) カビール (ビール beer) を用ふる様なり。

【正 餐】

正餐は前に述べし如く一日中の最重の食事故、上流の家庭に至るほど、中々に儀式立ちたる趣あり、時刻は午後六時

第三章 食事のこと

半若くは七時頃にして、鐘 (ベル bell) 又はゴング (gong) とて銅鑼様のものを鳴らすを相圖に、各々正装して着席す、此時婦人は必ず男子に案内されて食堂に入り来る習慣なり而して着席の順は先づ其家の主婦食卓の上座を占め主人は其對側に其他の客人家族等は男子は婦人を左にし婦人は男子を右にする様に着席するものとす、かくて正餐は始まるものなるが。

【食前の祈禱】

食事する前に、家族の一人祈禱を爲す恒例なり、祈禱の詞は次の如し、但こは來客等の前にての祈禱なれど其他の場合も大同小異と知るべし。

We give thanks unto thee our Father, the bountiful Giver of every blessing, for the food before us and for the pleasant association of friends. May we daily show thee gratitude for the many expressions of thy love, we ask in the Redeemer's name. Amen.

我々は我々の前の食物と朋友の樂しき團樂とにむかつてもろもろの恵みをゆたかに降したまふ我等の父なるあなたに感謝し奉る、我々はあなたの愛の多くのみしるしに向つて日毎に感謝をさしぐることをゆるしたまはる事を贖主の御名によりて希ひ奉る、アーメン。

【獻立】

正餐の獻立は滋味に富み費用をかけたる物多し、先づ第一にあらはるゝはスープ (soup) なり英國のスープは頗る濃厚なるものにて オックステール (oxtail) モックタートル (mock-turtle) 等にて製せられる事もあり、第二にあらはるゝもの (セカンドコース second course) は必ず、魚類にして鱈、鮭 (サーモン salmon) 鱒 (ツラウト trout) 比目魚 (ターボット turbot) 鯉 (カープ carp) 鰻 (イール eel) したびらめ (ソール sole) かます (パイク pike) テンチ (tench) フイティング (whiting) 等のいづれかを調味せるものとす、第三のコースは炙肉の大塊にして、大皿に盛りて卓上に運ばれ来る、是が正餐中の重なる御馳走なれば、調理にも殊に念を入れ、其脂づきたる光澤、かぐばして香氣、先づ垂涎を禁ぜざらしむ、此炙肉の料理は、英國の特長にて他國にては大抵一籌を輸すると聞く、材料は大方、牛肉なれど時には羊、鶏、豚、羊、等の肉を用ふることあり、さて此大肉塊現はるゝや主人夫妻か又は主婦の隣席の人、肉切りナイフ (カーヴィングナイフ carving knife) を執りてこれをよきほどに截斷し給住人に其皿をわたし列席の人に持ち行きて其撰むまゝに肉片を取らしむ、之と同時に水煮の野菜を同様に列席者に配らしむ、此野菜は少しく鹽を加へて水煮にしたるものなれば各自好める様にソース (sauce) 食鹽 (ソート salt) 胡椒 (ペッパー pepper) 酢 (ヴィネガー vinegar) 油 (オイル oil) 等を加へ加減して啖ふべ

し、是等のものは薬味臺 (クルーエットスタンド cruet stand) に載せて食卓の中央に据置かれあるなり、尙ソースの外に グレイヴィ (gravy) といふものあり是は肉を料理する際に取れるかけ汁にして同じく鹽梅の用に供せらる、此水煮の野菜に用ゐらるゝは馬鈴薯、甘藍 (キャベジ cabbage) 天門冬 (アスパラガス asparagus) 蔘蓂 (スピナッチ spinach) 人參 (カーロット carrot) 蕪 (ターニップ turnip) グリーンピー (green peas) スプリットピー (split peas) ビーン (beans) 等なり、第四のコースとしてあらはるゝは必ず其家自慢の プディング (pudding) か左もなくば パイ (pie) 或は タート (tart) なり プディング には プラムプディング (plum pudding) カビネットプディング (cabinet pudding) 水入りの プディング (ice pudding) 等種々あり、パイにも亦林檎パイ (アップルパイ apple pie) 櫻實パイ (チェリーパイ cherry pie) グースベリィパイ (gooseberry pie) 大黃パイ (ルーバーブパイ rhubarb pie) 等種類多し、扱以上の馳走終れば愈々最後のコースとして チーズ (cheese) の一片と デザート (dessert) 出つ、デザート とは最終の食品の意味にて大抵葡萄 (グレープ grapes) 芭蕉實 (バナナ bananas) 鳳梨 (パイナップル pine apple) 柑橘 (オレンジ oranges) 梨 (ペアー pears) 桃 (ピーチ) 無花果 (フィグ figs) 棗 (デーツ dates) 巴旦杏 (アーモンド almonds) 胡桃 (ナッツ nuts) 林檎等の果實若くは干菓子の類なり。

【食 後】

英語活用寶函

食事終れば卓上は奇麗に片づけられ只デザートデザートの皿と花瓶とのみ留まる事となる、此時葡萄酒、リカー酒列座の人の盃中に注がる、程なく主婦は席を離るゝ故是を相圖に一同席を去り客間へ入らざる可らず但男子は食堂にて喫煙を、ゆるされ居らば暫時居残りて葉巻 (cigar) を吸ふ事を得べし尤そは長き時間にわたるに非ず、スィガーの一本も吸ひ終る頃主人より (いざ婦人方と同席せん) (Now, gentlemen, shall we join the ladies?) と挨拶する故是と共に必ず食堂を退き客間に行かざるべからず、此際給仕は咖啡又は茶を運び來る故之を啜りつゝ、其後は談話に打ち興じ又は音樂唱歌に心を慰めつゝ一宵を楽しむことゝなるなり。

【食後の祈禱】

前には食前の祈禱の詞を述べたるが食後にも亦感謝の詞を神に捧ぐる習慣なり、後者をサンクス (thanks) と稱し前者をグレース (grace) と稱す、感謝の辭は通例下の如くに述べらる。

For what we have recieved, may the Lord
make us truly thankful. Amen.

只今賜ひしところのものに向つて主にまごるより
感謝したてまつる。アーメン

いつの食事にも食卓の諸事を取扱ひ食事の用意及び始末も爲すは客間附女中 (パニラーメイド parlour maid) の務なりされば食品の出づる前に夫々食品の排列をなしスーブの折

第三章 食事のこと

りには大匙 (スーブスプーン soup spoon.) デザートの折には デザートナイフ (dessert knife) 魚肉の折には フィッシュナイフ (fish knife) フィッシュフォーク (fish fork) と夫々道具を陳ね置かざる可らず此外普通の食刀 (ナイフ knife) 肉刺 (フォーク fork) は元より排列を忘るゝ可らず酒盃も夫々區別ありて赤葡萄酒 (ボルドー又はクラレット Bordeaux or claret) には赤色の盃、白葡萄酒 (ホック又はモーゼーニ hock or moselle) には緑色の盃と心得べく、薬味臺も鹽臺 (ソルトセラー salt cellar) も水飲 (タムブラー tumbler, 我國にて所謂コップなり) 大鉢 (デカンター decanter) も拭布 (ナプキン又はサーヴィエット napkin or serviette) も夫々調和よく且つ必要を見計ひ 鄭寧に按排せざる可らず。

【嗜好の飲料】

茶は英人一般の嗜好する飲料にして先づ國民的飲料 (ナショナルドリンク national drink) と云ふも不可なかるべし、恰かも大陸諸國にて咖啡を嗜むと同じく朝、晝、晩必らず一二椀の茶を喫するを常とすされど他國にて爲す如くラム (ram) アラック (arrack) 等の酒類を加味して飲用するに非ず英人は新鮮にして濃厚なる茶を愛し牛乳砂糖等を混和して用ゆれば食卓の上、主婦の前には必らず茶道具一式即茶碗 (ティーカップ tea cup) 乳壺 (ミルクジャック milk jug) 砂糖壺 (シュガーベースン sugar basin) 湯釜 (ホットウォーターケツトル hot water kettle) 茶壺 (ティーカッディ又はティーボックス tea caddy)

英語活用寶函

or tea box) 湯溢し (スロップベースン slop basin) 等据置かる
を見るべし、而して秘藏の急須 (テイクポット pot) は暖なる
覆布を以てつゝまれあるを見ん、こは茶の冷却するを防ぐ
爲めにかくするものなり、午後の喫茶の折には茶と共に二
三の食物を取る、即ち數片のバター附パン (ブレッツツンバター
bread and butter) か卷麩包 (ロール roll) 甘麩包 (パン bun
ビスケット biscuit) 輕焼煎餅 (マッフィン muffin) の類と砂糖
煮の果實、ジャム (jam)、みづたからし (ウォータークレス water
cress) をらんだみつば (セウリイ celery) の如き蔬菜なり最
田舎にては此際ミートティー (meat teas) 又はハイティー
(high teas) と稱して冷肉 (コールドビーフ cold beef) カツレツ
cutlets) 鶏卵、鹽鮭等を食し晚餐に代ふる事珍しからず。
喫茶の時刻は普通六時頃なれど、時に五時の喫茶 (five
o'clock tea) と稱するものあり、こは家族間の喫茶にあら
ずして婦人連の社交の一方法なりと見るべし他國の婦人連
が行ふ咖啡會 (カフイーパーティー coffee party) の如く友人相會
し懇親を結ぶを主とするにて別に事々敷飲食の設けあるに
あらず。

【正餐の案内狀】

正餐に人を招待する事は重なる社交の方法にして招がる人
人の名譽は勿論、主人たるものも充分注意を加へ粗漏なき
をかつむ先づ口頭にて招待するは言はず書面にて案内する
折は大抵次の如き書式なり。

第三章 食事のこと

來十月十五日木曜日午後七時より拙宅にて晚餐差上度
候間御令聞御同伴御枉駕被下度此段御案内申上候、敬
具(御返事願上候) 十月八日澁谷にて

Mr. and Mr. Y request the pleasure of Mr. and
Mrs. X's company to dinner, on Thursday, October
15th, at 7 o'clock.

(201 Shibuya, Oct. 8th.) R. S. V. P.

(R. S. V. P. は佛蘭西語の Réponse, s'il vous plaît. の略
字にてかく記さず英文にて The favour of an answer is
requested と文末にかきても同義なり) さて之に對する返
事は招待に應ずるならば次の如く認む。

本月十五日午後七時より晚餐の御招ぎに預り難有存候
仰せに従ひ參上可致候右御返事まで勿々、

Mr. and Mrs. X have much pleasure in accepting
Mr. and Mrs. Y's kind invitation to dinner on the 15th
inst.

若し都合の爲招待に應じ難き時は次の如く認む。

次の木曜日御晚餐に御招待被下候得共折悪敷當日は前
約有之乍残念參上致兼候間不惡御思召被下度右不取敢
御返事迄勿々、

Mr. and Mrs. X present their compliments to Mr
and Mrs. Y, and regrets that a previous engagements
prevents them from accepting their kind invitation

to dinner on Thursday.

いづれにしても末尾には 2 Ginza, Oct. 9th の如く當方の住所及日附を記すこと無論なり、以上は儀式的招待状 (formal invitation) の範例なれば一般の往復文とは稍々異なるに注意すべし、即ち第一、自他共に第三人稱を用ゐる代名詞を用ゐず且被招待者の名は夫れ丈にて一行の内におさまる様にしるすべく、第二、住所年月は普通の書翰文と反對に文末に記すべく而して其住所も簡略に記すべく、第三、招待状は二週間以前に發送され返事も亦之に應じ遅滞なく發せらるべく、第四、招待状は封筒裏面に夫妻の名を認め返事には封筒裏面に夫人の名のみ認むる様に注意せざるべからず。

【食卓上の作法】

是より正餐の折は勿論一般食卓の作法につき心得べきことを條項として述べ置くべし。

第一、正餐に招がれたる時は定刻より少し遅れる位に到着すべし、さりとして十五分を超ゆ可らず近頃の招待状には “at 7 for 7. 15.” としるせるものを見受くるが、こは正餐は七時十五分に始まれども七時に到着ありても差支なしの意味なり、すべて正餐に限らず食卓に着すべき時刻には遅滞なき様に心掛くべし時刻を厳守するこ (punctuality) は泰西にては重んずべき公德なり。

第二、正餐に列する折は男子は夜間禮服 燕尾服 (ツレスコート dress coat 又は スウォーローテイルコート swallow tailed coat)

を着け女子は ディナーズドレス (dinner dress) を着用すべし、又男子は白の襟飾黒又は白のチョッキ黒ズボンを着け手袋は穿つ可らず帽は勿論 シルクハット たるべし但玄關にて脱するか又は外套置場に脱し置くべし女子の服地は絹、縞子、天鵝絨、錦襦等をよしと頸部又は腕を露はずさ肘まで達する様に着裝すべし。

第三、正餐の折は婦人連の着席する迄男子は控へ居るべし招待の席にては主人夫妻より着席の相圖あるまで待たざる可らず着席の際は餘りに食卓に接近するも宜しからずさりとして遠ざかりすぎるも悪し大抵食卓と己の身體と二三時の間隔を保つ様に座す可し兩脚は椅子の方へ近づけ投げ出す様にす可らず他人の脚に觸るゝの恐あればなり、兎に角他人に迷惑を與へぬ様閑雅靜肅の態度を保つべし、一體に英國にて用ゐらるゝ食卓は長大なれば割合に窮屈は感ぜざる可し。

第四、ナブキンは頤の下に押し込み又は胸の上にひろく可らず軽く膝の上にひろげ食事終り席を離るゝとき卓上に置き行くべし。

第五、ナイフは右手に、肉又は左に握ることは誰人も既に知ることなれど肉又ナイフの用法を混同するは珍しからず注意すべき事なりナイフは單に食物を截斷する丈の者なれば之にて食物を口中に運び入るゝは見苦しきとなり必らず肉又にて運び入るべし、食品を喫し了れば其都度

皿の傍に肉叉もナイフも並べ置き次のコース来るを待つべし但全く食事終れる時には皿の上に載せ置くべし。

第六、麩麩はナイフにて截取可らず手にてよき程に割り然る後にバターかジャムかを付けて喫すべし始めよりパンの全面にバターを塗るは不作法なり、すべて麩麩に限らず食品はすべて程よく截りて食ふべし大なる截片を口一杯に頬張るは見苦しきものぞ。

第七、スープは匙の側面より吸ふ可きものにて頂端より吸ふ可きに非ず又之を吸ふに音をたつ可らず、すべて飲食するに咽を鳴らし舌鼓うつなどは全く彼國にてせぬ事なれば避けざる可らず、又急ぎ飲食するも宜しからず悠揚の態度にて爲すべし。

第八、肉を截るに臂を張る可らず臂は體に附ける様にすべし又食事するに頭を低れて皿に覆ひ被さる姿も避けざる可らず、姿勢は眞直にし、さりとして餘り硬直窮屈の様なき様にせざる可らず。

第九、魚肉を截るに普通のナイフを用ふ可らず魚肉の出づる折りには銀のナイフ添へある故之を用ふ可し、又野菜を匙にて食ふ事は元より非禮なるが肉叉にて食ふても之に載せて口に運ぶはわるし必らず貫ぬき食ふべし。

第十、魚の骨、果實の核などを口中より直ちに皿へ吐き出す可らず静かに肉叉に唇より移し然る後皿に置くべし尤果實の核は指にて取るも苦しからず。

第十一、口中に食物を含みながら他人と談話する可らず又隣席の人を差置いて其次の人と談話を交ふるも宜しからず殊に隣席の人婦人客なれば尙更非禮なりすべて彼國にては婦人を愛敬する様之を閑却せぬ様心掛くべし隣席の人の皿の上などに手をのばし藥味など取るも慎しむべしかゝる折は給仕のものに命ずるがよし。

第十二、楊枝 (ツースティック toothpick) をつかふ折は我國にて爲すが如く口を覆ひてすべし但長きにわたる可らず。

第十三、食事終るまでは恣に席を離る可らず若不得止離るゝ場合あらば御免下され (excuse me) と挨拶して後にすべし、食事終り婦人退席の時は已れば居残るとも一應は起立すべし。

第十四、前に述べたる如く正餐の際には衣を改めて列するが如く朝食の折りも晝餐の折も見苦しき服装や取亂したる態度を爲すべからず寢衣 (ドレスイングガウン dressing gown) のまゝや垢じき櫛けづらぬ儘などにて食卓に列するは甚だしく厭はるゝなり、同様に食堂より出づる際も注意して食品の爲カフス、カラ等の汚れざりしや脂肪蔬菜の屑片等衣服に附着しあらざるやを檢し汚點や不潔物の附着せぬ様清楚に保つべし。

第十五、大陸諸國にては公會の席に祝福慶賀の爲に酒盃を突き合せカキリと音さして後飲む習慣あり英國にてはかゝる事をせず、されど祝盃 (トースト toast) を擧ぐるは變

英語活用寶函

る事なし公けの宴會にては食事の終りに其席の長者立ちて「紳士」貴婦人諸君！國王陛下！(Ladies and gentlemen. His majesty the King!)と唱へ同時に列席の人も起立しつゝ此辭終ると共に乾盃す、時には「國王陛下」の次に「女王陛下並びに皇族各殿下！」(Her majesty the Queen, and the other members of the Royal Family!)と加へる事もあり、又食後の演説 (アフターディナースピーチ after-dinner speech) も行はるれど大陸諸國の如く冗長なる演説を爲すことなければ簡潔にして要領を得る様にするがよし。

以上にて食卓上の注意一斑を述べたれど尙洩れたる事もあるべし、兎に角「習より慣れよ」との諺の如くいかに平生活法に通じ居りても場慣れずば失策すること少なからず、食卓に就きて後は外人の爲すところ先輩の行ふ所を模倣し粗忽無遠慮ならぬ様にすれば可ならん。

上來述べ來れるところは多く彼國中流以上の家庭に於ける食事の状態又は食卓の作法等を標準とせるものなるが下層の社會に至ればいづれも同じく朝夕漸くの生計を立て居る故正餐として格別佳味あるに非ず、假令は炙肉 (ローストビーフ roast beef) 細截の羊肉 (ムットンチヨップ mutton chop) 肉入りのパイなどの一品と蔬菜少許を取り夫に加ふるにチーズ又はミルク入りのプディング位に満足する次第なれば餘は推して知らるべき也。

第三章 食事のこと

【食品及食品用語】

麵包	ブレッド bread.	割肉	ミンストミート minced meat.
焼麵包	トースト toast.	鶏卵	エッグ egg.
乾酪	チーズ cheese.	パイ	pie.
牛酪	バター butter.	プディング	pudding.
肉羹	スープ soup.	蔬菜	ヴェジタブルス vegetables.
肉類	ミート meat.	玉葱	オニオン onion.
犢肉	ヴェール veal.	馬鈴薯	ポテト potatoe.
羊肉	ムットン mutton.	塘蒿	セリイ celery.
豚肉	ポーク pork.	萵苣	レテュース lettuce.
腸詰	ソーセージ sausage.	胡瓜	キューカムバー cucumber.
鹽豚肉	ベーコン bacon.	蕪	ターニツブ turnip.
燻腿	ハム ham.	菽豆	ビーンズ beans.
カツレツ	cutlet.	甘藍	キャベジ cabbage.
オムレツ	omelet.	茶	ティー tea.
ビフテキ	ビーフステーキ beef steaks.	紅茶	ブラックティー black tea.
ステュウ	ステュードミート stewed meat.	チョコレート	chocolate.
フライ	フライドフィッシュ fried fish.	ラムネ (レモネード)	lemonade.
炙肉	ローストミート roast meat.	ミルク	milk.
煮肉	ボイルドミート boiled meat.	アイスクリーム	ice-cream.
		ブランデー	brandy.
		シヤムペーン	champagne.
		ビール (ビアー)	beer.

英語活用寶函

サイダー cider.	鰻 イール eel.
シエリイ sherry.	鯉 カープ carp.
ジン gin.	鰯 ヘーリンク herring.
葡萄酒 ヴイシ wine.	比目魚 フラウンダー flounder.
香料 スパイス spises.	鱈 カツド cod.
芥子 マスタード mustard.	鮭又は鮭 サモモン salmon.
胡椒 ペッパー pepper.	牡蠣 オイスター oyster.
食鹽 ソルト salt.	蛤 ラムフ clam.
肉醬 ソース sauce.	石決明 シーイーア sea-car.
酢 ヴィネガー vinegar.	雌鶏 ヘン hen.
果實 フルーツ fruits.	雛 チツクン chicken.
栗 チェスナット chesnut.	食用鳥 フアウル fowl.
杏 エープリカット apricot.	七面鳥 ターキー turkey.
桃 ピーチ peach.	雉 フェザント pheasant.
檸檬 レモン lemon.	砂糖 スユーカー sugar.
橙 オレンジ orange.	醬油 ソイ soy.
胡梨 ウォルナット walnut.	食臺 テーブル table.
鳳梨 パインアップル pine apple.	食臺掛 テーブルクロス table-cloth.
梨 ペア pear.	皿 プレート plate.
林檎 アップル apple.	皿 ディッシュ dish.
梅 プラム plum.	肉叉 フォーク fork.
青魚 マツケレル mackerel.	小刀 ナイフ knife.
鰯 サーディーン sardine.	

第三章 食事のこと

献立 { ビル、ホウ、フエーア bill of fare. メニュー menu.	茶碗 カップ cup.
栓抜 コークスクリュー cork screw.	盃 グラス glass.
指洗鉢 フィンガーボウル finger-bowl.	薬味臺 { クルエットスタンド cruet-stand カスター caster.
水呑 タムプラー tumbler.	酢入 ヴィネガークルエット vinegar cruet.
拭巾 ナプキン napkin.	芥子入 マスタードポット mustard-pot.
匙 スプーン spoon.	砂糖入 スユーカーベースン sugar-basin.
茶匙 ティールスプーン tea-spoon.	茶臺 ソーサー saucer.
大匙 テーブルスプーン table-spoon.	

【食事に就ての會話】

H. Host. 主人

G. Guest. 客人

主、お茶を召しあがりますか、 H. What will you have (or take), tea
咖啡にいたしませんかそれとも coffee, or chocolate?
チョコレートですか。

客、お茶をいただきます。 G. Tea, please, or I'll (i. e. I will) take
どうぞ咖啡を一杯下さい。 a cup of coffee, if you please.

主、お茶には砂糖とクリームを H. Do you take sugar and cream in
入れますか。 your tea?

客、どうぞ、お砂糖にして牛 G. If you please. — Only sugar, no
乳とクリームは入れずに願ひま milk or cream, please.
す。

英語活用寶函

- 主、バター付の焼パンを咖啡とお
一所におあがり下さい。 H. Will you(or Won't you) eat (or take;
have) some hot (or buttered) toast with
your coffee?
- 客、有難う存じますが、私はバ
ンと果實の砂糖煮が戴きたい G. No, thank you, I think I'll have
some bread and marmalade.
- 主、鹽豚肉と卵を差上げませう
か、それともハドック(鱈)にし
ますか。 H. May I send(or offer) you some bacon
and eggs, or some haddock?
- 客、有難う、どちらでもいたぎ
ます。 G. Thank you very much, I don't
mind which.
- 主、ハムと冷肉と干鰯がござい
ますがどれをお好みですか。 H. Here is ham, cold beef, and kip-
pered herring; which do you prefer?
- 客、どうぞ冷肉を一きれいた
かして下さい。 G. I think I'll trouble you for a slice
of cold beef, if you please.
- 主、よく煮たのが宜しいですか
又生煮にいたしますか。 H. Do you like the beef well done or
underdone?
- 客、生煮の方をねがいます。 G. I prefer it underdone, please.
- 主、ダーリングさん、そうめん
入りのスープとグレーヴィとど
ちらが宜しいです。 H. What soup may I sent you Mr.
Darling, vermicelli, or gravy?
- 客、有り難う、どうぞグレーヴィ
を少し下さい、ほんの少しねが
います、私はとんとスープを戴
きません。 G. Thank you, I'll trouble you for a
little gravy soup, a very little, if you
please; I rarely take soup at all.
- 主、酒は何をお用いてすクラレ
ット、シエリイ、ホック、モセー
ルの内どれおあがりです。 H. What wine do you prefer; claret,
sherry, hock (or simply: claret; sherry,
hock, or mosel'e, Sir)?

第三章 食事のこと

- 客、ホックを一盃いただきます
(ホックは 獨逸ライン 地方産の
葡萄酒)お酒はいけません、それ
より水を一杯頂ませう。 G. May I trouble you for a glass of
hock(i. e. Rhenish or Rhine wine)?
No wine, thank you, I think I'll (i. e.
I would) rather, have a glass of water.
- 主、お酒に氷を一塊いれませう
か。 H. Will you not have a piece of ice
in your wine?
- 客、そーしてもらいませう、ど
うもホックに水を入れると味が
よろしいに相違ございませぬ。 G. I think I will. Hock must be iced
to taste really well.
- 主、先生、どうぞ、鳩のパイを
もつとおやり下さい、おさわり
はきつとございませぬ。 H. take some more pigeon pie, Doctor
It won't do you any harm, I am
sure.
- 客、どうも御親切さま、少々下
さい、私はパイが大好きでね。 G. You are very kind.(Madam,) I really
think I'll take a little more, please.
I'm very fond of pie.
- 主、コックスさん、もつと肉を
差上げませう。 H. Allow me to send you some more
meat, Mr. Cox;
- 客、ほんの少し下さい、中々お
いしいです。 G. Just a small piece, please; it is very
nice indeed.
- 主、お茶を一ぱいいただきます。 H. May (or Can) I offer you another
cup of tea?
- 客、ありがたう、ではおかわり
をいただきます。 G. Thank you, I think I'll trouble you
for a second cup.
- 主、今度はなにをいたしませう
ウエルシラビットをめしあがり
ませんか。 H. What can I help you to (or send
you) now? Won't you try (or taste)
some welsh rabbit?

英語活用寶函

- 客、ウエルシュラビットです。 G. Welsh rabbit? I never tried it.
 わずか下さい、どんなものかい Would you let me have a very samall
 ただいて見ませう、私ははじめ piece, just to try it (or to see what it's
 てです。 like)?
- 主、サア召上れ。 H. Help yourself, sir.
- 客、有りがたういただきます。 G. Thank you, I will.
- 主、もつと肉はいかがです、シ H. Any more beef, Sir? Have some
 ヨーさん海老をもつとおあがり more lobster, Mr. Shaw?
 下さい。
- 客、いえ、いえ、も一此上には G. No more, thank you. No, thank
 いただかれませんか。 you, not any more.
- 主、芥子をそちらへ上げませう。 H. Shall I pass you the mustard?
- 客、どもありがたう、私は一 G. Much obliged to you, but I never
 寸も芥子をいただきません。 take mustard.
- 主、鐘詰鳥肉を召上つてくださ H. Now try some poultry with sausage,
 い、お皿があいて居る様ですか will you? I see your plate is empty;
 ら羊肉を一ときれ差上げませ allow me yto send you another slice
 う。 of mutton.
- 客、いえもう澤山です、ずいぶ G. No more, thank you. I have done
 んいただきました、奥さん、ま vory well. I am much obliged to you,
 ことにありがたいてすがもうい Mrs. D., but I would rather not, thank
 けません。 you.
- 主、あなたはプディングは召上 H. You have not eaten any pudding?
 りませんでしたれ。
- 客、おゆるし下さい私は一寸も G. No, thanks; if you excuse me, I will
 いただきません。 not take any.

第三章 食事のこと

- 主、グースベリィ入りのタート。 H. Do let me send you a gooseberry
 レットをほんの一つおあがりく tartlet, one only!
 下さい。
- 客、も一澤山です。 G. I had rather not, thank you.
- 主、ども御食事がいけません H. I fear (or I afraid) you have made
 れ、まずいですから。 a poor meal.
- 客、なんのそんなことがござい G. No, thank you, I've made an excel-
 ますか、まことにおいしくいた lent meal. I've done very mell, in-
 だきましたも一満腹です。 deed.

第四章 身装のこと

【起床と盥漱】

英米の人は就寝する前に着衣を脱しフランネル又は絹製の寝衣に着換ゆ此寝衣を男子にてはナイトシャツ (night-shirts) 或はピジャマス (pyjamas) と云ひ女子にてはナイトガウン (night gown) といふ、朝眼覺むれば先づづぼん下 (パンツ又はドロウズ pants or drawers) を穿ち足袋(脚までの長のもの)をソック sock と云ひ膝まで達するをストッキング stocking といふ) をはぎ次にづぼん (バックス bags 又はブリーチス breeches といふ亞米利加にてはパンツ pants 又はパンタルーンズ pantaloons なり) を着け上靴 (スリッパース plippers) を穿ちて盥漱におもむく、但女子は始め長靴下をはき、袴下 (ドロウズ drawers) 下着 (ペティコート petticoat) を着け後洗面臺 (ウォッシュスタンド wash stands) の所へ下り立つなり、かくて男女いづれも先づ全身を洗ひ、海綿 (スポンジ sponge) 石鹼 (ソープ soap) を用ゐて垢を去りタウエル (towel) にて拂拭するを常とし、次に齒磨粉 (トゥースパウダー tooth powder 又はデンティフリシ dentifrice) にて齒を磨ぎ、口を漱ぎ、爪を剪み、頭髪を櫛けづる此際、香油 (ポメード pomade 又はポメータム pomatum) 香水 (セント scents 又はパーフュームズ perfumes) をつけるものあり。

【鬚剃と整髪】

第四章 身装のこと

鬚は延び易きもの故毎朝、剃り、又は剪むを習ひとし、其爲に鬚剃道具 (シェービングタックルズ shaving tackles) 一式の用意あり、鬚剃道具とは 剃刀 (レイザー razor) 礪革 (レイザーストラップ razor strap) ブラシ、石鹼等を云ふ、婦人は幼き折りは、頭髪を兩方に分け、又は束ね居れど長ずれば髪容 (トレッズ tress) を作りリボン (ribbon) を纏ふ、但しこは十三才頃よりの事とす (因に云ふ十三才より十九ままでを稱しててティーンエージ teen age といふ)。

【着衣】

以上の事終れば、男子は肌衣 (ヴェスト vest) シャツ (デーシャツ day-shirts) を着け、立襟のカラー (stick up or stand-up collar) 又は折襟のカラ (turn down or lay down collar) を襟ぼたん (スタッフ studs) にて留め、襟飾 (ネクタイ又はスカーフ neck tie or scarf) を結び、カフス (cuffs) をカフスボタン (リンクス links) にてシャツに繋ぎ、最後にチョッキ (ウエイストコート waistcoat) 上衣 (コート coat 又はジャケット jacket) を着用す、婦人は最初肌衣 (シエミーズ chemise) 下衣 (ヴェスト vest) を着けし後コルセット (corsette) を締めるか、胸衣 (ステイス stays) を着けかくして、上衣にうつり、先づスカート (skirt) をはき次に、胴衣 (ボディース bodice) を着け夫よりカラー (collar) 襟飾 (ボウ又はタイ bow or tie) カフス (cuffs) をつける事男子に似たり、尙此上に平生はエプロン (apron) を以て腰部を覆ふ、エプロンは我國の前掛機のものな

り、尙時にはブラウス(blouse)とて寛濶なる上衣を纏ひ、
帯(ベルト belt)にて腰部を締める事もあり。

【靴】

朝食の席に列する時は、上靴を脱し、清らかに磨き立てた
る靴(短きはシューズ shoes と云ひ深きはブーツ boots と云ひ長靴は
トツプブーツ top boots といふ)を穿つ定なり、此靴には種々
あれど英人には編上靴(レースドブーツ laced boot)を用ふ
る者多く夏期には赤皮の靴(boots of a tan or yellowish
colour)を用ひ雨天又は降雪の際は防水靴(ウォータープルーフ
ゴロッシュズ waterproof goloshes 亞米利加にてはオーバーシューズ
over shoes)を重ね穿つを見る、パテントシューズ(patent
shoes)とは鞣皮の一種にて製せるものにて快晴の日又は園
遊會等に行くときに用ゆ、外出せんとする折はブラシ
(brush)にて帽子を鄭寧に掃ひ、常に手套(グラブズ gloves)を
穿つ様なり。

【帽子及び手袋】

帽には種々ありて我國にて中山高と稱するは**パウラー**
(bowler)といひ又**ビリコック**(billy cock)とも**ポットハッ**
ト(pot hat)とも云ひ普通の中折帽は俗に**ディーアスターカ**
ー(deer stalker)又は**ホムバーグハット**(homburg hat)の名
を有し絹帽即ち**シルクハット**は英人には殊に種々の名を
以て呼ばる**トツプハット**(top hat) **トツパー**(topper) **トール**
ハット(tall hat) **ハイハット**(high hat) **シルクハット**(silk-

hat)等皆同一物の異なる稱呼と知るべし又ぜんまい装置
にて伸縮自在携帯に便なるは**オペラハット**(opera hat)又は
クラッシュハット(crush hat)の名あり、帽子の縁は**ブリム**
(brim)といへども學生帽鳥打帽(**ハンティングキャップ** hunting
cap)等の庇は**ピーク**(peak)といふ、尙麥藁帽(**ストローハット**
strawhat)は夏期に用ひらる、手袋には其製せられたる革
の種類により種々の名あり山羊革のものは**キッド**(kid)と云
ひ牝鹿革のは**バックスキン**(buckskin)といひ牝鹿革のは**ド**
ースキン(doeskin)、普通の毛糸製は**ウールン**(woolen)と稱
す牝鹿革のものは多く陸海軍人に用ゐられ婦人は以上の外
に絹物(シルクsilk)狗革(**ドッグスキン**)をも用ゆ酷寒の折は毛皮
附の手袋を穿つもの多し、婦人の用ふる帽は男子と同じく
中折類即**フェルトハット**(felt hat)又は麥藁帽をかぶれ
ども其麥藁帽はリボン、鳥毛(**フェザー** feather)等を以て装
飾し妙齡の婦人は**造花**(**アーティフィシャルフラワー** artificial
flower)など着くるものあり、**ボンネット**(bonnet)と云ふは縁
なき婦人帽にて未婚の女子に用ゐらる、毛皮帽は寒氣烈し
き時男子共に用ふるもの也又女子は外出の際烈しき日光を
避くる爲に覆面網(**ヴェール** veil)を用ふ。

【男子の衣服】

男子用の衣服一通を擧げんに夏着(**サマウエア** summer
wear)として散歩服(**ラウンジンスイート** lounging suit)一着、
輕き夏外套(**ライトサマウエア** light summer coat) 雨合羽

(マツキントツシユ mackintosh, 我國の二重まはし) をはじめフロックコート (frock coat) モーニングコート (morning coat) 數着、ジャケット (jackets) 數着、ツボン又胴衣數着、觀劇、園遊會等に着用すべき禮裝 (ドレスコート dress coat) 一組等を要し又寢室、浴室用の衣類所謂 (ドレスインクガウン dressing gown) は是非共入用なり尙冬外套 (ウキンターガーアヴァーコート winter over coat) 毛皮製裏の外套 (ファーラインドガーアヴァーコート fur-lined overcoat) あれば充分なり、之等のものは平生不用の際は衣裳部屋若くは戸棚 (ワードローブ wardrobe) に仕舞置くものとす。

【婦人の衣服】

婦人の要する衣服は先づモスリン (muslin) セル (サーツ serge) カシミア (cashmere) 等にて製せる散歩服、アルパカ (alpaca) 製の訪問服 (ヴィズィテイングコスチューム visiting costume) 毛織物にて製せる旅行服 (トラヴェリングドレス travelling dress) 白フランネルのローンテニス服 (lawn tennis costume) 純毛織の海濱服 (シーサイドドレス sea side dress) 裾短かき自轉車服 (バイサイクリングドレス bicycling dress) 等にて外にモーニングドレス (morning dress) ブラウス (blouse) は數組なかるべからず、されど是等は通常の服裝にして婦人の。

【晴着】

とすべきは次に云ふところのものにして先づ第一は舞蹈服

(ボールドレス ball dress) なりこは目覺むるばかり華麗なるものにて地は多く綾織 (surah dress) を用ひ、引裾 (ツレーン train) 長く搖曳してレース (lace) 縫箔 (エムプロイデ embroidery) の裝飾目を驚かすべし、中流以上の人は大抵此服一着を秘藏するなり、デイナードレス (dinner dress) も亦立派なるものにて天鵝絨 (ヴェルヴェティーン velvet) 等にて製し、レース (lace) を以て飾る、婦人の衣裳棚は此等の衣服珍藏するゝと共に靴下、肌着、前掛、手巾 (ポケットハンカチ pocket handkerchief) 等をも數多藏するなり、尙寒中の外出には男子と同じく毛皮裏の外套、毛皮附の帽を要する外、ボア (boa) 海豹皮のゑりまき (シールスキン sealskin) 手套 (マッフ muff) 等を用ひ、觀劇、正餐會等にては、冷氣を防ぐ爲めにはオペラクローク (opera cloak) とて肩に掛ける一種の外套を要する故是又備へ置くべきものなり。

【懐中小道具】

男子の衣服には數個の衣囊 (ポケット pocket) ある故必需品は大抵其中のいづれかに入れ置かる即ち手巾 (ハンカチ pocket handkerchief) 財布 (ポース purse) 小刀 (ペンナイフ penknife) 小刷毛 (リトルブラッシュ little brush) 懐中櫛 (ポケットコム pocket comb) 葷入 (サイガーケース cigar case) 紙入 (ポケットブック pocket book) 等は常住衣囊中にあり但英人は大概財布を有せず、金錢を其儘衣囊に入れ中には好んで之を鳴らすものあり。

【衣服の注文】

衣服を購入せんとせば廉價に出来合服 (レ-ディメ-ド ready made) を賣る店もあり又古着 (セカンドハンドクローズ second hand clothes) を商ふものもあれど、之等の顧客は多く労働者にして、中流以上の人には必ず裁縫師 (テイラー tailor) に依頼する習なり、彼等は技巧に熟しよく體裁をととのへ且最新の流行を極め居る故注文通りの出来ばゑを見ること確なり裁縫師は常に羅紗、綿布 (カットン cotton) 天鵝絨 (velvet) 縞子 (サティン satin) セル、カシュミア、絹地等の新柄服地を準備せる上、色合も鼠色 (グレー grey) 薄褐色 (フオーン fawn) より濃褐色 (ダークブラウン dark brown) 青 (ブルー blue) 黒 (ブラック black) 色に至るまで濃淡種々を取揃へ居るを以て、男女の別なく必要次第、裁縫師を訪ひ又は招きて見本 (サムプル samples) に就き縞柄、色合、地質等を撰び注文すべき分をいづれと定むべし、斯くすれば裁縫師は直ちに注文者につき其身長寸法を計り仕事に着手し數日の後假縫を持參すべく而して不釣合の點を見出し更に持歸り數日後立派に仕立てゝ送り届ける事となるなり、裁縫師は一般に技術熟達の輩なる故賃金も廉ならず、従て下流社會は出来合ひの洋服店古着屋等の顧客となるは已むを得ざる事と云ふべし、又一寸便利なるは外套、禮裝、葬式用の黒服 (black suits for funerals) 等を賃貸する家あることにて新調の力なき者はこゝにて用を便ずといふ。

【平時と盛装】

婦人平常の服装にては頸部又は腕を露はすことなけれど舞踏會又はオペラ (opera) に行くとき即盛装 (フルドレス full dress) の折は腕及び肩の露はる様に粉粧す併、半正装 (ハーフトイレット half toilet) の折幾分肩又は腕を覆ふも苦しからず但此時とても胸衣 (ボディース bodice) の前部背部を割り襦は臂まで及ぶ様にするなり袖は廣き方以前は行はれど今は緊りたるものよしとせらる、婦人服にも亦手巾、財布、鏡、小鏡等を入るゝポケット様のものあり婦人の服装中トリミングズ (trimmings) と云ふことあるがこは衣服の裝飾、附屬品を一括して云ふ言葉にしてリボン、裾飾 (フラウンシズ flounces) ひだ (フォールド folds) ふくらみ (プフズ puffs) 縫箔、レース (lace) 飾珠 (ビーズ beads) 編紐 (ブレード braids) 等皆其内にふくまる。

【時計、指輪、眼鏡】

云ふまでもなく懐中時計 (ウォッチ watch) は男女共に携帯するものなれども種類は一ならず金側 (ゴールドケース gold case) あり銀側 (シルヴァーケース silver case) 鐵側 (スチールケース steel case) あり下りて白銅側 (ニッケルケース nickel case) なるもあり而して往々其鎖 (チェーン chain) に小なる裝飾品を繋ぐもの時り之をツリンケット (trinket) と言ふ。

指輪 (リング ring) は婦人は元より男子にも籍めたるもの少

なからずダイヤモンド (diamond) を鑲めたるものもあり、
 襟留 (ブローチスベ broches) 腕輪 (ブレースレット brace'ets) 襟飾
 (ネックレース necklace) ピン (pins) 小金盒 (ロツケツト lecket) 耳
 輪 (イーアリング ear ring) 等は婦人の身邊を裝飾するもの
 にして高價の寶石を簞入する事多し。

男子散歩の際は多く杖 (スティック stick 又はクーン Cane) を携
 へ婦人は、烈しき光線を遮ぎふ爲日傘 (パラソル parasol 又は
 サンシェード sun shade) を携ふ但し雨中は勿論共に蝙蝠傘
 (アムブレラ umbrella) を手にすること言ふまでもなし。

眼鏡は英人は外人に較ぶれば割合にかけたもの多からず
 されど近視 (ニアサイテッド又はショートサイテッド near sighted
 or short sighted) 遠視 (ファーサイテッド far sighted) 又は塵よ
 けの爲幾分の人は用ひ居るなり普通の眼鏡はスペクタクル
 ズ (spectacles) 又はゴツグルス (goggles) といひ鼻眼鏡はフォ
 ルダース (foldess) 片眼鏡はアイグラス (eye glass) 又はモノ
 クルズ (monocles) といふ眼鏡の縁 (フレーム frame) には種々
 ありて金、銀、鐵、ニッケルは勿論アルミニウム (alumin-
 ium, 角 (ホーン horn) 鼈甲 (トータイスシエル tortoise shell) のも
 のもあり。

英國の學童はは平當多く海軍服 (セイラーズスイツ sailor suits) ク
 リケット服 (cricketts suits) 又はベースボール服 (baseball-
 suits) を着け半づぼん (ニツカーボツカー knickerbocker) を穿
 ち輕快に往來すされど日曜には所謂 イートンジャケット

(Eaton jockets) てふ短き上衣を着け、華美なるづぼんに
 スィルクラットをかぶりて出であるくなり、婦人家庭の服
 装は夏冬いづれにても朝はモスリンの如き輕き地質の形附
 (プリントドレス print dress) の衣服をつけ、白前掛を纏ひ、小
 さき白帽を戴けど、午後に至れば黑色毛織の服に着換へ、
 長廣のリボンを帽に着くるなり。

【洗濯】

シャツ類 (リネン linen) 下着類 (アンダークロスイング undercl-
 othing) 汚れたる時は、家庭にて洗濯することあれど、多
 くは洗濯屋 (ラウンドリィ laundry) に送り洗ひすゝがしむ、洗
 濯屋には洗濯婦 (ウォフシヤーマン washerwoman) ありて、
 先づ始めに水洗ひをし、石鹼をつけ、後數時間盥 (タツブ tub)
 の中に放置し次に大釜 (クツトル又はボイラー kettle or boiler)
 にて煮、更に引上げて後充分に洗ひかくて大氣中に乾燥す
 此際白地のものならば漂白することあり、以上の後光澤を
 つけ或は火のし臺 (アイアニングボード ironing board) にのせて
 火のし (ホットアイアン hot iron 又はボックスアイアン box iron) を
 かく、されどカフス、カラーの如き硬直なるべきものは先
 だちて糊 (スターチ starch) を加ふるを要す、此頃は蒸氣の
 力による洗濯等、即ちスチームラウンドリィ (steam laundry)
 も行はるゝ様なり一體に英國の洗濯は敏速なれど粗末にし
 てシャツ類は殊に取扱ひ荒しとの評あり。

【容儀服装上の注意】

英語活用寶函

以上にて身装の事一通り述べたるに付、次には容儀服装上の注意を附記すべし。

第一、清潔は日常道德上の最緊要なるものに屬す (neatness is one of the most important of the minor morals) されば此點にはよく注意し垢づきたる白襯衣 (white linen) を着けて人前に出て又は汚れたる靴を穿つて外出する事なき様に心得べし。

第二、服装清潔なりとも身體を不潔にせば矢張禮法に背くものなり鼻毛を延びるまゝにし爪垢を蓄へ耳垢を掃はず齒牙を磨かざる如きは身装に注意する人にも往々見る事なり戒むべし、又爪を剪り耳垢を掃ふが如き事は人の面前にて爲す可らずすべて身装は各自人に見られぬ時私室にてのみにて行ふべし (toilet offices are proper in the privacy of one's apartment only).

第三、清潔と華美とを混同す可らず、鮮麗なる色合華美なる縞柄の衣服は用ふるを避けよ色變りの襯衣、胸當 (シヤートフロント shirt front, 俗に云ふいかなり) 等も宜しからず夏期には縞物の襯衣を用ふる人多けれど是とて上品とは云ふ可らず兎に角男子は上品にして相當の威嚴ある服装をなしめかしや ("swell") とかしやれ者 ("dude") とかの評判を受けぬ様つとむべし。

第四、襟飾留、襯衣紐、時計鎖、印形等は必要上擔帶すべきものなれど質素なるを撰ぶべし指輪、襯衣留針時計鎖

第四章 身装のこと

の附屬品の如き單に裝飾にとゞまるものは着けざるがよし。

第五、寢衣又は上靴のまゝにて寢室外いづれの場所にも出づる事勿れかゝる姿にて食卓に就き又は人の面前に出づるなどは甚しき非禮なり。

第六、帽子は眉深にかぶるもわるく餘り仰向けにするも宜しからずポケットに手を入れて歩行し又はチョッキの腋口 (アームホール armhole) に挿む事も避くべく口は常に閉ぢ居るべし [汝の口を閉ぢよ] (shut your mouth!) との一句を鼓吹せん爲ある人。一部の書を著らはせる程なれば常に口を開き居るは例へ上にも害あり睡眠中も口を閉づるがよし、又人の面前にて頬鬚を捻り頭髮を撫て附け又は指頭にて種々のものを弄ぶは宜からず人は常に自若として物に動ぜぬ様振舞ふべし常に齒を露はして笑ふも亦慎しむべし何事につけても笑ふ人は一事をもよくし得ざる人なり (One who laugh at every thing, are commonly capable of nothing.)

身装用語及用句

大禮服	フルドレスコート full dress coat	full	evening coat, swallow tail.
	フルドレス		
燕尾服	ドレスコート dress coat	frock coat.	morning „
	イーザニングコート		
	スワオローテール		

英 語 活 用 寶 函

背廣服 サックコート sack ,, 絹紬 ポンジー pongee.
 外套 オーヴァーコート over ,, 楊子 ツースブラシ tooth brush
 大外套 グレートコート great ,, 小楊子 ツースピック tooth pick.
 雨衣 ウォータープルーフ water- 香水 パーフェュームズ perfumese.
 proof. (又は)オードコロン eau de colo-
 ツボン ツロザース trousers. gne.
 ツボン下 ドロウワーズ drawers. コスメテイツク cosmetique
 脚當 ゲーターズ gaiters. 麝香 ムスク musk.
 胸當 シヤートフロント shirt front 磨革 (剃刀用の)レーザーストラップ
 袖 スリーヴ sleeve. razor strop. (strap.)
 裏 ライニング lining. 懐中時計 ウアッチ watch.
 裾 スカート skirt. 銀時計 シルヴァー ,, silvar,,
 ヘルメット (夏帽) helmet. 金時計 ゴールド ,, gold ,,
 パナマ帽 パナマハット panama クロノミーター cronometer.
 hat. 龍頭巻 ステムウアインダー stem-
 鳥打帽子 ハンティングキャップ winder.
 hunting cap. 延金の ロールドゴールド rolledgold
 ズボン釣り ブレーシズ blases. 鍍金の ゴールドプレーテッド gold
 更紗 キヤリコ calico. plated.
 縮緬 クレープ crape. 片硝子 オープンフェースドケース
 セル サージ serge. open faced case.
 アルパカ alpaca. アンクルエスケープメント esca-
 羅紗 クロス cloth. pement.

第四章 身装のこと

雨靴 {ガロツシューズ(英) galoshes, オーヴァーシューズ(米) over- shoes.
 白靴 (夏用ズック製なり) ホワイト シューズ white shoes.
 編上靴 レースアップシューズ lace up shoes.
 ゴム靴 boots with elastic sides.
 上靴 スリッパ slipers.
 靴紐 {シューズストリング shoe string, シューレース ,, lace.
 靴脱ぎ ブートジャック boot jack.
 靴墨 {シューブラッキング shoe-blac king, ブラッキング blacking.
 靴べら シューホーン shoe horn.
 靴型 ラスト last,
 眼鏡 スペクタクルズ spectacles.
 鼻眼鏡 フォルダー folder.
 片眼鏡 {アイグラス eye-glass, モノクル monocle.
 遠視鏡 オペラグラス opera glass.
 手巾 ハンカチーフ handkerchief.
 組合せ交字 モノグラム monogram (手巾などにめじるしとして 附す 二三の文字をくみあはせたる ものなり)
 帯 {ベルト belt, ガードル girdle.
 蓑入 {トバッコブーチ tobaccs pouch, シガレットケース cigarette- case.
 財布 バース purse.
 首巻 マフラー muffier.
 香水吹 オウトマイザー-autanizer.
 マント ケープ cape.
 合財囊 ショッピングバッグ shopping bag.
 紙入 ポケットブック pocket book.
 莫大小 ホーズイェリイ hoseiry.
 香水入香油 ヒリアンティン bil- lianitne.
 帯 サツシュ sash. (ずぼんしめの)
 白粉 トイレシトパウダー toilet powder.
 男子洋服附属品 gentleman's furnishing goods.

英語活用寶函

【以下衣服に関する用句】

見本を見せて呉れ show me your samples.	袖がいくらか窮屈だ The sleeves are a little too tight.
今日流行の通りに作つて呉れ make it as they wear now.	腋の下が苦しい They pinch me under the arms.
寸法を取つて呉れ Take my measure, please.	肩に皺がよる It sits in wrinkles between the shoulders.
ツボンを充分大きく Make the trousers full wide.	絹を袖裏にたのむ I wish the sleeves lined with silk.
ゆつくりこしらへてくれ I like to be at my ease.	此色はいゝが地が薄過ぎる I like the colour, but the cloth's too thin.
着て見よう Let me try it on.	かくしの蓋がひろすぎる The flaps are broad.
實に善く合ひます It fits you admirably.	

【以下靴に関する用句】

靴の寸法を取つてくれ一足こしらへるのだ please measure me for a pair of shoes.	足が痛ひ They pinch my feet.
先を尖らせないで踵を低くしてくれ Not pointed and with low heels.	伸びきになつておる中に大きくなります They'll stretch by wearing.
出来合があるか Have you a pair of ready made boots.	まめが出来るにちがない I must have corns.
丈夫の底附の With strong soles.	これでは歩いてあるけない I can not walk in them.

【以下時計に関する用句】

僕の時計はよく合ふ my watch keeps time very well.	僕の時計は遅れもせれば進みもしない my watch is neither fast nor
--	--

第四章 身装のこと

slow. (or) my watch neither earns nor loses.	mended.
時計を巻くのを忘れた I forgot to wind it up.	今度は大丈夫狂はないかね (Will you warrant it to keep time now?)
僕の時計は動かない My watch doesn't go.	掃除する to clean.
とまつてしまった It has stopped.	修理する { to mend, to repair.
狂つた It's out of order.	硝子蓋をはめる to fit in a new glass.
直さなければならぬ I must get it	ぜんまいが毀れた The main spring is broken.

【以下帽子に関する用句】

帽子があるか Have you hats to sell?	this hat is too high
大小色々ございます I have all sorts and sizes. (or) I have any price or sort you please.	山の低ひ 縁の廣ひ のてなく てはいか ん I must have one with a lower crown and a broader brim.
此方は軽くて丈夫ですから長持します These ones are light, and yet so strong that they will last a long time.	此帽子を直して形を變へてくれ please retrim this hat and alter the shape
此帽は山が高過ぎる The crown of	私の帽子に火熨斗をかけてくれ Would you do or iron up my hat?

第五章 冠婚喪祭等のこと

【群居を好むは人の性】

人類は群居を好む動物 (グレゲリアスクレテア gregarious creature) なり、されば其初め先づ一村 (ヴァイレッジ village) をなし次で一町 (タウン town) を形成し更に進んで一市 (シティ city) を營み、既に一帶の土地を定め共通の性格 (キヤラクター character) と趣味 (インテレスト interest) を有するに至れば一邦 (ステート state) を創め國民 (ネーション nation) と稱するに至る、是れいづれの國民も必らず蹈むべき徑路にして又文明に達する段階とも見るべし。

【國 家】

さて國家を形成せば君主上に立ちて國民を統治する事あり之を君主國 (モナキー monarchy) と稱し、徳望あるものを撰んで統治を托するもあり、之を共和國 (リパブリック republic) と稱す、君主國と稱するうちにも種々ありて皇帝 (エムペラー Emperor) と云ひ女帝をエムプレス Empress と云ふ但しロシアにては皇帝をザール Czar 女帝をザリーナ Czarina と云ひ土耳其國にては皇帝をサルタン sultan と云ふ) 君臨するを帝國 (エムパイア Empire) と云ひ國王 (キング king 女帝はクween queen) 統治するを王國 (キングダム kingdom) と云ふ我等が今學ぶところの英吉利は王國の一にして現國王はエドワード第七世陛下 (Edward VII) と申し奉り、一千八百一年御即位あらせらる。

第五章 冠婚喪祭等のこと

米國は共和國の一にして現大統領 (プレジデント President) はタフト氏 (Mr. Taft) なりとす。されどいづれの國にても社會の單位 (ユニット unit) を爲すものは家族 (ファミリー family) なり家族相倚りて國家成立するものにして堅實なる國家は堅實なる家族の集合ならざる可らず故に我等は英國民を研究するに至り先づ其單位なる家庭に就て詳かに學ばざるべからず、さればこゝに家庭に關する一項を設けて家庭の組織より進んで冠婚喪祭等すべて一家に關することを述べんと欲するなり。

【家 族】

英人の特質に於て述べたる如く英國の家庭 (ホーム home) は一種他國に於て見るべからざる特殊の性質を有し國を擧げて悉く家庭を享樂の最上所と爲すが如し従て其家庭の裝飾にも自ら趣味を存し服裝に於ても整然として毫も亂雜ならず我國の如く外に飾りて内に亂るゝ表裏の態なく言語も謹慎にして長幼別あり即親睦の間に秩序を存し和氣霽々たる間に整然たる規律あり是容易に他國に見る能はざる所にして又他人の學て易からざる英國特質なり。

【父母兒女の稱呼】

家庭にて兒女は父 (ファーザー father) を呼ぶにパパ (papa) 又はパー (pa) 或はダッド (dad) ダツデー (daddy) など云ふ語を用ひ母 (マザー mother) を呼ぶにマム (mam), マムマ (mamma) 又はマ (ma) など云ふ、又母は兒女を呼ぶに

其クリスティアンネーム (Christian name) を以てし且つ我國にて三郎を三ちゃんと呼ぶ如く短かく約めて呼ぶ例を擧ぐれば男子ならば、

ジェームス James をジム Jim, トーマス Thomas をトム Tom, エドガー Edgar をエッド Ed, エドワード Edward をドウィン Edwin, ピムバートン Pimberton をピム Pim, リチャード Richard をディック Dick, チャーレス Charles をチャールズ Charlie, フレデリック Frederick をフレッド Fred, 女子ならば、

マーガレット Margaret をマツギー Maggie, ネーリー Nellie をネル Nell, ヘンリエッタ Henrietta をヘンリー Henry.

と呼ぶが如し、クリスティアンネームは洗禮 (バプティズム baptism) を受ける時授けらるゝ名にして誕生の時附せらるゝものをサーネーム (surname) 又はファミリーネーム (family name) と呼ぶ。

【婚約】

女子は相當の年齢に達する迄は學校教育を受け傍ら家事 (ハウスホールド household) の手傳をなす事なるがやがて相當の年齢となれば然るべき配偶者を撰んで之と婚姻するとを契約す之をエンゲージメント (engagement) 又はベトロザル (betrothal) と稱す婚約成りし後は其配偶者たる男子をフィアンス (fiancé) と呼び自身は其男子よりフィアネセ (fiancée) と呼ぶ。

と呼ばれるものとす、約婚せる後其夫たるべき人は己の妻たる人を my intended と云ひ友人に對しては my young lady と云ふ但 my betrothal と云ふ事は餘り聞かぬ様なり、同じく妻たる人は夫たるべき人を指して My intended 又は my intended husband と云ふ、此婚姻 (マリッジ marriage) を約することは他國にては丁年以上などの制限あれど英國にてはさることなし、男子十四才以上に達すれば父母の承諾なくとも己れの欲する女性に求婚することを得、但女性より男性に向つて求婚することを許さず、尤も閏年 (リプリープ leap year) には此習慣を破るも差支なしと俗間に云ひ傳ふ因に云ふ丁年に達するとは come of age と云ひ、男女各々二十一才を以てかく云ふことなれど皇族 (ロイヤルファミリーズ royal families) は特に十八才を以て丁年とせり。

約婚の事は新聞紙上に廣告するとか又はカード (card) に印刷して報知するとか云ふ事をせず、書面又は使者を以て親戚知己に通知するものとす此通知を受けたる人々は必ず自ら訪問するか、又は書面を以て祝辭 (コングラチュレーション congratulation) を述ぶるものとす。

【婚姻の手續】

約婚の際新婦に向ひ新郎より指輪 (リング ring) を贈り、新婦は之を左手の無名指にはむ、指輪は大抵ダイヤモンド (diamonds) ルービース (rubies) 土耳其玉 (ターキキス turquoise)

か又は眞珠 pearl (pearls) なり、すべて此婚約は甚嚴正のものにして若之を破毀する時は損害 (ダメージ damages) を起訴することを得、此婚約破毀の裁判 (“breach of promise cases”) は英國下流社會に屢々見るところのものなり。

婚約成りし後そとばくの月日を経て吉日を卜し、其婦人の住地にて結婚の式 (ウェディング wedding) を擧ぐ、此儀式に先だち世上に公告して異議あらば申込み様にするをバン (bann) と稱し多く教會にて取扱ふを常とすされど必ずしも教會にてかくするを要せず法律的に登記者 (レジストラ registrar) の前にて登記を乞ふとも差支なくバンと同等の効力あるものと認めらる結婚の儀式は大概午前十一時乃至十二時なれども貴族社會 (アリストクラシー aristocracy) にては午後一時頃舉行す但千八百八十六年以來は午後三時迄の間に舉行さるゝ事となりしが先づ普通は上に記すが如き時刻に行はる。

【結婚の際の服装】

式の際新郎 (ブライドガールーム bridegroom) は黒クロツクコート (black frock coat) に無地のツボン (light trousers) を穿ち白胴衣 (white waistcoat) 白無地ネクタイ (light colored necktie) を用ひ且胸間に花飾 (ボタンホール buttonhole) を着けるを普通とし新婦 (ブライド bride) は白レース (white lace) 若くは花もて美しく飾られる白緞子 (white satin) 又は 紗

(slskmuslin) の衣服を看け白花 (オレンジブロッサム orang-blossom) の花冠 (リース wreath) を戴き其上に大なる覆面 (ヴェール veil) を被ひる而して手袋と靴も白色なる外、尙白色の花にて作れる花束 (ブーケ bouquet) を携ふるを常とし寶石など數多つけるは却て野卑 (ヴァルガー vulgar) なるものとして踐まる、されば眞珠位をつけるにとゞまり成るべく高雅清楚なるをつとむるが如し、新郎に伴ふものベストマン best man. 媒介者) は新郎の服装に準じ、新婦を保護するブライズメイド (bridesmaids) や列席の諸婦人は華美なる散歩服 (walking dress) を着く、寡婦再婚の際は多少趣を異にし成る可く憂鬱の色を帯びざる華やかなる衣服を着け覆面を被ひる事なく又ブライズメイドも伴はざる由なり。

新婚後廿五年目に銀婚式 (silver wedding) 五十年目に金婚式 (gold wedding) 七十五年目に金剛石婚式 (diamond wedding) と稱して各々盛大なる祝宴を擧ぐ此際は良人より其妻に更にウエディングリング (wedding ring) を贈り其妻は終生之を左手の第三指即ちリングフィンガー (ringfinger) に着けざる可からず。

【其 儀 式】

英國の婚禮は他國に於ける如く盛大なる祝宴を開くことなく極めて簡單なる儀式にを以て終了す又ウエディングブレイクファスト (weddig breakfast; ブレックファストと云へど朝飯にはあらず大抵午後に行はる) も今日にてはリセプション (reception) 又は

英語活用寶函

アトーム (at home) を以て之に代ふるが如し、尤も従來のウエディングブレイクファストとて、實際食事するには非ず、さる事は甚稀にして只形式にとゞまり、其重要なるものはデザート (dessert) の際に出づるウエディングケーキ (wedding cake) にして其大きき二フィート乃至三フィートに及び、新婦は之を截りて列席の人に配り、客人は必らず其一片づゝを喫するのみならず、其場にあらざる友人知己等へも贈與さる、若き娘達は此菓子と枕の下に置き寝ぬれば其夜よりの夢に入る男子が彼等の夫たるべしと云ひ傳ふるなり但其夢は三夜づづけて見ざる可らず、扱ウエツディング配り終らるゝや演説 (スピーチ speech) の順となる其演説は第一に新夫婦の健康を祝するを以て主とする事勿論なり、但スピーチを爲さて一同祝盃 (トースト toast) を擧げて之に代ふる事もあり、かくて婚禮の儀式終り。

【蜜 月】

新夫婦 (ブライダルペア bridal pair) は相携へて新婚旅行 (ハネムーン honeymoon) の途に上る、蜜月とは多く婚後一ヶ月を云ふものにて此旅行に出づる際人々玄關に出で新夫婦めがけて古き上靴又は米を擲つ奇習あり、米は夫婦の繁榮 (プロスプリテイ prosperity) を意味し古き上靴 (old slippers) は一般に好運 (グッドラック good luck) を意味するものなりと云ふ、こゝに他國の新婦と英國の新婦との大なる差異ありそは支度 (アウトフィット outfit) の點に於て英國にては新

第五章 冠婚喪祭等のこと

婦が婚禮の際持參するは自身に用ふるもの即衣服調度等に限り云はゞ嫁装 (ツルソー trousseau) 一式にとゞまり婚後を扶助し行くは全く夫たるものゝ義務とせらる從て家具 (フアーニチュア furniture) 卓子掛 (tablecloth) 皿 (プレート plate) 等世帯道具一切も夫に於て備へ置かざるべからず、若し新婦にして特に持參の財金 (マリッジポーション marriage portion) ありとせばそは全く其實家の家長の遠慮 (ディスクレション discretion) より出て一般の慣例にはあらずと思ふべし。

【財産の繼承】

元來英國にては上流社會は皆其財産を相続者に傳ふる制度にして其他の人は之に與らず父の遺産は最近親即其長子に與へらるゝ故其餘の兒は若干の金子を與へらるゝか又は其他に多少の財産を分與せらるゝにて全く父又は家長の與ふるものゝみに満足せざる可らず、但中等社會に於ては多くの夫は其遺言 (法律的に云へばラストウィル last will 又はテスタメント testament) により全財産をその妻に遺し妻死せば其兒女に均等に分與するもの少なからず。

【誕 生】

夫妻相寄りてホーム茲に成りやがて兒女誕生すれば生後數週間を経て洗禮式 (クリスツニング christening 又はバプティズム baptism) を擧ぐ此式は其所轄管區の寺院 (パリッシュチャーチ parish church) にて行ふものとす、尤も宗派によりては誕生

後數月の後若くは數年の後まで洗禮を行はざる事あり、英國の洗禮は純粹なる宗教的儀式 (レリヂヤスセレモニー religious ceremony) にして家族的饗應 (ファミリーフェスティバイティ family festivity) の伴ふ事なし。

【洗 禮】

洗禮の際には名付親 (ゴッドファーザー god father 又はゴッドマザー god mother) は其小兒に簡素なる銀製耳附の盃 (プレーンシルヴァーマツク plain silver mug) を與ふ、浸禮教會 (バプティスト the baptists) と云ふ派にては成る可く小兒の洗禮を避け成人を洗禮する事とし且つ水を少し注ぎかけるにとゞまらず水中に浸るを規定とするなり之をイムマージョン (immersion) と云ふ、聖餐 (ロードサツペー lord supper 又はホーリーコムニオン Holy Communion) に列するに先だち小兒は管區 (ダイオシズ diocese) の僧正 (ビショップ bishop) より堅信を證認されざる可らず、此式はコンファーマーション (confirmation) と云ひ大抵十一歳頃に行はるゝものとする。

男女共十六歳に達すれば兩親は其子をいづれなりとも他所に遣はす事を得べし或は徒弟或は丁稚に各々將來志す方向に向ひ奉公するは此時よりなり。

【十六歳以後】

元來英國の法律にては兒女十六歳となれば父母は之を養育する義務なしとせる故貧民社會は之を楯として兒女の十六

歳に達するを待ち一切其兒女を放棄して顧みざるもの多し、元より之は貧民に限ることなれども中等社會に至りても我國の如く百方苦心して其子弟に資を給し學問せしめんとするは少なく本來獨立自尊を主旨とする國民故種々なる方面に少年をまくり自己の手腕を以て立身の途に就かしめんとする事普通なりされば徒弟となるものは多少の賃金を得て自ら生活し行く傍餘暇を以て勉學し相當の修養を積み進んで技術工藝の試験を受けて立派なる資格を得るが如く他の方面に向ふものも之と同じく自治自營して自己の手腕により將來にの運命を開拓し行く者多數を占むるなり。

【家庭を組織するもの】

ホームを形成するは夫妻と其兒女を主とすれど家によりては其他に數多の家族同棲することありたとへば父を失へる親戚の孤兒 (オーファン orphan) もあるべく妻を失へる夫 (ウキドゥワー widower) 夫を失へる妻 (ウキドゥ widow) もあるべく全く結婚せずして年老ひぬる老嬢 (オールドメイド old maid 又はシングルレデイ single lady; 法律上はスピンスター spinster) もあるべく生涯娶らずして終る男子 (オールドバチエラー old bachelor) もあるべし、之等寄るべなき人々は勢ひある家庭に同棲せざる可らず、因に云ふ孤兒は其丁年に達するまでは後見人 (ガーディアン guardian) を要するものとする。

【僕 婢】

英語活用寶函

家庭にはかゝる骨肉血統の外に多少の僕婢あり中流以上の家庭となれば其僕婢の數も頗る多勢に及ぶことあり、先づ僕婢 (サーヴァンツ servants) と總稱するものを細別すれば庖厨にありて料理をつかさどるをクック (cook) と呼び室内の諸事始末をつかさどるをハウスメイツ (house maids) と稱し、食事の給仕其他細事を辨ずるをパーラーメイツ (parlor maids) と稱し、園丁 (ガーヅナー gardener) 馭者 (コーチマン coachman) 馬丁 (フートマン foot man) の外ボーイ (boy) 又はボタン (button) と稱して園丁の手傳をなし靴を磨き、窓、ナイフ、フォーク等を礪きみがくものあり稚なき兒女ある家にては小兒に衣服をさせ赤兒 (ベビー baby) を乳母車 (ペラムビュレーター perambulator) にのせて逍遙する保母 (ナース nurse) あり一家の家族を總括すれば随分の大勢となるなり。

【家系崇拜】

英國は所謂すべてを保存する島國 (all preserving island) なれば其家庭に於ても種々の古器物を保存し其應接間には祖先の遺物、肖像、名譽の紀念物を飾り恰かも博物館に入るの感なくばあらず從て種々の家例、有し子々孫々必らず之を遵守するを常とし己の家の家系 (ペティグリー pedigree) を尊重し且つ之を以て人に誇ること少なからず假令ば余の曾祖父文 (グレートグランドアアザー great grand father) はウェリントン公 (Duke of Wellington) に從ひてナポレオン大帝 (Napoleon the first) と戦へりとか又は我大叔父 (グランド

第五章 冠婚喪祭等のごと

アングル (grand uncle) はネルソン提督 (Admiral Nelson) の親友なりしとか好んで己が祖先 (フォーアアアザーズ forefathers) の功名を口にするなり。

【英人の健康】

英人は一體に體格強健にして且精力旺盛なり エマソン (Emerson) 曰く、往來を行く百人の英人を取り、其目方を秤りなば百人のアメリカ人よりは四分一位は重かるべしと、彼等は血色宜しく膂力強く體格いかにも頑丈なり諺に云へる如く健康は富に優り (Health is better than wealth) 健全なる精神は健全なる身體に宿る (Sound mind in a sound body; こは Latin の Mens sana in corpore sano と同じ) 故にかゝる強健なる驅幹を有せる英人が其精神に於て剛健、忍耐、冒險の氣象に富めること又怪しむに足らざるなり、されどこはすべての場合を云へるにて英人とて鐵石にあらざれば折々は家族の中病氣 (ディズエーズ disease) に罹ることもあり又稀れには盲人 (ブラインドマン blind man or yoman) 啞者 (ダム dumb) 跛者 (クリツプル cripple 又はレームマン lame man or woman) 僂背 (バunched backed bunchbacked) 斜視 (クロスアイド cross eyed) 聾者 (デフマン deafman or woman) 等の不具者の存する事のあるなり、之等の人に對しては家族は勿論すべての人常に同情を表し嘲弄すること少し最も公德の發達せる爲とこそ云ふべけれ。

【疾】

病

病氣に罹れる時は醫師 (ドクター doctor, 又はフイジシヤン physician, 又はメデイカルマン medical man) を迎ふ、醫師來れば先づ患者 (ペーシエント patient) の脈搏 (パルス pulse) を探り舌を検し然る後處方書 (プレスクリプション prescription) を作る事我國に於けると同じ而して此處方書は調藥所 (ディスペンシングケミスト dispensing chemist) にわたして調合せしむることもあり又は醫師自身の藥局 (ディスペンソリィ dispensary) にて調合するもあり、藥價 (メデイカルフキー medical fee 又はメデイカルチャージ medical charge) は一定せず患者の収入を想定して決する如し、又極貧の家庭に對しては全く施藥することもあるなり。

特別の治療を要する病氣にかゝりても家庭に於て療養の道なき時は病院 (ホスピタル hospital) に收容さる、病院には普通の醫師は勿論のこと、外科醫 (サージャン surgeon) あり看護婦 (スィックナース sick nurse) あり充分に治療を加へらるゝを得べし。

【施 療】

ロンドンの病院中最有名なるはロンドンホスピタル (London Hospital) にしてイーストロンドン (East London) のホワイトチャペル街 (White Chapel St.) にあり、毎年約十六萬の外來患者を診察し一年の經費百萬圓許也こは皆私人の寄附より成れる基本財産の利子と臨時の寄附金とにて支辨せるものにしてこれらの寄附金中には匿名のもの多く我

明治三十四年の頃には二十五萬圓と三萬圓と三十二萬圓の匿名寄附ありしといへばいかに盛んなる善慈家の存するがを知るに足らん又毎年二回寄附金募集 (ツウコレクション two collections) あり一をホスピタルサンデー (Hospital Sunday) と唱へ、各所の教會にて行はれ、一をホスピタルサターデー (Hospital Saturday) と稱し、街頭にて集金さる、此病院にては極貧者にては無料にて加療し、労働者よりは藥價三片を徴集し、富者には相當の寄附金をなさしむ、されど加療の點に至ては一視同仁、貧富上下の區別なく懇切に療養するものとす。

【葬 式】

閑話休題、人はいかに強健なればとて死は遂に免る可くもあらず、病める者は元より、病まざるものも亦年老ひ體衰ふれば秋風一陣幽明界を異するに至る、されば是より葬儀の事を説ひて此項を終らん、人死せば先づ其死體を尸架 (ビーア bien) に載せて安置しやがて棺 (カツフィン coffin) に移し入る、かくて三日若くは其以上を経て埋葬することゝなる埋葬の際は遺族 (ベレーヴドファミリー bereaved family) 及び死者の友人は棺車 (ハース hearse) に隨ひ墓地 (セメトリー cemetery 又はチャーチャード church yard) に行く墓地にては僧侶 (クローヰィ clergy) 其門に於て行列 (フニョナルプロセション funeral procession) の至るを待ち之を迎へて墓域に入り死體を其の家の埋窟 (グモールクヴァント vault) に藏するか又は新たに穴

英語活用寶函

掘人足 (グレイヴディガー grave digger) の掘れる墓穴に埋葬す此際寺男 (カクストン caxton) は葬の鐘 (フューネラルベル funeral bell) を鳴らし、埋葬の儀式は僧侶 (國教徒はクラーク・メメントと呼べど非國教徒即 dissenters はミニスターズ ministers と呼ぶ) の手にて半ば教會堂又は禮拜堂にて半ば墓穴にて、行はる、羅馬加特力教 (Roman Catholic) を奉ずる土地、又さなくとも地方にては、葬式に遡り毎に脱帽敬禮する慣例なり、扱死者の遺族は一年間喪服 (ブラックガーマント black garment) を着けて喪に服し親戚は六ヶ月間喪に服すしばらく時日を経て墓石 (モニュメント monument) を建立すること我國に異ならず、墓石には我國の如く、普通の石を建つるもあり、(ツームストーン tombstone), 尖塔形のものもあり (オベリスク obelisk), 十字架もあり (クロス Crosses).

【墓 銘】

墓銘 (エピタフ epitaph 即インスクリプション inscription) の冒頭は

In memory of.....

又は To the memory of.....

又は Sacred to the memory of...

と記するを常とすいづれも「某君紀念の爲」の意味なり、墓のほとりには常春藤 (アイヴイ ivy) の如き蔓草 (クリーピングプラント creeping plant) 又は草花を栽る枝垂柳 (ウイピングウィロウ weeping willow) をして墓上を覆はしむるもの多し、

第五章 冠婚喪祭等のこと

火葬場も至るところにあり火葬場はクリマトリウム (crematory) 又はクリマトリア (crematoria) と稱しロンドン近郊には西南二十五哩オルダーショット (Aldershot) の附近ウオーキング (Woking) と云ふにあり、一人約五磅の費用を投ずれば火葬を行ひ大人の死體は約一時間にて焼き終り遺骨は一の瓶 (アレン urn) に納めて喪主に交附するものとす。

家 族 稱 呼

親 ペアレント parent.

父 ファザー father.

母 マザー mother.

叔父 アンクル uncle.

叔母 アント aunt.

兄弟 ブラザー brother.

姉妹 シスター sister.

従兄弟 カズン cousin.

甥 ネグュー nephew.

姪 ニース niece.

舅 ファザー、イン、ロー father in law.

姑 マザー、イン、ロー mother in law.

贅 サンイン、ロー son inlaw.

嫁 ドーター、イン、ロー daughter inlaw.

嗣子 ヘイア heir.

相続人 インヘリター inheritor.

祖宗 アンセスター ancestor.

苗裔 ポステリティー posterity.

血統 ジェネレーション generation.

一門 キンスフォーク kinsfolk.

八十歳以上の人 オクトジエネーリアン octogenarian.

百歳の人 センテネーリアン centenarian.

繼子 ステップチルドレン step

英語活用寶函

childr. n.
 繼母 ステップマザー step mother.
 後妻 ステップセカンドワイフ step second wife
 養子 アドプテッド、サン adopted son.
 嫡子 リジティメートサン legitimate son.
 庶子 イルリジティメートサン illegitimate son.

gitimate son.
 青年 ユース youth.
 處女 ヴァージン virgin.
 血族 ブラッドリレーション blood relation.
 縁 リレーション、バイ、マリッジ、relation by marriage.
 親族 { リレーション relation.
 キンスマン kinsman.
 キンスウーマン kinswoman.
 リラテイヴス relativer.

【身體各部稱呼】

頭 ヘッド head.
 頭蓋骨 スカル skull.
 毛髮 ヘア hair.
 禿頭 ボールドヘッド bald head.
 腦髓 ブレーン brain. (腦髓は理性の存する所なり Brain is the seat of intelligence or reason.)
 眼 アイ eye. (眼は視覚をつかさどる器官なり The eyes are the organs of sight)
 眼窠 オービット orbit.
 眼球 アイボール eye ball.
 眼腫 ピューピル pupil.

臆 アイリッド eye lid.
 睫毛 アイラッシュ eye lash.
 鼻孔 ノスリルズ nostrils.
 鼻 ノーズ nose.
 鷹鼻 ローマンノーズ Roman nose.
 獅子鼻 { スナツブノーズ snub nose.
 フラットノーズ flat nose.
 鼻梁ブリッジ bridge
 口 マウス mouth. (口は言語を發し、食物を受く Mouth utters speech or receives food.)
 唇 リップ lip.
 齒 { ツース tooth (單數)
 チース teeth (複數)
 齒 クラインダース grinders.
 切齒 インサイザーズ incisors.

第五章 冠婚喪祭等のこと

舌 タング tongue.
 顎 パレート palate. (舌と顎とは味覺をつかさどる Tongue and palates are the organs of taste.)
 耳 イーア ear.
 耳朶 ロープ lobe.
 頬 チーク cheek.
 笑凹 ディムプル dimple.
 腮 チン chin.
 鬚 ビーアード beard.
 頬鬚 ホイスクーズ whiskers.
 口鬚 ムスタッシュ moustache.
 下唇の鬚 イムペリアル imperials.
 顔 フェース face.
 額 フォーアヘッド fore head.
 頸 ネック neck. (頸は顔と胸とを結合す、Neck connects face and trunk.)
 咽喉 スロート throat.
 咽頭凸起 アダムスアップル Adam's apple.
 頂 ネーフ nape.

食通 ガレット gullet.
 咽頭 ラリックス larynx.
 聲帯 ヴォーカルコード vocal chord.
 肩 ショルダー shoulder.
 胛骨 ショルダーブレード shoulder blade.
 胴 トランク trunk.
 胸 チェスト chest (内部には心臓 heart と肺臓 lungs あり)
 背 バック back.
 腹 ベリー belly.
 胃 ストマック stomach. (胃は食物を受けるところにして消化の場所なり Stomach is the receptacle of food and the seat of digestion.)
 肝臓 リヴァー liver.
 腎臓 キドニーズ kidneys.
 腸 { ボウエルズ bowels.
 インテスタインズ intestines.
 四肢 リムズ limbs.
 腕 アームズ arms.
 肘 エルボウ elbow.
 上腕 アッパーアーム upper-arm.

手首 リスト wrist

手 ハンド hand.

指 フィンガース fingers.

親指 サム thumb.

{ ファーストフィンガー first
フォーアフィンガー fore fin-

ger.
ger.

中指 ミドルフィンガー middle
finger.

第三指 { サードフィンガー
リングフィンガー

third finger.
ringfinger.

小指 リトルフィンガー little
finger.

爪 ネイル nail.

脚 レッグ leg.

股 サイ thigh.

膝 ニー knee.

脛 シン shin.

こむら カース calf.

踝 アンクル ankle.

足 { フット foot (單)
フキート feet (複)

踵 ヒール heel.

足の甲 インステップ instep.

足指 トー toe.

蹠 ソール sole.

肉 フレッシュ flesh.

血 ブラッド blood.

骨骼 スケレトン skeleton.

骨 ボーン bone.

神経 ナーヴ nerve.

筋 マスル muscle.

血管 ブラッドヴェスセル blood
vessel.

脂肪 ファット fat.

乳頭 ニプル nipple.

臍 ネーヴル navel.

腰 ロイン loin.

脊柱 スパイナルコラム spinal co-
lumn.

脊梁 スパイナルコード spinal cord.

皮膚 スキン skin.

視感 センス、オヴ、サイト sense of
sight.

聴感 センス、オヴ、ヒアリング sense
of hearing.

嗅感 センス、オヴ、スマル sense of
smell

味感 センス、オヴ、テースト sense of
taste.

觸感 センス、オヴ、 { タッチング sense
フキエリング

of touching.
sense feeling.

以上の五を總稱して五感 five sen-
ses と云ふ。

【疾病醫藥用語】

百日咳 フーピングカフ hooping
cough.

猩紅熱 スカーレットフィーヴァー
scarlet fever.

カタル カタール catarrh.

肺病 コンサムプション consump-
tion.

心臓病 ハートツラブル heart-
trouble.

ルーマティズム rheumatism.

癲癇發作 エPILEPTIC FITS epileptic fits.

失神又は氣絶 { フェイント faint.
スカーン swoon.

水腫 ドロプスイ dropsy.

頭痛 ヘッドエーク head ache.

齒痛 トゥースエーク tooth ache.

人事不省 トランス trance.

眩暈 ギツディネス giddiness.

卒中 アポプレキスイ apoplexy.

癌腫 キヤンサー cancer.

麻疹 ミーズルス measles.

天然痘 スモールポックス small
pox.

痔 バイルス piles.

藥 メディシン medicine.

丸藥 ピル pill.

散藥 パウダー powder.

流行性感冒 インフリューエンザ
influenza.

注射 インジェクション injection.

消毒劑 デイスインフェクタント
disinfectant.

解毒劑 アンティドット antidote.

檢温器 サーモメーター thermo-
meter.

聽心器 ステソスコープ stethos-

英語活用寶函

cope.
 藥屋 { (英國)ケミストシヨツプ chem-
 (米國)ドラツギストストア
 ist shop.
 druggist store.
 治療 { キューア cure.
 レメデイ remedy.
 診断 ダイアグノースィス diagnosis.
 恢復 レカヴァリ recovery.
 傳染病 コンテージアス、ディズィース
 contagious disease.
 流行病 エピデミックス epidemics.
 コレラ cholera.
 ジフテリア diphtheria.
 窒扶斯 タイフオイド、フキークァー
 typhoid fever.
 肺勞 サィス phthis.
 疫病 プレーグ plague.
 赤痢 ディセンテリイ dysentery.
 マレーリヤ malaria.
 種痘 バクシネーション baccination.
 凍瘡 チルブレンス chilblains.

黄疸 シヤウンデイス jaundice.
 痛風 ゴート gout.
 腫物 ホイル boil.
 創痕 スカー scar.
 胃病 ディスペプシ dyspepsy.
 肋膜炎 プリュールィス pleurisy.
 ペスト pest.
 水藥 リコーア liquor.
 膏藥 プラスター plaster.
 煎藥 ディコクシヨソ decoction.
 眼科醫 オーキュリスト oculist.
 耳科醫 オーリスト aurist.
 齒科醫 デンティスト dentist.
 手術 オペレーション operation.
 (手術中 under operation.)
 診断書 メディカルサーティフィケート
 medical certificate.
 慢性 クロニック chronic.
 挫傷 スプレーソ sprain.
 中毒 ボイズン poison.
 膿 pus.

第五章 冠婚喪祭等のこと

【健康に就ての會話】

甲、いかゞです、 A. How are you?
 今日はいかゞで、 How are you to-day?
 御氣分はよろしいですか、 Do you feel well?
 いかゞです How do you do?
 いかゞで How do you dye do?
 乙、ありがたう至極達者です、 B. Very well, thank you.
 ありがたう至極達者です、 Quite well, thanks.
 ありがたう至極達者です、 First rate, thanks.
 ありがたう至極達者です、し Capital, and how's yourself?
 てあなたはどうです、
 甲、至て丈夫です、 A. Fairly well.
 まー達者です、 Tolerably well.
 甲、今朝はいかゞです、 A. How do you feel this morning?
 今日はよくなりましたか、 Do you feel better to day?
 乙、どーもすぐれません、 B. I feel rather flat. (or dull, or spiritless)
 いふ、よいとは申されません、 No, I am sorry to say I don't. I
 一體弱い方ですがわかる程頭 am very weak indeed, and have split-
 のいたむときがあります、 ting headache.
 甲、今日はよくおなりでせう、 A. I hope you feel better to-day.
 乙、どーも残念ですが、一寸も B. No, I regret to say, I don't feel
 よくなりません、 much better.
 甲、どうなさつたんです、御病 A. What is the matter with you?
 氣ですか、 Are you ill?
 乙、はいどーもすぐれません、 B. Yes, I feel wretched; every bone in
 身内の骨々がみんないたい様 my body seems to ache.

英語活用寶函

です、

甲、お顔が蒼いですね、工合がわるいですか。 A. You look so pale. Don't you feel well?

乙、はい、ようございませんと、うもへんな気分です。 B. No, I am not well; I feel very queer.

甲、腰のお痛はどうです。 A. How is your lumbago?

乙、まだちよつともなをりませんとよほどわるくなつたのではないかと思ひます。 B. Not any better as yet; I'm afraid it's still very bad.

甲、どうも御様子が変わるいですね、どう云ふ御體梅です。 A. You don't look well at all. What's up with you?

乙、さうですね、どうも苦しくていけません、だんだんと悪くなつてゆくのではないかと掛念して居ます。 B. Well, I feel as miserable as can be, I'm afraid (or I think) I am going to be seriously ill.

甲、たいへんよくおなりですね、頬が櫻色になりましたよ、御本復ですね。 A. You look wonderfully well. What rosy cheeks you have got! Are you quite yourself again?

乙、まだです、どうも遺憾です、様子はおてになりません、大分まだ苦んでいますよ。 B. Not yet, I'm sorry to say. My looks (rosy cheeks) belie me. I am still suffering a great deal.

(是よりは他人の健康についての問答とす)

甲、おとうさまはいかいですか。(又は母、兄弟、妹姉等) A. How is your father (mother, brother, sister, &c)?

乙、ありがとうございます、至極丈夫です。 B. Thank you, he (she) is very well. He is quite well again, thanks.

第五章 冠婚葬祭等のこと

した、
甲、お兄さんは不相變いけませんか。 A. Is your brother still badly?

乙、ありがたう、も一すつかりよくなりました。 B. No, thank you; he feels all right again now.

甲、御病人は今日は宜しい方ですか。 A. Does the patient feel better to-day?

乙、はい、どーもお蔭さまで、ちがへる程よくなりました。 B. Yes, thanks, he is considerably better, I am glad to say. He will be all right again shortly.

甲、お宅は皆さんいかにですか。 A. How are they all at home? How is your family?

御宅はみなさんおたつしやてですか。 B. Are you all well at home?

乙、お蔭さまで至極者です。 B. They are in good health, I am glad to say. (or) quite well, thank you.

はい、至て壯健でございます。 B. Yes, we are all in excellent health, thank you.

甲、……さんは御丈夫ですか。 A. Is Mr. — in good health?

乙、どーもようございませんと、 B. I am sorry to say, he isn't.

甲、……さんはどんな風です。 A. How is Mr. — getting on?

乙、此六週間程は煩ひ通して、 B. He has been ill for the last six weeks, poor man.

甲、御兄弟が右の腕に怪我なされたと聞きましたがほんとうですか。 A. Is it a fact that your brother has broken his right arm?

英語活用寶函

- 乙、はい、どーも困つたことになりました、あと一月たゝなければとても満足に右手はつかへますまい。
- 甲、君のおぢさんは大層御様子かわるいようですがどーなつさつたんですか
- 乙、申しにくい事ですが、あれは始終肺に痛みぎあるとこぼして居ますが、どーも肺病でないかと心配して居るところです。
- 甲、御病人は御見込があるよーですか。
- 乙、いえ、さうも申兼ねます、再發するととてもだめだらうと存します。

(是よりは家族の健康を問ふ)

- 甲、奥さんはお丈夫ですか。
- 乙、はい、なかなか元氣です。(親密な問柄にては妻の名を云ふ)
- 甲、お嬢さんはいかゞす、御遊者でしよれ。
- B. Yes, I am sorry to say he has. It will be about a month before he can use his right hand and arm again.
- A. Your uncle looks very miserable (or queer, ill); what is up (or the matter) with him?
- B. That's hard to tell. He has been complaining of a pain in the lungs for some time past. I am afraid he is consumptive.
- A. Is the patient out of danger?
- B. No, I don't think he is. A relapse might set in, and that would no doubt be fatal.
- A. Mrs. (or, quite familiarly: your wife.) in good health?
- B. Yes, thank you, my wife (or more familiarly: Mrs. —) is wonderfully well.
- A. How is Mrs. P. (or, Miss P, i. e., the eldest daughter)? Quite well, I trust (or hope).

第五章 冠婚喪祭等のこと

- 乙、まー元氣な方です、いやどーもいけませんでこまります。
- 甲、二番目のお嬢さんほどーですか。
- 乙、ありがたう、熱はとれましたがまだ中々本復いたしません。
- (是よりは妻に就て其の安否を問ふ體)
- 甲、……さんはいかゞです。(親密の間柄なればおやどはなど、云ふ)
- 乙、お隆さまで今日はだいぶよくなりましたよーです。
- 甲、……さんはどんなごあんばいです。
- 乙、此頃はどーも勝れませんでね、困つて居ます。
- B. She is tolerably well, (or 'middling). She is not very well, I am sorry to say.
- A. Is Miss (or your second daughter) quite well again?
- B. Thanks, the fever has left her, but she does not feel up to the mark yet.
- A. How is Mr. ... (or, more familiarly; your husband)?
- B. My husband feels greatly relieved to-day, I am glad to say.
- A. How is Mr... getting on?
- B. He has not been very well lately, I am sorry to say.

(以下は患者を慰問する様)

- 御不快だそーて、御氣の毒ですれー
- 早くおなをりなさいませ、
- 重くならない様こと念じて居ます。
- 御不快ですか、重くならなければよいですがね、
- 早くお醫者に見ておもらいたさ
- I am very sorry to hear you don't feel well.
- I hope you will soon get over it.
- I hope it will not (or it won't) be anything serious.
- You are ill? Nothing serious, I hope?
- You should consult a doctor (or physician)

英語活用寶函

い、 at once.
 篤と診察を受けていらつしやい、 Go and have yourself carefully examined.
 直と床におつきなさい、大分おわ Go to bed at once; you seem to be
 るいよーです、 seriously ill.
 御大事になさるがよろしいです、 You must take (better) care of yourself.
 明日はくいらか御宜しくおなり I hope you will feel a little better when
 さいませう、 I come to see you to-morrow.
 元氣をおだしなさい、なんのこれ Cheer up! Don't lose courage!
 しきにあなた、
 御氣をたしかになさい、勢をお Keep up your courage! Keep up your
 つけなさい、 spirits!

【慶吊文例】

(一) 誕生祝賀の文

拜啓

男子御誕生の由誠に以て御目出度存候健全に御生長の
 程偏に祈上候乍憚御令聞様にも右御鳳聲被下度祈上候敬具

乙 生

Dear A.....

Let me offer to you my most sincere congratulation
 upon the arrival of your son. May he prove to you a
 blessing in all years to come.

Please present my kindest regards to Mss. A.....,
 and believe that I am,

Ever yours truly,

B.....

第五章 冠婚喪祭等のこと

(二) 結婚祝賀の文

拜啓

貴簡只今拜受候處貴兄には華燭の盛典を擧げられ候由
 慶賀に不堪候何卒御仲睦敷幾久敷御暮被遊様祈上候不取敢
 右御祝詞申述度如斯に候 頓首

申 生

Dear Mr.....

Your letter informing me of your new happiness has
 just received to me, I hasten to tender my hearty con-
 gratulations, and wish you every blessing of a wedded
 life.

With kind regards to Mrs., as well as yourself

Yours sincerely,

H.....

(三) 病氣見舞の文

拜啓

承り候へば貴君御不快の趣誠に御氣の毒に存上候折角
 御攝養被遊早目に御快癒有之様只管奉祈候 謹言

庚 生

My dear friend,

I have just heard, with sincere regret, of your illness,
 and write to express my sympathy and most earnest good
 wishes for your speedy recovery,

Hoping to hear very soon that you are better, I am

Ever your friend,

G.....

(四) 友人の父死去につき悔みの文

謹啓

御尊父様御永眠の趣承り痛悼に不堪候謹んで吊意を表
し度斯くの如くに候 頓首

壬 生

Dear Mr.....,

I hear with deepest grief the news of your honoured
father's death. Let me offer you my profound

sympathy,

I remain,

Yours very truly,

I.....

第六章 交際のこと

蒙昧の時代はいざしらず、既に社會をなし國家を形成すれば
必らず交際の要起り、従て種々の禮法生じ來る、これは文化
進み交通開くるに従ひ、愈々繁雜となるものなれば、英米の
如き先進の國民にては種々社交の禮法定まり、濫りに之を犯す
能はざるに至りしは當然の事と云はざる可らず、今彼國社交上
の禮法習慣につき其概略をのべんとす、先づ紹介(インツロダク
ション introduction) のことより始むべし。

【紹介の次第】

始めて交際を求めんとするものは必らず誰かの紹介を待たざる
可らず、我國にては人を紹介するに何の造作もなく稍無責任の嫌
あれど彼國にては、中々嚴正のものと思はざる可らず、先づ公け
の席にて甲乙二人未見の間柄なりとせよ、此際丙なるもの紹介
の勞を取らんとせば丙は先づ甲に向ひ「乙君を紹介致さん」(May
I introduce Mr. B? 又は Allow me to introduce Mr. B) と述べ、次に乙
に向ひ同様「甲君を紹介致さん」と述べ、かくして兩者を對面せし
むるなり、此際注意すべきは紹介の順序にして必らず男子を婦人
に紹介する様にし、婦人を男子に紹介す可らず、又長者に年少者
を紹介する様にし、年少者に長者を紹介すべきにあらず、但社會上
の地位いちじるしく懸隔する時は年齢の老少、男女の差別に拘は
らず、上位者に下位者を紹介する

が禮なれど、先づ一般に婦人を先にし男子を後にし、長者を上にして幼者を下にするを社交の本旨とせざる可らず、従て再び相遇ふ時も婦人より男子に向つて知己となれる態度を表し、長者より年少者に向ひ、上位より下位に向ひ知己たる態度を示さざる可らず、初めて紹介されたる時には握手 (シエークハンド shake hand) することなければ、其後握手の際には必らず婦人より手を差出すを待つ可く、男子より手を出す如きことなし、帽子を脱して黙禮するにも皆、婦人よりしかするを待ちて爲すべく、男子より先きんずることはすべて無用と心得べし、旅館等にて泊りあはせたる人と交際を求めんとせば、特に紹介を要せず否却てさる煩雜は厭はるゝ故、自由に談話を交へ交際を結ぶべし。

【紹介状の書式】

公會又は旅館等の外にて新たに交際を求めんとする人あらば、其人を知れるものに就て紹介状を得ざる可らず、紹介状は、我國に於けるが如く濫りに與ふるものならぬ故、紹介状さへ持參せば先方の人は一見急の如く信用して交際するものを知るべし、紹介状の書式は種々あれど次に簡單なる一例を掲ぐべし。

拜啓甲君を御紹介申上候間御交誼を給はり萬端御配慮願上候敬具

明治四十二年十月三日

丙 生

乙 君

Tokyo, 3rd Oct., 1909.

Dear Mr. B——,

I have the honour of introducing you to your acquaintance Mr. A—— whom I recommend to your kind attention.

Yours very truly,

C——.

(紹介状の封筒は開放し置き封ずべからず又紹介状は被紹介者の目前にて受信者の讀むものなれば簡明に認むべし、被紹介者の名は常に Mr. を附するを常とす)。

【訪 問】

未見の人に面接し交際を得んとせば以上の如く紹介状を持參し訪問 (コール call) を行はざる可らず、然らざれば彼等は頗る無禮のものと思ふべし「英人の家は彼の城廓なり」(An Englishman's house is his castle)と云へる如く彼等は己が家宅を犯す可らざる者と思惟する故、警官だに故なく入るを許さず、されば紹介状又は案内状なき訪問者を不都合なる者と見るも無理ならぬ事なり、さて紹介状を持參し、先方に至らば其書面に己れの住所を記せる名刺 (カード card) を添へ主人に届ける様に依頼し、一先づ退出すべし、而して其日は成る可く訪問するを避く可し、かくするほどに先方より案内状來る故、其指定の時日に更に訪問し茲に面接

を得ることゝなるなり。

【訪問の期日】

訪問の時日は日曜日の外いづれの日にてても宜しけれど通例午後四時乃至六時までを撰び他の時間は餘程熟戀のものゝ外訪問せざるが通例なり(かく午後の訪問にてもデイナーの前は常にモーニングコール morning call と稱す)紳士淑女の間にては夫々應接の日を定め置き之を各々其訪問名刺(ヴヰジティングカード visiting card)の端に記入せるものあり、假令ば「火曜日在宅」(At home on Tuesday)又は「毎月第一、第三木曜日在宅」(At home the first and third Thursday in the month)とするせるが如し是等は誠によき思附にて容易にいかなる人にも訪問の時日を會得させる次第なり。

【玄関にての應答】

彼等の私宅を訪問するには先づ玄関口に至り玄関脇に備付けたるベル(bell)又はノッカー(knocker)を四五回打ち鳴らすべし、かくすれば召使直ちに出来る故先づ訪問すべき人の在宅か否かを質すべし、其問ひ様は

Aさんの御宅はこちらですか。

Does Mr. A live here?

又は Is this where Mr. A lives?

取次の者然りと答へなば更に次の如く問ふべし。

Aさんにお目にかゝれますか(Can I see ^{him?} _{her?})又はお

うちですか(Is he in? 又は Is he at home? 又は Is he

at liberty to see me?).

此際召使は主人不在なるか、又は在宅なるも多忙なる時は其旨を答へ尙某日某刻に來宅あれと答ふべし、然らざれば直に「お名前は」(What name please? 又は What name if you please? 又は What name shall I say?)と問ふにより自己の姓名を告げざる可らず此際自己の名刺を商用の外は出すことなし、召使は主人に通ずるに先だち先づ訪問者を應接間に導き主人の出で来るをこゝにて待たしむ。

【初對面の挨拶】

やがて主人出で来る故初對面の折ならば立ちて一禮し發問の調子にて「Aさんですか」(Mr. A?)又は「Aさんのお咄を伺へませうか」(Have I the pleasure of speaking to Mr. A?)と述べしとすれば先方は「左様、拙者がAです、どうぞ、お掛け下さい」(Yes, that is my name; will you take a seat, please?)と答へ、次に續けて「如何なる御用で」と問ふべし、之に對し「御多忙中お邪魔をいたして濟みませんが」(I hope I am not trespassing on your time.)と語り出せば先方は軽く「どゝいたしまして」(Oh, certainly not)と答ふべし、是よりして我訪問の用向等すべて談話を簡明に述べ行くべし、以上は初對面の應接なるが若し相互に懇意の間ならば必らず「B君、今日は」(Good morning, Dear B.....)午後ならば「今日は」(Good afternoon, Dear.....)夜分ならば「今晚は」(Good evening, dear.....)と述べ先方は

英語活用寶函

「よういでお会いしました、珍しいことはございませんか」
(I'm very ^{pleas'd}/_{glad} to see you. What the news?) Sit down
又は will you take a seat?) と答へ且つ次の如く家族の健康を問ふべし。

【健康の問答】

おたつしやですか。

Well, how are you? 又は Well, how are you getting on?

どうおくらしてですか。

Well, how is the world using you?

みなさんおたつしやですか。

How are you at home?

みなさんたつしやてしやうね。

I hope you are all well at home.

おとうさんはおたつしやですか。

How is your father? 又は How is your father getting on?

之に對してはありがたう無事です (Capital, Quite, well, Pretty well, Very well, Tolerably well, Fairly well), Thanks. 又は Thank you) など、然る可く答へ是より談話に移るべし、交話中解しがたき言葉あらば「は、わかりですがも一度…」(I beg your pardon) 又は親近の間ならば「なんです」(What ^{did}/_{do} you say? 又は What were you say-

第五章 交際のこと

ing?) と問ひ直すべし、往々「なに」(What?) ときくことあれど餘りに無作法なり。

【訪問の種類】

さて訪問にも吉凶慶吊種々の區別ある事なるが、先づ知人結婚の報を得たるときは其新郎の家を訪問し慶意を表すべく、又其新夫婦の両親は婚約を發表せしときも婚儀を挙げたるときも直ちに慶賀の訪問を受くるものとす、而して慶意を表する訪問は必ず自身訪問するを社交上の義務とし、不祥の事又は家庭に紛議など起れる際には吊意を述べるとも慰籍の爲めにするにも、餘り急がず多少時日経過せる後訪問するをよしとす、又正餐會の招待にあづかり或は舞踏會などに出席せるときは、其後四五日以内に答禮の爲に訪問し、又玄關に至りて名刺を差し出し置くべし、名刺の置き方には種々の風習あり、後に細説すべし。

【告別の挨拶】

訪問の用事終り又談話も盡きたる時は誰も知る通り「左様なら」(Good bye 又は Good day 又親友間には單に ta-ta と云ふもあり) と挨拶するが常なれど若し初對面なりし時は更に次の如く言ひ添ふべし。

お目にかゝることが出来て満足いたしました。

I'm very pleased to have met you. 又は I'm very pleased to have made your acquaintance.

之に答ふるには單に一禮するか、又は「有難う」(Thank you)

英語活用寶函

と答ふるか或は場合によりては次の如く言ふべし。

いづれ又其内あめにかります。

I hope we shall have the pleasure of meeting again.
かくすると共に握手し互に一禮を爲すべし、熟戀の間にては以上の挨拶は勿論頭を低れる事すら無く、只握手しつゝ次の如き挨拶を交換してわかるゝなり。

(客) もーあいとまする。

Good bye, dear, I must be off now. 又は

Now, I must say good bye.

いづれまた明日。

Then, good bye, till to morrow.

其内また遇ひます。

So long. 又は I shall see again.

(主) 奥さんはじめみなさんによろしく。

Give my kind regards (又は respects) to Mrs. A so
and so.

おとーさんがたによろしく。

Kindly remember me to your father.

(客) かしこまりました。

Certainly. 又は With pleasure.

【應接間にての注意】

よき序なれば茲に應接間にての心得を少し述べ置くべし。

第一、縦令短時間訪問なりとも外套(オーバーコート over-

第五章 交際のこと

coat) 又は上靴(オーバーシュー overshoe) を穿てるまゝ、應接間(ドローイングルーム drawing room) に入ること勿れ、短時間の訪問の際帽子と杖は携へ居るを許さるれど、傘は決して携へたるまゝ、應接室に入るべきものに非ず。

第二、主人若くは主婦が手を出すならば之に應じて握手すべし、すべて己より年長の人、又は位置高き人、殊に婦人に對して先方より手を出すを待ちて握手すべく當方より求むべきものにあらず。

第三、應接間に入らば躁急に椅子に着くべからず、しばらく佇立して主人の挨拶を待ち、腰を下すべし、椅子は常に靜かに保ち安らかに掛けらるゝ様にし、兩脚を交叉し又椅子をゆりうごかす様の事は禁ずべし、長椅子(ソファ sofa) 又は安樂椅子(イーージーチェア easy chair) の上に寛濶にかゝるも無作法なり、婦人其室に入り來らば必らず椅子を離れ起立することを忘るべからず。

第四、家具、繪畫其他應接室にあるものをしげしげと眺め又は卓子掛や椅子の總などを玩ぶ可らず、又度々時計を取り出して眺む可らず、兎に角安靜の習慣を要す。

第五、餘りに表情を多くし、御世辭の挨拶を多くするは宜しからず、只管過失なき様にと自己の舉動を氣にするも面白からず、さる人は言ふ「眞に禮容ある人とは常に己れの事を顧慮するに遑なき程、他人の事を思ひやるに忙しき人をいふ」(True politeness is always so busy in

英語活用寶函

thinking of others that it has no time to think of itself.

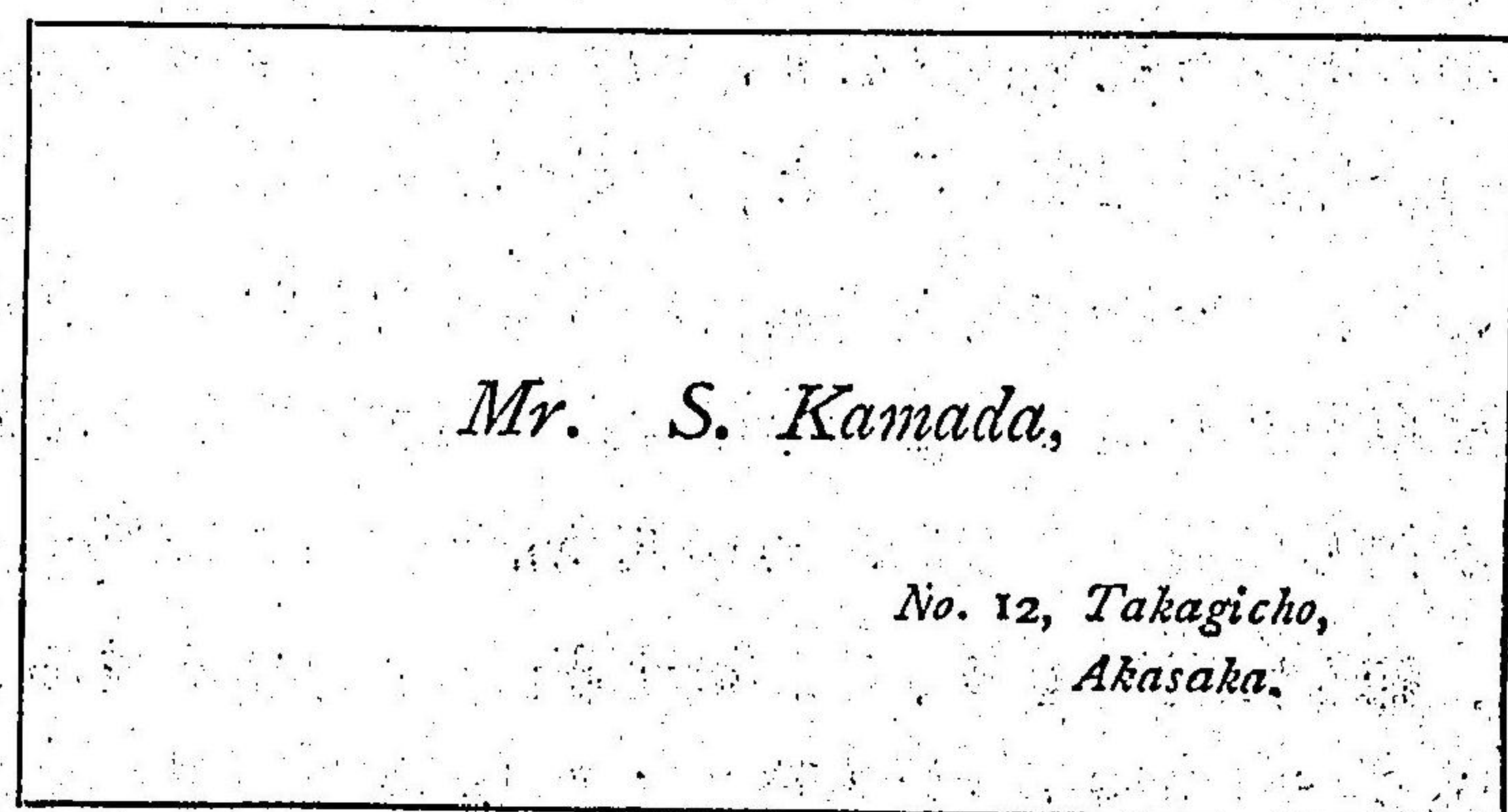
まことに味ふべき言なり。

第六、訪問の際最も注意すべきは談話の方法なり、殊に多數の人列席せる折は尙更注意すべき事なり、さりとして茲に其方法を明示する事も出来ざれど、主として自己の常識に訴へ他人に興味を興へ倦厭を感ぜしめぬ様、さりとして長きにわたらぬ様、心掛け、自己中心の談話を避け、又談話を獨擅する事なく、用向は簡明に述べて要點を明にするを期し、不快輕薄の調子を避けるにあり。

【名刺のこと】

名刺の置き方には中々煩はしき規定あり、其取り扱ひ方を異にする時は意外の間違をひき起す故、一通心得置かざる可らず、すべて訪問用の名刺は英國にては男子用 3.3×2 吋

第一圖



婦人用は 2.5×2.5 なるが、米國にては少し大なり、紙質は餘り薄からぬを用ゐ、活字は明瞭なる銅版をよしとす、(自家に不幸ありたる時は名刺の縁に黒きわくを施すことあり)

第五章 交際のこと

り、第一圖の如く姓名は紙の中央にしるし、住所を左側のすみに小活字にてあらはし短時日の滞在所ならば更に右側の隅に記すべし、尤そは鉛筆にて記して差支なし、姓名の頭に Mr. を附するは英國風にして米國には稀なり、これ自尊心より出たるに非ずして、此名刺の本人は稱號なきを示すにとどまる、従て有爵者又は陸海軍人等ならば、Baron S. Kamada (男爵……………) 又は Capt. S. Kamada, I. J. N. (日本海軍大佐) としるす次第なり、而して婦人ならば既婚者は Mrs. を附し未婚者は Miss を附すと知るべし、名刺は其用ふる場合により種々の事を記入するが故に下に其數例をしるすべし。

【記入の語句】

- 一、名刺の左上隅に P. F. V. と記せることあり、これ佛語の pour faire visil の略字にて英語の In order to make a visit (御伺まで) に當り、一般通常の訪問に用ふ、若先方不在にして之を残し置くときは名刺の上方又は下方を折り置くべしこは訪問者自身此名刺を残せるを意味するもの也。
- 二、名刺の右上隅に P. F と記せることあり、これ佛語の pour féliciter の略字にして英語の In order to congratulate (祝意を表す爲に) に當り、クリスマス及新年、誕生、結婚等の時に用ふる訪問名刺に記入す。
- 三、名刺の左下隅に P. C. と記すことあり、これ佛語の

英語活用寶函

pour condoler にして英語の In order to condole. (弔意を表する爲に) に當る、死去又は葬式等の際訪問する名刺に用ふ、尤此略字に代ふるに英語にて With deep sympathy 又は With much sympathy とするも可なり、共に哀惜の情を表すとの意なり。

四、名刺の右下隅に P. P. C. と記せるは佛語の pour prendre congé の略字にして In order to take leave (御暇乞の爲に) の義にて告別の際に用ふる訪問名刺にかく記す。

五、病氣見舞の時用ふる名刺には左上隅に To inquire (御見舞まで) と記す、又之が答禮の訪問名刺には With thanks for kind inquiries (御見舞被下奉謝候) と姓名の上方に記すべし。

【名刺の置き方】

前に述ぶる如く名刺の置き方は餘程煩はしけれど、是にて交際を希望するか、然らざるか表せられ又種々の意味を明かにさるゝ故疎略にす可らず、而して此事は婦人社會にて定めたる事多ければ、婦人は殊に習熟するを要す、名刺を置きに行くは一家の主婦之を親らし、妻は夫の分をも持参すべく、若し娘を遣はす時は、父の分をも携へ行くものとす、主人親ら名刺を置きに行くことは獨身者の友人に對する時のみなり、すべて訪問名刺は自身持参すべきものなれど交際期 (シーズン season) に入り、ロンドン着の折、交際の廣き人は從僕又は文房具商 (ステーションナー stationer) に托

第五章 交際のこと

して届けしむる事もある由、此名刺を置く時は其家の主婦の在宅か否かを尋ね、不在の折か初めての訪問には、三枚の名刺を置くべし。これ己の分は其家の主婦に對し夫の分二枚は、一は其家の主人他は其家の主婦に對するものなり。若し先方在宅の折は訪問の後歸る時、夫の分二枚を玄関の卓上に置く可く名刺入又は應接間の卓上に置くは違禮なり、又先方の主婦既に相當の年齢に達したる娘を有し居る時は、名刺の一隅を折り置く也左すれば令嬢をも訪問せるとの意味表はるゝなり、年少の婦人は自己の訪問名刺を有する事なく、母親の名刺中に併せて印刷すべく (第二圖を見よ)、母存命せずば、父の名刺に併記し、交際社會に出

第二圖

Mrs. Armitage.

Miss. Armitage.

*The Limes,
Richmond.*

でたる折は、同行者か親戚の名刺の下部に鉛筆にて記入しもらうを常とす、蓋相當の年齢に達する迄は交際仲間を撰擇する必要なき故、別に之を所有する必要なきによる、尙結婚後は夫妻同一の名刺に名を署するもよし、假令ば Mr. and Mrs. Armitage と記すが如し。

英語活用寶函

【名刺授受の作法】

訪問名刺を受けたる時は、一週間以内、あるいは遅くとも十日以内に答禮すべし、

【交際用文例】

(一) 紹介状

拜啓

當市在住の友人丙君を御紹介申上候御交誼を給り候へば本懐の至りに御座候

My dear Mr

It affords me great pleasure to introduce to you my

第五章 交際のこと

esteemed friend, Mr. C , of this city. Any attention you may be able to show him will be greatly acknowledged, and cheerfully reciprocated by

(二) 被紹介者に贈る文

謹啓

乙君より貴下宛への紹介状頂戴致居候間御差支無之候は、明日午後四時參上致度候右得貴意度如斯に御座候敬具

Dear Sir,

Mr. B having favoured me with a letter of introduction to you, I shall give myself the pleasure of calling on you to-morrow afternoon at about 4 o'clock, with your permission.

Yours Truly,

(三) 訪問豫告之文

拜啓

久しく尊顔を拜し度存居候得共折悪敷雨天引續き其意を果さず今日まで相過候晴天とも相成り候は、明夕御伺拜顔致度希望致候 敬具

戌 生

Dear Mr. E

Although I have been wanting to call on you for a long time the bad weather have prevented me. If it is fine, I will come over to-morrow evening on chance of finding you at home.

Yours truly,

G.....

(四) 返 事

拜復

御書面拜讀仕候明日は午後三時後閑暇に候間何時にても御枉駕被下度奉待上候右御返事迄申入候 頓首

丙 生

Dear Sir,

In answer to your letter, I have the honour to state that I shall be at leisure after 3 o'clock to-morrow, and shall be glad to see you at any time after that.

I remain,

Yours very truly,

C.....

第七章 歳時のこと

【春 季】

花笑ひ鳥歌ふ陽春 (スプリング spring) の候もいつしか過ぎぬれば、汗を振ひ涼を逐ふ盛夏 (サマー summer) の候となり、やがて金風枯葉を卷く悲秋 (オウタム autumn) 來ると思ふもしばし、奇寒骨に徹し、雪片面を撲つ嚴冬 (ウインター winter) の候に入り、かくて一歳を終ふる事、東西元より異ならず、されど四時風土の差、地勢の影響之に加はりて、人事にも、自然にも、多少去來の變を見る事なきにあらずこれより英國の四季 (シーズン season) を概叙し、次で天候に及び一歳の祝祭日を擧げんとす。

春季は我國にて最樂しき時候とするところなるが、彼國にても亦此季を以て一歳中最も樂しき時節となす、一般に英國の氣候は不定にして天候も甚陰鬱なる事多けれど、五月 (メイ May) は比較的、天氣も晴朗にして自然のものすべて美觀を呈し、牧場農圃は綠氈を展べ、樹頭籬邊花將に綻びんとす、且つ鸞 (ナイトインゲール nightingale) 燕 (スワロー swallow) 公 (カック - cuckoo) 等の候鳥 (マイグレートリバーズ migratory birds) 南の方亞弗利加 (Africa) より來り、卵を孵し雛を育する傍ら婉囀たる妙音を弄して人を樂しましめ、矢車菊 (コーンフラワー corn-flower) 瞿麥花 (ポッポイズ poppies) 等は所々の郊原を飾り美麗云はん方なし、作物は新芽

を此頃に發する故、嚴霜 (シャープ フロスト sharp frost) なからん事を農夫は祈るなり。

【夏 季】

六月 (ジュン June) の末よりは天氣著るしく暖となり、夏季の光景迫り來る、時として氣候甚蒸し熱けれど (close) 雷雨 (サンダー・ストーム thunderstorm) 一過すれば爽涼の氣忽に湧くべし、雷雨至る時樹下に憩ふ可らず、電氣に感ずる虞あればなり、家には、其屋根に避雷針 (ライトニング コンダクター lightning conductor) を設け落雷の害を防ぐもの多し、さて七月 (ジュライ July) 八月 (オウガスト August) とすゝむに従ひ、溫度愈々昇り來る故、河水、浴場 (ベズィング エスタブリッシュメント bathing establishment) 浴槽 (bathing tub) 等に於て浴を取り、或は遊泳 (スウィミング swimming) を試みて暑を消する事多し、英人は運動を好むこと世界に冠たれば遊泳者の多きことも到底我國の比に非ず、數年前にはドーヴァー (Dover) 海峡を泳ぎ越さんとする婦人すら出てたりと聞く、此季に入れば櫻の實 (チェリー cherry) 杏 (エプリーカット apricot) 桃 (ピーチ peach) 草莓 (ストロベリーズ straw berries) 蝦夷莓 (ラズベリーズ raspberries) 懸鉤子 (ブラックベリーズ blackberries) 等熟して老少の口を喜ばしめ、農夫は孜孜として收穫 (ハーヴェスト harvest) の準備に従ふ。

【秋 季】

九月 (セプテムバー September) に入れば秋冷催ふし來り、晝

間は縮み夜分は延び行くべし、林檎 (アップルズ apples) 青梅 (グリーンゲージズ greengages) 梅 (プラム plum) 胡桃 (ウォルナッツ walnuts) 梨 (ペアー pear) 等の果實熟して摘むに宜しく、鳥類は多く暖なる地方へ向つて去り雀 (スパーロー sparrow) フォンチ (finch) 黒鳥 (ブラックバード blackbird; 「ツグミ」の類) スラッシ (thrush) こまどり (ロビンレッドブレスト robin red-breast) 等二三を残すのみなり、此季は狩獵家 (スポーツマン sportman) の活動する時にして山野に出て銃獵 (シューティング shooting) を楽しむこと我國に異ならず、因に云ふ米國にては秋をフォール (fall) 稱し一年の最好時節とす。

【濃 霧】

元來英國は前に云ふ如く濕潤の氣候多く殊に倫敦は濃霧にとち籠めらるゝ事少なからず、其霧、豆の肉羹 (ピースープ pea soup) の如しと云へば重厚なる事思ふべし、濃霧襲來するときは白晝といへども咫尺を辨ぜず、街燈 (ストリートランプ street lamp) 點ぜらるれど、そは闇中に燃る葉卷 (シガニ cigar) の火にも優らず、汽車も爲に速力を減ずと云ふ事なり、偕此霧最多きは十一月 (ノヴェムバー November) なれば此月を霧の月 (month of fog) とも呼ぶなり。

【冬 季】

やがて十二月 (ディセムバー December) 風雪 (snow and snow storm) の季となれば池上、河上凍結する故、氷滑 (スケーティング skating) 盛んに行はる、こは滑り靴 (スケート skates) を

穿ちて氷上を馳せる戯にして、運動好の英人冬期好んで行ふ遊戯なり、而して此戯を爲し得ざるものはスケーツを用ひずして滑走 (スライツ slides) を爲して楽しむ、雪多き日には兒童はトボツガン (toboggan) と稱する小形の櫓にのり、小山を滑り下る事もあり雪達磨 (スノーメン snow men) を作り雪小屋 (スノーハット snow hut) を營み、雪丸 (スノーボール snow ball) を投げ嬉々として戯むるあり、一體に鬱陶敷時節 (ダルトタイム dull time) なれども彼等は敢て戸内に蟄居せず、如此遊戯に娛樂を求め夜は暖かき爐邊に團樂し、愛讀の書を繙き或は劇場 (スィーエター theater) に赴ひき演奏會 (コンサート concert) を聴き、又は夜會 (イーヴニングパーティー evening party) を開きて以て此季をおくるなり。

【第五の季節】

以上四季の事を終へたるが、英國には尙「第五の季節」(フィフスシーズン fifth season) と云ふものあり、こは社交上の季節にて、交際社會に取りて年中最緊要の時節なり、或は之を「倫敦季節」(London season) と云ひ、五月 (May) 六月 (June) 七月 (July) の三ヶ月に渉るものとす、蓋し上流の人々 (アッパーテン upper ten) は平生市外の居城邸宅に住するを常とすれど、此時には各々倫敦即「タウン」(town) に歸來するを以て、倫敦の交際社會は頗ぶる般賑を極むるなり、劇場音樂堂は勿論諸種の藝術家 (アーティスツ artistes) にして俳優 actor 音樂者 musicians 唱歌者 singers 舞蹈家 dancers 等) が最

も活動し晴れの技藝を公衆に示すも此時とし、皇立美術院 (ザ、ロイヤル、アカデミー The Royal Academy) が最見るべき展覽會 (エキズイビション exhibition) を開くも亦此時にあり (此展覽會は佛國のサロン salon と匹敵す)、園遊會 (ガーデンパーティー garden party) 野遊 (ピクニック picnic) も盛んに行はれ、川狩 (リヴァートリップ river trip) 催ふされ、大馬車 (四頭立の馬車 coach) にて four-in-hand と呼ぶ) にての外出行はれ、其他重なる競馬、クリケット (cricket) の競戯、自轉車競走等は皆此季に擧げらるゝを常とし、議會開かるゝも此際なり、されば此季節は實に倫敦の富と美と豪華とが、一時に展開せらるゝ時なれば「倫敦季節」とはよくも名づけられたり。

【スィリィシーズン】

倫敦季節終れる後スィリィシーズン (silly season) と云ふ事あり、こは三伏の暑中即「ドッグデイズ」(dog days) を含むものにして、七月二十二日より八月二十三日までを稱し此間は貴族 (アリストクラシー aristocracy) も富豪 (well to-do people) も海濱又は大陸諸國 (コンチネント continent) 或は埃及 (Egypt) 等へ避暑を兼ね遊歴 (趣くこと常なり、此等の人々が海邊旅行 (sea-trip) として趣くところは、ブライトン (Brighton) 最暑はれ南海岸のヘスティングス (Hastings) イーストボーン (Eastbownre) ペンザンス (Penzance) 等、東海岸のラムスゲート (Ramsgate) ブロードスティアズ (Broadstairs) マーゲート (Margate) 等之に次ぐ、マーゲートに

英語活用寶函

は有名なるコクニー海水浴場 (Cockney watering place) ありと聞く、此外ワイト島 (the Isles of Wight) と云ふは倫敦より約四時間を要する遠方にあれども、數日間の遊散には最宜しく、ブリストルチャンネル (Bristol Channel) のイルフラコム (Ilfracomb) ノーフォーク (Norfolk) のクロマー (Cromer) やヨークシア (Yorkshire) 海岸等に恰好の遊散場、建築地等少なからず、而して、此等の各地へ行く人の便宜の爲、倫敦の停車場にて廻遊券 (エキスカージョシチケット excursion ticket) 發行さるゝなり。

【一般の天候】

儲此國は四面大洋にて繞らされ、殊に其西海岸は所謂灣流 (ガーフストリーム Gulf Stream) に洗はるゝ故、歐州大陸の中部に比しては、幾分、中和の氣候 (クライメート climate) を有し冬は甚寒からず、夏は甚熱からず云ふべし、又海邊の氣候 (インスユラークライメート insular climate) は内陸 (インランドカントリーズ inland countries) の氣候よりも溫氣を含むこと多きは、當然なり、降雨は多く倫敦にては、一年中平均百八十二日の割合にて降雨ありと云ふ。

溫度の變化を驗するに、寒暖計 (サーモミター thermometer) を用ひ、天候の變化を知るには暖雨計 (バロミークー barometer) を用ふるは誰れも知る所なるべし、英國にて用ゐらる寒暖計は多く華氏 (ファーレンハイツ Fahrenheit's) のものなり又重なる新聞紙には必らず其の日の天氣豫報 (ウェザーフォー

第七章 歳時のこと

アカスト weather forecast) を掲げ、あるものは之に添ふるに天候區域圖 (ウェザーチャート weather chart) を以てするものあり、天氣の事はよく英人の話題に上るが如く、商店にて番頭が觀客を迎ふるにも先づ (い、お天氣ですな、旦那) nice-day, Sir とか (いやな朝ですれ-) Dull morning, isn't it? など云ひて挨拶とする事多し、又英人は不得止場合の外ウェザー (weather) と云ふ語を用ふるを避け、day, morning, night 等を以て之に代ふるが如し。

四季ありありの事を叙し、次に氣候の事も約説したれば、次は歳時の別ち方等を詳説すべき順なれど、そは多く吾人の知れる事なれば、之に用ひる語句は、本章終尾に於て學ぶ事とし、こゝには單に世紀、年號のこと、標準時の事をしるし、而して一年中の祝祭日に及ばんとす。

【年代の呼び様】

世紀 (センチュリー century) と云ふは百年を稱するにて吾人は現に二十世紀の青年なりと稱するは、耶蘇紀元 (クリスティアンエラ Christian Era) にて一九〇〇年代なればなり、即二十世紀は千九百一年一月一日 (明治三十四年) に生まれりと知るべし、次に年號を示すには幾種も記し様あり、普通歴史書等に見るは、紀元前をあらはすに B. C. (Before Christ) を以てし、紀元後即基督誕生後をあらはすに A. D. (anno Domini=In the year of our Lord's) を以てすれども、又英雄偉人の生存時代を取りてあらはす事あり、たと

英語活用寶函

へば文豪シェークスピアの在世時を稱してシェークスピアズタイム (Shakespeare's time) と稱し、エリザベス 女皇の時代をエリザベザンエージ (Elizabethan age) と稱し或はジョージ第一世の御治世中 (in the reign of King George the First) とするが如し。

【標準時】

標準時 (ノーマルタイム normal time 又は ミーンタイム mean time) は、一日の時刻地方によりて異なる爲め準據すべき時間を定めたるものにして、英國の時計は悉くグリーンニッチ標準時 (Greenich Mean Time) と合せあるべき筈なり、グリーンニッチと云ふは皇立天文臺 (ザ、ロイヤル、オブ、サーヴエートリイ Royal Observatry) のある所にして、東西子午線 (サ、メリディアン the meridian) の度数はこゝを通過するものを基點とせるものなるは既によく知る所なり、而して同一子午線中の土地は同一に正午に達すべきも、其他は東の方一度 (アクリー degree) を増す毎に四分進み、西へ一度加はるに四分づゝ遅れ行く次第なり、さればグリーンニッチ標準時の正午十二時は佛國標準時の零時九分、(12. 9. p.m.)、獨逸の午後一時 (1 p.m.)、魯西亞の午後二時一分 (2. 1. p.m.)、ニューヨーク (New York) の午前七時四分 (7. 4. p.m.)、メルボーン (Melbourne) の午後九時四十分 (9. 40. p.m.)、シドニー (Sydney) の午後十時五分 (10. 5. p.m.) にあたる次第なり、尙こゝに記せる p.m. と云ふは午後 (アフターヌーン afternoon) の意義を有せるポー

第七章 歳時のこと

ストメリディエム (post meridiem) の頭字を取り、a.m. は午前 (ビフォーヌーン before noon) の意義なる アンテメリディエム (ante meridiem) の頭字を取りたるものと云ふ、是より祝祭日のことを述べべし。

彼國にては我國の祝祭日と同じく宗教上若くは歴史上記念すべき日を以て祝祭日とし、其日は業を休み、饗應を設け又は物品を贈答することあり、是等は大概曆 (カレンダー calendar 又は アルマナック almanack) に記さるゝ故、曆を見て直ちに識るを得べく、且赤色の文字にて記さるゝ故祝日を總稱して レッドレターズデイ (red letters day) とも云ふなり、今其重なるものを擧げ且當日の行事をも語るべし。

【日曜日】

日曜日 (サンデー sunday)、日曜は安息の日 (day of rest) と呼ばれ居るが此字義通り確守するは英國の人民なり、英國にては此日すべての工場、製造場、店舗、官省一切業を休み戸を閉ぢ、朝又は晩に會堂に趣く外、多く家庭に閉居して家庭團欒の樂を味ふ、但中には自轉車を驅り又馬車を馭し郊外に遊ぶもあり、いづれにしても一週日の勞を犒ひ日頃の鬱を遣るに費さざるはなし、平生喧騒を極むるロンドンの街衢も此日は行人寥々閑寂の觀をなし、汽車の發着もいちじるしく減じ、午前十時より午後三時までは全く運轉を休止するを常とし、郵便函は土曜日の夜半より開かれざるを以て書簡の往復すら杜絶し、劇場 (スィアター theatre) は

英語活用寶函

じめ諸種の遊樂場も休業し、日刊新聞 (デイリーニュース daily news) も發刊されず、料理店 (レストランズ restaurants) も客を迎へず、只酒舗のみが午後六時より十一時半迄まで來客を待つにとゞまるなり、されば會堂往返の時間 (church time) のみが行人多けれど其餘は頗る寂寥たるものなり、會堂に趣く時刻は、午後六時半又は七時頃とす、商店は大抵土曜日の午後より其番頭 (クラーク clerk) 小僧 (ショップボーイ shop boy) に休暇を與ふるを以て、皆欣然クリケット場に赴むき快括に運動し、或は其競技を參觀して楽しむが常なり、元來英人は他の宗教的儀式には至て冷淡にして、蘇國人 (スコッチ Scotch) の如きは 耶蘇降誕祭にすら業を休まざれど、日曜を格守することは國內皆然りと云ふ可し、有名なる ビスマーク (Bismarck) 公が英國に上陸し口笛を吹きたるに、「今日は日曜なり、口笛は止め給はれかし」と云はれし事は世によく傳はれることにして、如何に英人が日曜に靜肅なる生活を營むかを推すべし。

【耶蘇降誕祭】

耶蘇降誕祭 (クリスマス Christmas) 又略して Xmas. と記す) 之は基督降誕の紀念日にして毎年十二月二十五日に當る、此日は我國の新年と同じく一年中の最歡樂を盡す日なり、其前夜は クリスマスイブ (Christmas Eve) と稱し、特別な儀式はなけれど、兒童には面白き慣例あり、即就襪の折長靴下を吊し置くことにて、かくすれば夜半サンタクラウ

第七章 幾時のこと

ズ (Santa Clause) とて白髮の神使煙突 (チムネー chimney) を傳はりて下り來り、此靴下の中に種々の玩具 (トイズ toys) 甘菓 (スウィーツ sweets) 等を入れ置き去ると言ひ傳へられ居るなり、しかし其實兩親にて兒童の喜ぶ物を買ひ置き、此夜竊かに靴下の中に入れ置くなれば、兒童は目覺めて之を發見し欣々として喜び楽しむ次第なり、さてクリスマスの朝となれば人々は 相遇ふ毎に「クリスマス御目度ふ」 (“A merry Christmas to you?”) と挨拶し「御同様に」 (“the same to you”) と答禮す。此日には

【クリスマスカード】

知己朋友間にては互に クリスマスカード (Christmas card) なる美麗のカードを贈答する例なり、但物品を贈答するは非ず、カード面には大抵

降誕祭並に新年を祝す。

A merry Christmas and a happy New Year.

又は 此佳節を祝す。

With the compliments of the season.

又は 楽しきクリスマスと幸多き新年を迎へられんことを祈る。

Wishing you merry Christmas and a prosperous New Year. など、しるさるゝを見る。

【饗 應】

カードの外此日の大切なることは クリスマスディナー

英語活用寶函

(Christmas Dinner) と、飾り木と、一種の狂言 (クリスマスバントマイム Christmas pantomime) なり、先づクリスマスディナーの事より述べん、クリスマスのディナー即ち正餐は炙肉 (ローストビーフ roast beef) 七面鳥 (ターキー turkey) ミンスパイ (mince pie) 梅のプディング (plum pudding) を主なる献立とし、殊にプディングは主婦が丹情をこむるものにして、遠き以前より之を準備しいづれも己が製せるプディングを客に風味せしめ、其手腕を誇らんとはするなり、又七面鳥も此日に缺く可らざる馳走にして下流の家庭にても必らず之をととのへ、到底得る能はざる者は鷓鴣 (グース goose) を以て之に代ふるなり。

【装飾】

次に飾り木の事を言はん、こは國々により多少異なれど英國にては重に冬青 (ホーリー holly) 常春藤 (アイヴィ ivy) 寄生樹 (ミズルトー mistletoe) と常盤樹 (エヴァーグリーン evergreens) を用ひ是にて各室、玄関、教會堂を裝飾す此裝飾とクリスマスケーキ (Christmas cake) とを賞玩する喫茶のまどゐは第十二夜 (twelfth night) 即ち一月六日まで繼續するものとす、次に前記のクリスマスバントマイムは一種のだんまり狂言にして賑やかなる音楽入りの芝居様のものなり、ロンドンにてはヅルーリレン座 (Drury Lane) にて行はる、尙クリスマスの夜にはウエイツ (waits) と稱し我國の萬歳様のもの門毎に立ちてクリスマスの頌歌 (Christms

第七章 歳時のこと

carols) を演奏するあり之には必らず數個の銅貨を與ふる例なり。

【ボックスィングデー】

又知己友人間に物品の贈答はなけれど、召使と郵便集配人 (ポーストマン postman) 牛乳配達 (ミルクマン milkman) 等にはクリスマスの翌朝、來りて祝儀を述べるとき多少の金錢を入れたる小函を與ふ、これをクリスマスボックス (box) と稱ふ、故に十二月二十六日はボックスィングデー (boxing day) とも呼ばるゝなり、此ボックスィングデーはバンクホリデー (Bank holidays) の一なり、抑々バンクホリデーと云ふは一八七四年サー、ジョン、ラボック (Sir John Lubbock) の主唱により法律となりて英國に布かれたる休業日にして、すべての銀行、商店、製造場等必らず其業を休みて雇傭者に休暇を與ふる時にして、かゝる日は此ボックスィングデーの外に三日ありイースターマンデー (Easter Monday) とホイットマンデー (Whit Monday) と八月の第一日曜日と是なり、是等の祝祭日の事は後に記す所あるべし。

【新年】

正月元旦 (ニューイヤーズデー New year's day)、元日には英國の寺院禮拜堂は大概勸行 (サーヴィセス serices) を爲し、除夜 (ニューイヤーズイブ New year's eve) には宗教上の儀式あり、之をウオッチナイトサーヴィス (watchnight service) と唱ふ、又除夜には寺々の鐘舊年の終るを報じ、新年の來

英語活用寶函

るを告ぐるまで、戸々皆寝に就かず、大丸太を爐中に投じ、火の燃へ盡さぬ様にし、嬉々談笑燃邊に圍樂する習慣にして、やがて、鐘聲殷々新年を報ずるや、口々に「新年お目出度う」(a happy New year)と挨拶を交換し、尙遠方の友人へはクリスマスの際の如くカードを贈りて祝意を表すと云ふ。

【其他の祝祭日】

以上は重なる祝祭日なるが、尙其他に次の如きものあり。二月十四日(14th Feb.) 此日はセントヴァレンティンデイと稱し、下等社會にては此日を以て友人相互に無名の手紙又はカードを贈り樂みとする習慣あり、因みに云ふ、Valentine とは galentine の轉訛にして情人(ラヴァー lover)の義なり。

懺悔火曜日(シユローヴァチユースデー Shrove Tuesday) 四旬齋第一日の前の火曜日に當る日をかくなづく、四旬齋(レント lent)とは耶蘇復活祭前四十日間を稱するものにして、其間羅馬教(ローマンカトリック Roman Catholic)の信者、イングランド教徒(アングリカン Anglican)の一部は齋(ものいみ)を行ふなり、さて懺悔火曜は其各の示す如く神前にて己の罪を懺悔する日と往時は定まりしものなれど、今は斯様の事廢れ、只其日はパンケーキ(pan cake)を製して食する風習あるのみなり。

カーニヴァル(carnival). 他國にては此日に宴飲遊樂頗る

第七章 歳時のこと

盛んなれど、英國にては殆んどかゝる事を見ず、思ふに他國人がカーニヴァルに於て極むる觀樂を英人はクリスマスに於て極むるものならん。

聖灰日(アシュサンデー Ash Sunday) 懺悔火曜の次に來る祝祭日にて四旬齋の第一日に當る、昔は此日に罪業消滅の難行又は懺悔をなすべき衆生の頭に灰を撒きかけること羅馬教にての習慣例なりしよしなれど今はなし。

四月一日はオールフールスデー(all fools-day)と唱へ種々の惡戯計畫を以て知己友人互に相鬪弄するを樂しむ奇習あり、こは英國に限らず大陸にてはいづれも行はるゝ事なり。ホーリイウキーク(Holy week). 復活祭前一週間をホーリイウキーク(Holy week 聖週の義)と稱し其月曜日をパームサンデー(palm Sunday) 金曜日をグードフライデー(good Friday)と稱す、此日には家毎に十字架(クロス cross)を焼き付けたる甘麵包(パン Bun)を作り、其あたゝかなる間に喫する風あり、又下等社會にては種々觀樂を盡して此日を送る。

復活祭(イースター Easter). は三月二十一日後、満月に次ぐ第一日曜日に行はるゝものにして、此日は彩色を施せし鶏卵(colored egg)を贈答し、又カードを交換す、而して此日の正餐には必らず仔羊の肉(ラム lamb)と青豌豆(グリーンピース green peas)を缺く事なし、又前に云へる如く日はパンクホリデーの一なりとす。

英語活用寶函

復活祭後四十日を経て、耶蘇昇天節 (アセンションデー Ascension day) 来る、是より更に十日を経れば聖靈降臨の祭日 ホイットサンデー (Whit-sunday 又は Whit-suntide) 来り、其翌日は ホイットマンデー (Whit-monday) にして是又バンクホリデーの一なり。

五月一日 (1st of May). 此日は メイデー (May-day) と稱し ロンドン の石炭運送業の若者連中はじめ、其他のものども各々其馬匹や鞭等に種々の装飾を施し市中を練りあるく風習なり、又地方の村落にては、心優に行正しき乙女を撰び五月の女王 (メイクィーン May Queen) と稱して一村の少女等之にかしづき、中に メイポール (May pole) と稱する柱を建て、之を繞りて、舞蹈を演ずること年中の楽しみの一なりとぞ。

獨立祭、七月四日は亞米利加合衆國獨立宣言の紀念日なる故、彼國民は (フオース、オヴ、ジユール Fourth of July.) 又は デペンデンスデー (Dependence Day) と稱し、觀喜して此日を祝ひ各國の君主は祝辭 (コングラチュレーション congratulation) を大統領及米國代表の使臣に致さるゝを恒例とす。

ミカエル祭、七月二十九日は ミカエル祭 (Michaelmas day) と稱し セントミカエル (St. Michael) を祭るなり、富裕の家にては鶯鳥の焼肉を作りて此日の主なる御馳走とす。

八月の第一日曜は バンクホリデー の一なるが、此日は又 セントラボックスデー (St. Labbock's day) と稱せる、其故

第七章 歳時のこと

は バンクホリデー 七つ四大休日を法律にて定むる事を主張せるは サー、ジョン、ラボック なるが爲め、彼の名を紀念せんとして此名を附したるなり、ラボックは銀行家にして兼ねて科學的著作家たり、而して二十年間 ロンドン大學 より撰ばれて議院に列し、千九百年を以て貴族に列し、男爵 (Baron) に叙せられぬ。

十一月 (ノヴエンバ November) には二回の祝祭日あり、其一は此月五日にして ガイフオークスデー (Guy Fark's day) と名づけらる、千六百五年なりとか、ガイフオークなる男、三十六樽の火薬を國會議事堂 (ハウス、オヴ、パーリメント House of Parliament) の床下に潜め、一舉にして全議事堂を顛覆せんと企てしが陰謀半ばにして事露はれぬ、時正に十一月五日なりしを以て此日は永く彼の名を傳ふるに至りぬ、此日の夕方には爆竹 (ボンファイア bonfire) は丘上に點ぜられ煙火 (ファイアワーク firework) は街道より揚がり、

Please remember the fifth of November,
Gunpowder, Treason, and plot,

(忘るゝなかれ此日をば、 霜月五日の此日をば
山なす火薬積み上げて、 叛逆ありし此日をば...)
てふ歌謠は至るところの巷に聞ゆるなり。

【市長就任式】

第二は此月九日にして英國皇帝陛下の 天長節 (キングスバースデー Kings Birthday) と 倫敦市長就任の日 (ロードメーヤース

英語活用寶函

デー Lord Mayor's day) とを兼ねたる祝日なり、天長節は他國の如く、一般に祝意を表する特別の催あるに非ず、されど市長就任の式は年中行事の重なるものにして美麗目を眩ずるものあり、新たに撰ばれたる市長 (メーヤー Mayor) は此日を以て其名譽ある職務に就き、位地の尊嚴を示すべき徽章を授けられ、かくて市長行列 (ロードメーヤースショウ Lord Mayor's show) なる大儀式に移る、こは市長を擁してローコート (Law court) よりロンドン市廳 (ギルドホール Guild Hall) まで練りあるく行列にして、華麗見る人を驚かすとぞ、尙ひとりロンドンのみならず全國各市の市長も皆此日を以て就任する定なり。

【誕生日】

以上にて英國民一般にわたれる祝祭日を概略説明せるつもりなれば、次に個人の祝日たる誕生日の事を一言せざる可らず、誕生日 (バースデー Birth day) には友人親戚より其當人に祝辭を呈すべきものにして其常文句は次の如し。

幸福なる此日の幾久しく君にめぐり來らん事を祈る。

I wish you many happy returns of the day.

之に對しては「有り難ふ」(thank you) にて足るなり、他の國にては此日に盛大なる祝宴を設ける事あれど、英國にはかゝる事なし、但物品を贈り祝意を表するは普通に見る所とす、初誕生日の事に因み是より年齢の問ひ方、答へ方に關係ある用語を附記して此章を終るべし。

第七章 歳時のこと

【年齢に就ての問答】

先づ對者の年齢を問はんとするときは、

貴下はおいくつですか、

How old are you? 又は

What is your age?

と問ふべく、第三者の年齢を問ふときは、

御尊父様はおいくつですか、

How old is your father?

あの人はいくつでしょう、

How old do you take him to be?

”

How old do you think he is?

あの女はいくつでしょう、

What age do you suppose her to be?

”

How old do you suppose she is?

あの人はいくつと思ひます、

How many years you give { him? her? }

等の言ひ方あり之に對する答へ方は次の如し、

私は十五歳です、

I am fifteen.

”

I am fifteen years old.

”

I am fifteen years of age.

私は十六才を出ました、

I am turned sixteen.

私は十六歳をこしています、

I am over sixteen.

私はもうぢきに十七才です、

I am nearly seventeen.

私は満十七歳になりました、

I have just completed my 17th year.

私はまだ丁年になりません、

I am under age yet.

もう四年たてば丁年に達します、

In four years' time I shall come of age.

まだ二十歳になりません、

I am still in my teens.

(十三歳より十九歳までを teen age と云ふ)

兄は私より八歳年上です、

My elder brother is eight years older than I.

あれははちになつて居ます、

He is out of teens.

英語實用寶函

彼はほんとうに二十五歳になる
ところだ、 He is in fact entering his 25th year.

父は八十二になりました、 My father is turned eighty two.

あなたは二十五歳位若く見な
さつたでしょう、實際そう高
齢には見へません、 You would think he was twenty years
younger; he doesn't look his age.

不思議に若く見えますよ、 He carries his age wonderfully well.

私の母はなくなつた時は六十
六ですあれが死んでから十四
年になります、 My dear mother was sixty six when she
died; she has been dead these fourteen
years.

私の弟は直に十五歳になりま
す年に大きいです、 My younger brother will soon be twenty.
He is tall for his age.

年のわりには伶俐です、 He is clever for his age.

あの人は五十以上の筈はない、 He can not be over fifty.

五十以上の男だ、 He is a man of fifty and upwards.

あれは男盛りです、 He is in the prime of life.

あの人の正確な年齢はわから
ない、 I don't know his exact age.

私の母は明後日で満五十歳に
なります、 My mother will be fifty years after to-
morrow.

日本には厄年と云ふ事あり西洋にもクリマクテリック (Climacteric) と云
ひて同じ事を云ふ但し彼國にては六十三才を大厄とす。

歳時用語及用句

春 スプリング spring. | 五月 メイ May.
三月 マーチ March. | 夏 サママー summer.
四月 エープリル april. (略して Apr.) | 六月 ジューン June.

第七章 歳時のこと

七月 ジュライ July. | 木曜 サースデー Thursday.
八月 オウガスト August. | 金曜 フライデー Friday.
(略して Aug.) | 土曜 サターデー Saturday.
秋 オウタム autumn. | 日曜 サンデー Sunday.
九月 セプテムバー September. | ウォーキングデイズ work-
(略して Sep.) | ing days.
十月 オクトーバー October. | ウキークデイ week day.
(略して Oct.) | (共に日曜を除く他の日を稱す)
十一月 ノーヴェムバー Novem- | 安息日 サロウズデー the Lord's
ber. (略して Nov.) | day.
冬 ウィンター winter. | (即日曜日なり、又サバス Sabbath
とも云ふ舊教にては土曜日を the
Sabbath とす)
十二月 デイセムバー December. | 午前 ビフォーヌーン before-
(略して Dec.) | noon.
一月 ジャニユアリー January. | 午後 アフターヌーン afternoon.
(略して Jan.) | 一時間 アンアワー an hour.
二月 フェブリアルアリー February. | 一分間 エミニット a minute.
(略して Feb.) | 一秒間 エセカンド a second.
月 マンス month. | 夜 ナイト night. (日出前を云ふ)
週 ウキーク week. | 朝 モーニング morning. (午前を云)
日 デイ day. | 正午 ヌーン noon.
各週 the day of the | (ミッドデー midday とも云ふ)
week. | 夕 イーヴニング evening.
月曜 マンデー Monday. | (日没後を云ふ)
火曜 テューズデー Tuesday.
水曜 ウェンズデー Wednesday.

英語活用寶函

日蝕 <u>サンエクリプス</u> sun eclipses.	ression.
月蝕 <u>ムーン</u> moon	天氣豫報 <u>ウエザーフォーアキャスト</u>
曆 <u>カレンダー</u> calender.	weather forecast.
” <u>アルマナツク</u> almanac.	(豫報に用ふる語次の如し但し元より数例のみ)
剝曆 <u>ブラックアルマナツク</u> black almanac.	南の風 wind southerly.
時辰儀 <u>タイムピース</u> time piece.	東北の風 wind north-easterly.
日時計 <u>サンダイヤル</u> sun dials.	概ね曇り cloudy generally.
砂時計 <u>アウクラズ</u> hour glass.	多少の雨 some rain.
懐中時計 <u>ウアッチ</u> watch.	後曇り cloudy later.
掛時計 <u>クロック</u> clock.	晴れ fine.
鳴鐘 <u>ベル</u> bell.	驟雨あり showery.
” <u>チャイム</u> chime.	暴風警報 <u>ストームウアーニングス</u>
振子 <u>ペンデュラム</u> pendulum.	storm warnings.
目覺時計 <u>アラームクロック</u> alarm clock.	暴風警報を解く storm warnings cancelled.
閏年 <u>リープイヤー</u> leap year.	寒ひ cold.
大厄年 <u>グランドクライマクテリック</u> grand climacteric. (六十三才)	冷い天氣 chilly weather.
温度 <u>テムペレーチャ</u> temperature.	險鬱な close.
低氣壓 <u>アトモスフィリックデプレッション</u> atmospheric depression.	雨勝の wet.
	熱い hot.
	變り易い天氣 catching weather.

第七章 歳時のこと

蒸す様な天氣 sultry weather. vary forward.
 濕ひ天氣 damp. 節が大分遅れて居る the season's
 節が非常に早ひ the season's son's very backward.

【時間に就ての會話】

- 甲、今日は何日ですか、 A. What is the day of the month?
 ” What is the (or today's) date?
 乙、今日は三月九日です、 B. It's the 9th of march.
 甲、今日は何曜ですか、 A. What day is it, to-day?
 乙、今日は水曜日です、 B. It is Wednesday.
 甲、只今何時ですか、 A. What Time is it, please?
 ” What o'clock is it?
 ” What is the time?
 ” What time do you think it is?
 ” What time do you make it?
 ” (見知らぬ人に問ふ時) Can you tell me the time, please?
 ” (の鄭重なる云ひ方は) Could you oblige me with the time
 ” (”) sir?
 乙、私の時計では丁度三時です、 B. By my watch it is just three.
 二時十分です、 It is ten minutes past two.
 二時十五分です、 It is a quarter past two.
 三時五分前です、 It is five minutes to three.

註 一時間の前半は過ぎ去れる時刻に分を加へ ...past... とすべく後半は
 来るべき時刻に分を添へ ...to... とすべし 即三時二十分前ならば
 twenty minutes past two. と呼び二時四十分ならば twenty minutes
 to three とせざる可らず、併鐵道吏員旅客等ばかり云はずして two
 twenty (2.20=twenty past two) 又は two forty (2.40=twenty to

英語活用寶函

three) など、云ふを常とす、又以上の如く正確に云はずして漠然と云ふ時は about, nearly 等を用ふ其例次の如し、

- 乙、七時頃です、 B. It is about seven. (or) it is nearly seven.
 ” It is very close upon seven.
 ” It is about to strike seven.
 も一七時をうつつ頃です、 It is not yet eight.
 まだ八時にはなりません、 It is eight at latest.
 おそくとも八時です、

【天候に就ての會話】

- 甲、今日は天気はどうでしょう、 A. What do you think of the weather, to-day?
 ” How's the weather to-day?
 乙、よい天気でしょう、 B. It seems a fine-day.
 甲、天気はいいですか、 A. Is the weather fine?
 乙、いい天気です、 B. Yes, it's fine.
 ” I expect we shall have a fine day.
 ” I trust we shall have a fine day.
 矢張り、天気がついませう、 I think it will continue fine.
 やがて晴れませう、 It will clear up by and by.
 雨模様になりませう、 It will turn out a wet day.
 甲、天気はどうなるでしょうね、 A. I wonder what the weather is going to be.
 乙、雨らしいです、 B. It looks like rain.
 甲、雷がきこえますか、 A. Do you hear the thunder?
 乙、夜中雷がなりました、 B. It thundered and lightened all night.
 甲、雨(又は雷)がやみましたか、 A. How it stopped (or left off, ceased)

第七章 歳時のこと

- 乙、いゝまだ降つてゐます、 B. No, it is still raining a little.
 車軸を流す勢でふつてゐます、 No, it is still raining in torrents.
 大片のが降つてゐます、 No, it keeps on snowing in great flakes.
 甲、風はどちらからですか、 A. Where is the wind from?
 ” From what quarter is the wind?
 乙、北風です、 B. It is in the north.
 風がかはりました、 The wind has changed.
 風が止みました、 It has abated.
 甲、晴雨計は昇りますか、 A. Is the glass going up?
 乙、否や降ります、 B. No, it is going down.
 甲、天気が誠に定まらない、 A. The weather is very unsettled.
 ” The weather is changeable.
 いやな天気につづくことだ、 What wretched (or abominable, awful) weather we are having!
 乙、ひどい雨だ、私はつぶ濡 B. What a flood of rain! I am wet
 れて了、 through.
 甲、夜になりました、 A. Night has set in.
 眞の闇だ、 It is pitch-dark.

第八章 運動と娛樂

【運動好の國民】

英人は概むね體格強健にして背高く、敢爲剛毅の氣質に富む、これ既に英人の特質を叙せる條にも述べたる事なるが、かくの如き強健なる體格と、剛毅なる精神はいづくより得られるかと云ふに、第一祖先以來周圍の險惡なる境遇に堪へ、奮闘的生活をつゞけたるに基因するは云ふまでもなく、現在に於て彼等が滋養に富める食物を多量に取り、而して戶外の運動を盛んに行ふに因る事、最主要の原因たる事疑ふ可らず、實に英人は運動と戶外遊戯を愛する事比類なき國民なりと云べし、(John Bull is a great lover of sports and open air pastimes). いかなる學校も、運動場(プレイグラウンド play ground) なきはあらず、假令教室は不足すとも運動場の設備之なきは非ず、其公園に於ても必ず平面にして綠草生じたる廣き運動場の之なきは見ず、私人の住宅にても、少しく地面に余裕あれば、少くともローンテニス(Lawn tennis) 場を設けたるを見るべし、蓋し英人は運動の爲めには多大の金錢を擲つ事を辭せず、例へばシェフィールド市(Sheffield) は人口三十三萬の都會なれど、八十六ヘクタ(86 hector; 一ヘクタ一凡我一町) の運動場を設け、マンチェスター市(Manchester) は、數年前、四百萬圓を投じて市の中央に運動場を作り、ロンドンには千八百九十二年に

第八章 運動と娛樂

てクリケットの運動場六千七百、フットボールの運動場千を市廳に於て設計し或は修理せりと云ふ有様なり。

【運動の盛況】

かくの如く、廣大にして數多き運動場には、上下を通じ長幼に論なく必ず業務の餘暇を以て、こゝに集まり、各々己の好愛する運動を行ひ、活潑に、熱心に行動し、身體の發運を計ると共に、新鮮なる空氣を吸ひ、快暢なる精神を涵養す、實に羨むべき氣風と云ふべし、千八百八十六年來クリケットの覇者と唱へらるゝグレースは、既に六十歳に垂んとし、有名なる運動家アブソロムは千八百十七年生の高齡ながら、數年前までクリケットを廢せざりしと云へばいかに老境に入るも、英人が快活に嬉戯する事青年に異ならざるを見るべく、其他階級を問はず、職業を論ぜず、悉く一所に來りて、運動すれば、上下意志の疎通、陰密に行はるゝを得べく、從て運動に兼て社交の利益をも與ふる事となるなり。

【クリケット】

かくの如く英人は運動を愛するものなるが、其運動の種類中にて、わけて、彼等の好むはクリケット(cricket) と、フットボール(foot ball) なり、前者は春より夏にわたりに行はれ、後者は秋より冬にかけて樂まる、クリケットはベースボール(base ball) に類すれ共、ベース(base) 四ヶ所にあるかわりに三ヶ所に設けられ、之をウィケット(wicket)

と稱す、ウィケットには二本の棒を設け、棒の上に小木片を架し、其前に打手(バッター batter) 臍當と手の甲當を着け、擡を切れる如き棒(フラットクラブ flat club)を持して立ち、其後に捕手(キャッチャー catcher)あり、敵の方のウィケットより、投手(ピッチャー pitcher)球(ボール ball)を投ずれば、打手は之を打ち、其球、防禦軍の手に入りてウィケットに歸る間、二のウィケット間を往復せざる可らず、若其球ウィケットに當り、小木片を落せば打手はアウト(out)となるなり、故に熟練なる打手は一人にて數十、多きは、百回以上ウィケットの間を往復する事ある故、一人にていつまでもウィケットに立つ者あり、従て勝負に長時間を要し、大概十二時頃に始まり七時頃に終れども、時には二日又は三日に渉る事なきにしも非ず、而して其組(チーム team)十一人より成るを以て、クリケット、チーム (cricket team)と云はずしてエレヴンス (elevens)と呼ぶ事あり、チームには必らず組頭(キャプテン captain)一人なかるべからず、クリケットの最大勝負は、毎年、各地方、種々の俱樂部が其覇を争ふ時にあり、尤此勝負にはすべてが参加するに非ず各々第一流の名譽ある俱樂部のみ與るものにて此俱樂部相互に二度づゝ勝負し、最後に優勝の二俱樂部決勝を行ふマリアルボーンクラブ(Mary-lebone cricket club)は斯界最後乃審判者にして千七百八十七年創立され斯道に盡せる功勞顯著なり、總裁はウェールズ親王(Prince of Wales)即

皇太子とす、ロンドンにて最名高きクリケットの運動場はローズ(Lord's cricket ground)とオーヴァル(The Oval)の二なり。

【フートボール】

フートボール(foot-ball)はクリケットの如く、芝生の地面にて行ふと異なり、平滑の地面にて行ふものとす、此は最古き國民的遊戯(ナショナルゲーム national game)なれど、中頃しばらく廢絶し、四十年來再興せられたり、フートボールは兩方に二本の柱(ポスト posts)を立て、其上に各々横木(クロスバー cross bar)を架し、之をゴール(goal)とし双方相對し、一個の革球(レザーボール leather ball)を蹴合ひ、敵のゴールに蹴込みたる方を勝てりとするものなり、是にはラグビー(Rugby)式とアソシエーション(association)式と二様あり、前者はラグビー學校に創まりしものにて革球に手を觸るゝ事をゆるし、十五人のチーム(team)より成立し、後者は千八百六十三年に創まれる斯道の組合(アソシエーション association)の取れる方式にて、一切手及び腕を革球に觸るゝをゆるさず、組も十一人より成立せるものなり、フートボールの最大勝負は倫敦の南、水晶宮(クリスタルパレス Crystal Palace)に行はるゝものにして、全國にて最成績よき俱樂部二組、相對して勝負し、フートボール界の戦勝標たるイングリッシュカップ(English cup)を争ふものとす、此大勝負の際は、遠近より來觀るもの平均八萬人を

下らずと云ふ、獨りこの大勝負のみならず、數多の勝負に來り觀る英人の總數と其木戸錢 (クリスタルパレールにては一人一 shilling を拂ふ) を合すれば、實に莫大の額にのぼる次第にて、如何に英人が運動に興味を熱心とを有するか推知するを得べし、序に云ふフートボールにもクリケットにもアマテューアクリケットース (amateur cricketers), アマテューアフートボールプレーヤース (amateur foot-ball players) と稱するものと、プロフェッショナルス (professionals) と云ふものと兩者あり、前者は單に嗜好を以て行ふものにして後者は商賣的に金錢を得る爲めに競技を演ずるものなり、たとへばワンインニング (one inning) 中に五十回疾走を爲しおらせば、一ポンド (pound) の報酬を増與へられ、之をタレント、サヴレン (talent sovereign) と呼ぶなど、勘定づくに勝負するものと知るべし。

【ゴルフ】

英人がフートボール、クリケットに次で愛好する運動は、ゴルフ (golf) と云ふものなり、こは元來スコットランド (Scotland) の遊戯なれども、今日は至るところに行はれ、名人數多、英國に出でたり、大勢にて行ひ得る運動にて、小さな硬き球を、先端彎曲せる棒にて、諸所にある窪に打入れるものにして、成る可く打つ數少く、打入れる事多きを勝とするなり、此技に要するは、距離の測定、手及び腕の熟練及び打つ力と距離との釣合を取るにあれば、身體の運動

努力もあり過度ならず、多少不健康の婦人老者も行ふを得べき運動なり。

【庭球】

英人が愛する他の戶外遊戯 (オープンエアゲーム open-air game) は庭球即ローンテニス (lawn tennis) なり、こは我國都鄙の學校にても既に行ひ居るものにて長方形のローン (lawn, 芝生の義又コート court と云ふ中庭の義也) の中央を網 (ネット net) にて劃し、双方二人づゝ相對しラケット (racket) を以て馭談球 (インディアラバーボールス India-rubber balls) を飛ばしつ受けつする遊戯なり、此技は男子も婦人も共に演ずるを得べき故、いづれにも愛せられ、男女交際の要具とも見らる、此技はフートボールと同じく古き起源を有すれど今日の其方式はジュリアンマーシャル (Julian Marshall) 等の創意にして、千八百八十八年以來行はるゝものとす、ピンポン (ping-pong) と云ふはローンテニスに擬したる室内遊戯なり。

【其他の運動】

以上四種は英人の最嗜む戯なるが、此他稍フートボールに類するホッケイ (hockey) と云ふものあり、馬上にての球戯ポーロ (polo) と云ふものあり、フアイブス (fives) とて、三方に壁を立て球を之に打當て、打返すものもあり、ラクロス (lacross) クロケット (croquet) ボールス (bowls) コアイツ (quoits) 等いづれも運動に熱心なる英人が他に劣らぬ興味

を以て行ふ所の遊戯なり。

英語のスポーツ (sport) と云ふ字は、元來狩獵の種々の種類、殊に鳥撃、漁獵に用ゐられたりしも、今は其意味廣まり、運動遊戯を皆含むことゝなれり、但アスレティックス (athletics) と對せしむるときは、スポーツは前に掲げたる諸種の遊戯を總稱し、アスレティックは競走、漕舟、拳術等を含むが如し。

【各種の競技】

高飛 (ハイジャンプ high jump) 幅飛 (ロングジャンプ long jump) 竿飛 (ポールジャンプ pole jump) 鐵槌投 (ハンマースロウイング hammer throwing) 徒歩競走 (ウォーキングレース walking race) 障碍物競走 (ボードルレース hurdle race) 野外競走 (ステイプルチェース steeple chase) 撒紙競走 (ペーパーチェース paper chase) 囊中競走 (サックレース sack race) 等は英人がよく行ふ競技なり。

【拳術、自轉車術、氷滑、狩獵、游泳等】

拳術 (ボクシング boxing) は、寧ろ自衛の要道と目せられ拳被 (ボクシンググラブス boxing gloves) を着け、規則正しく練習する體操 (ジムナスティックス gymnastics) 及び劍術 (フェンシング fencing) も體育の爲獎勵さる。

自轉車術 (サイクリング cycling) も亦愛好さるゝ運動にて諸所に練習又は競走用の地面あり大抵四周して一哩に達する位の距離の塚を設けるを常とす。

氷滑 (スケーティング skating) は冬日氷上にてなす遊戯にて滑靴 (スケーツ skate) を穿ちて試むるなり、此頃は空氣靴 (ニューマティックスケーツ pneumatic skates) と云ふもの製造され折々用ゐらるゝ由、こは空氣を満たされるタイヤ (tyres) より成れる小車輪を附したるものなりとぞ。

狩獵 (ハンティング hunting) は英人の好むて行ふところにして、身分ある英人は狩獵を其必習の技術と思へるに似たり英國内地の獵期は大抵毎年八月より翌年四月までにして狩獵免許 (ゲームライセンス game licence) の爲めに毎年三ポンドを拂はざる可らず、狩獵期に於て最愛せらるゝは狐獵 (フォックスハンティング fox hunting) なり、獵手は皆馬にまたがり數頭の獵犬 (ハウンド hounds) を具して狐を追ひ犬をして之を捕へしむ、是には銃を用ふることは却て興味少しとせらる、鹿獵 (スタッグハンティング stag hunting) も亦狐と同種の方法にて行はる、兎 (ヘア hare) 鷓鴣 (パートリッジ partridge) 雉子 (フェザント pheasant) 等は皆銃を用ひて獵せらるゝが殊に英人の好むは松鷄 (グルース grouse) を射ることにてスコットランドのヨークシア (Yorkshire) 附近に多く棲息し獵期は八月十二日より十二月十一日までと定まる、すべて野禽を獵することはファウリング (fowling) と稱し是には鳥銃 (ファウリングピース fowling piece) を用ひ、散弾 (スモールショット small shot) を装填す、漁獵 (フィッシング fishing) も行はれバント (punt) と稱する底平なる漁舟を櫂して

出づることあり、又一竿飄然渚に立ち釣を垂れるもあり。夏期盛んに行はるゝは遊泳 (スウキムミンク swimming) なり、英國にて長距離遊泳にて最有名なりしはキャプテンウェブ (Captain Webb) にして彼は千八百七十五年英國海岸よりドーヴァー海峡 (Dover) を泳ぎ佛蘭西カレー (Calais) に上陸せり此時二十二時間水中にありしと云ふ、後彼は亞米利加なるナイアガラ (Niagara) 瀑下の急流 (the Rapids) を泳ぎわたらんとして遂に溺死せり、又千八百七十七年にはカヴィル (Caville) と云ふ人同じくドーヴァーを泳ぎ渡れり又千八百九十年には米人ダルトン (Dalton) 是を試みて成功せりと云ふ、遊泳は男子に限らず婦人も亦之を行ふことを楽しみとし、夏期に至れば各地の海水浴場は中々の繁昌なり、蓋し英人は生れながらにして水を好み、船を好み所謂海に行く性質 (sea-going quality) を有す英人の今日あるは、此事實與つて力ありとは世の唱ふる所なり。

【漕艇術と競馬】

遊泳を好むと同じく端艇術 (ロウイング rowing) が英國の運動中、重要な地位を占むるは云ふまでもなし、殊にケムブリッジ、オックスフォード兩大學の端艇競走 (ボートレース boat-race) の如きは世界無双のものにして其勝敗はひとり英國のみならず、世界の各地に傳へらるゝ程なり (學校のところを参照せよ) 快走艇 (ヨット yacht) を駛することも英國の國民的遊戯の一なれど、こは餘りに費用を要する故、上流の間の

外樂しむを得ず、帆船競争 (リガッタ regatta) もよく行はれ都鄙のもの群集して觀覽す。

英人は動物を愛育し、よく之を馴致すること、世界に稀なる國民なり、されば馬に對する趣味の如きは、英國一般に存し紳士は必らず馬を蓄へ、平人たりとも馬を驅つて郊外に遊び、狩獵を試み、旅館には、室に競馬の圖を掛けるも少ならず、從て彼のダービー (Derby) 及びオークス (Oaks) の競馬は、其盛大なる事、殆んど又世界無双と云ふを妨げず、こはロンドンの南十六哩エプサム (Epsom) に於て、五月終りか六月初めに舉行され、ダービーは水曜、オークスは金曜とす、千七百八十年ダービー伯 (Earl of Derby) の創めたるものにして、其驅ける道程 (コース course) 一哩半、之を二分四十二秒にて走れるを、今日まで最疾速の馬とす (馬の年齢は皆三才なり) 此競馬には、ロンドン全市、殆んど空しと稱する程、市民皆觀覽に來り、賭事 (ベッティング betting) 盛んに行はると云ふ。

【娛樂】

扱以上にて運動遊戯の事を概説したれば、是より彼等の娛樂にうつるべし、勿論運動遊戯は彼等の身心を樂ますものなれば、又娛樂たる事勿論なれど、こゝにては、自ら身體を勞せずして、他人の所作、演奏等によりて己が精神を樂しませるもの、所謂アミューズメンツ (amusements) 又はエンターテインメンツ (entertainments) の類を稱して娛樂と

せるなり。

【演劇と音楽】

總じて西洋人の娯樂は、男女を問はず、高尚にして多様なれど、殊に其喜ぶものは演劇 (オペラ opera) と、音楽 (ミュージック music) なり、ロンドンにはパリス (Paris) 又は、柏林 (バーリン Berlin) の如く演劇其他の興行物全盛の地にはあらねど、尙市内に劇場 (シアター theatres) 五十、音楽堂 (コンサートホール concert halls) 五百餘あり、是等は所謂シーズン (season) の時と冬期に最盛況を呈し、其他は一體に閑散なり、劇場の構造設備は、獨佛に及ばざること遠し、是佛獨の如く、政府の補助を受けざること一の原因なるべし、シェークスピア劇 (shakespearean plays) の多く演ぜらるゝは、ヅルーリオン座 (Drury Lane Theatre) ヒズ、マジエスティー座 (His Majesty's Theatre) アデルフィ座 (Adelphi Theatre) 等なり、貴族は初日の外、見物すること稀なり、ペンニイガフス (penny gaff's) と云ふは、ロンドンの貧民窟なるイーストエンド (East End) にあるものにして、木戸錢二ペンスなれば此名あり、此所の観客は、小賣商人か賣子等を主とし、劇にも種々野鄙の言語舉動を加へて、彼等の歡心を得んとするが如し、觀劇の際は先づ切符賣場にて切符 (チケット ticket) を購ふべし、但其前日たりとも別に餘分の賃錢 (エキストラチャージ extra charge) を拂ふことなく購入するを得べし。

【場内の模様】

劇場内の座席は數種ありて、最上をストール (stall) と稱し、最立派なる席にて囃方 (オーケストラ orchestra) と相接す、次なるは上等 (ドレスサークル dress circle) 又はボックス (box) と稱し、我國の棧敷に匹敵す、先づ以上は優等の部にしてボックスを除く外皆イーヴニングドレス (evening dress) を着用せざれば入る事能はず、下等の席に至りてはピット (pit) バルコニー (balcony) アムフキスィーアター (amphitheater) ガレリイ (gallery) 等あり、ピットは我國の土間にあたり、ガレリイは又ゴツツ (gods) と稱し、我國の聳棧敷と相同じ。

【演奏會】

音楽は、頗る英人の喜ぶ所なれば、其設備も乏しからず、演奏會 (コンサート concert) は諸所の音楽堂に於て催され、大陸諸國又は亞米利加の名人鉅匠出で、其妙技美音を聴かしむ、演奏會中最名高きは、イーヴニングプロメネードコンサート (evening promenade concerts) と稱するものにして、毎年八、九、十の三ヶ月間クキーンズホール (Queens' Hall) とコヴエント公園座 (Covent garden Theatre) にて催ふさる、又クキーンズホールにて、冬期中午後三時より開かるゝポピュラーコンサート (popular concerts) あり、俗にサターデイポップス (Saturday pops) と云ふ、又冬期間毎日曜午後に行はるゝサンデーアフターヌーンコン

英語活用寶函

サーツ (Sunday afternoon concerts) と云ふもあり、會場はクキーンズホール又はローヤルバートホール (Royal Albert hall) を以て充つ、後者には八千人を容るゝ大廣間あり
フリーコンサート (Free concerts) と云ふは一ペンス乃至二ペンスを徴收して聴聞せしむるものにして、會場は常に國民宮 (ピープルズパレス peoples' palace) を以て充つ、此國民宮といふは世にも貴き建築にして其初めサーウオルターベサント (Sir Walter Besant) なる人〔人さまざま〕 (All sorts and conditions of men) と題する小説をあらはし、江湖の同情を惹起したるが爲、ロンドンの貧民窟なるイーストエンドに音楽を興ふる建築を起さんとの議起り、次で慈善なる一富豪、一萬二千五百磅餘の遺産を寄附せしにより、落成するを得たるものなり。

【其他の遊技機關】

音樂劇場の外、尙遊戯の機關として見るべきもの數多あり
ナショナルガレリイ (National Gallery) 肖像畫陳列館 (ポトレイトガレリイ Portrait Gallery) テートガレリイ (Tate Gallery) 等には、繪畫美術品數多陳列され、終年閉鎖さるゝ事なき故、斯道に興味ある人は、いつにても出入して、古今の名畫東西の美術を鑑賞するを得べし、宏大なる大英博物館 (ブリティッシュミュージアム British Museum) ヴァイクトリア、アンド、アルバート博物館 (Victoria and Albert museum)、イムペリアル、インスティテューション The Imperial Im-

第八章 運動と娛樂

stitution) 等に入らば、美術品のみならず、珍寶奇物目を驚かすもの多かるべし、又ダスソー女史蠟細工陳列館 (マダムタスソーズ、ワック、スワ、ーク、エキジビション Madame Tussaud's wax-work Exhibition) なるものあり、こゝには古今東西の名士の肖像、若くは奇什珍寶を蠟にて模造せるものを陳列する故必ず一見すべき價值あり、ロンドンの西南にはアールスコート (Earl's Court) と云ふありて、種々の見世物多く、中には高さ三呎の大車輪 (グレートホイール great wheel) もあるべく、南の方水晶宮 (クリスタルパレス Crytal Palace) に入れば、年中各種展覽會をはじめ、煙花、船の逆落し、フートボール、クリケット等の競技演ぜられ、多種多様の娛樂を興ふべし、オリムピア (olympia) と云ふも亦朝より夕まで諸種の見世物を興行して人目を惹き、ヒポドローム (Hippodrome) と云ふは、ロンドン唯一の常設サーカス (circus) にして、曲馬、輕業等を演ずる所なり。

【諸種の會合】

これまで述べたる事にて、略々英人一般の嗜む遊戯、娛樂等は盡きたれど、これ皆、公衆を相手として行ふところのものに止まれり、故に終りに臨み、知己友人若くは家庭の間に於て、楽しむところの事をあげざる可らず、私の娛樂 (プライベートエンターテインメント private entertainments) にも様々あれど、重なるは晚餐會 (ディナーパーティ dinner party) 舞踏會 (ボール又はダンス ball or dances) を含むところの

英語活用寶函

piece.	野球場 クラウンド ground.
獵犬 ハウンド hound.	審判者 アムパイア umpire.
漁獵 フイッシング fishing.	キャプテン captain.
釣魚者 アンクラー angler.	投手 pitcher.
釣竿 フイッシングロッド fishing rod.	捕手 catcher.
綸 フイッシングライン fishing line.	ノック knock.
網 フイッシングネット fishing net.	テイクアップ tip.
曳網 ドラグネット drag net.	壘 base.
針 フック hook.	競技 マッチ match.
餌 ベイト bait.	ぶらんこ スウィング swing.
庭球 ローラテニス lawn tennis.	棍棒 クラブ club.
庭球場 テニスコート tennis court.	啞鈴 ダムベル dumb bell.
ラケット racket.	ポロネーズ(舞蹈の名) polonaise.
ネット net.	ラウンド, アバウト(舞蹈の名) round about.
ボール ball.	カレドニアン(舞蹈の名) caledonian.
サーブ serve.	劇場 スイーター theatre.
ヴォレイ volley.	樂劇 オペラ opera.
フォールト fault.	悲劇 トラゲディ tragedy.
デュース deuce.	喜劇 コメデイ comedy.
ヴァンテージ vantage.	劇曲 ドラマ drama.
野球 ベースボール baseball.	興行 パフォーマンス perform-

第八章 運動と娛樂

romance. 小説	頌歌 カロル carol.
舞臺 ステージ stage.	子守歌 ララバイ lullaby.
俳優 アクター actor.	小唄 バラッド ballad.
女優 アクトレス actor.	獨奏 ソロ solo.
番附 { プレイビル play bill. プログラム program.	二人合唱 デューエット duet.
幕 カーティン curtain.	四人合唱 クォーテット quartette.
入場券 アドミッション admission.	齊唱 コーラス chorus.
給仕 アテンダント attendant.	唱歌隊 コイア choir.
狂言筋書 カッピョー、オヴ、ザ、プレー copy of the play.	樂隊 バンド band.
雙眼鏡 オペラグラス opera glass.	笛 フリュート flute.
切符賣捌場 { ブッキングオフィス booking office. ティケット、オフィス ticket office.	オルガン organ.
樂器 ミュージカル、インストルメント musical instrument.	構笛 パイプ pipe.
音樂會、合奏 コンサート concert.	ピアノ (piano 又は piano forte).
讚美歌 ハイム hymn.	ヴァイオリン violin.
	大鼓 ドラム drum.
	小鼓 テーボル tabour.
	喇叭 トラムペット trumpet.
	豎琴 ハープ harp.
	マンドリン mandoline.

英語活用寶函

今晚の狂言は何ですか、
 新狂言です、
 誰の作ですか、
 善い一座ですか、
 其狂言は幾段ありますか、
 ……町には劇場がありますか、
 ありますが今は興行して居ませ
 ん、
 私共は今度……座に参る積です
 棧敷を取て置きなさい、
 こんな大入は見ることがない、
 失禮ですがそれは私の席です手、
 袋を置いておきました、
 囃子が宜しうございます、
 面白いです、
 幕が上るところです、
 幕が上りました、
 立派な飾り附です、
 あの役者は甘くやります、
 この役は六かしい、
 あれは喜劇がうまい、
 此役者は大層下手です、
 自分のすることをよくのみこん
 て居ません、
 幕が下りるところです、
 幕がおりました、

What's to be performed this evening?
 It's a new piece.
 Who is the author of it?
 Is the company a good one?
 How many acts has the play?
 Is there a theatre in town?
 Yes, but there's no performance just at
 present.
 We are going to the theatre g
 Go and take a box.
 I never saw the house so full.
 Pardon, but that is my seat (or number).
 I laid down my gloves.
 The orchestra is excellent.
 I am delighted with.
 The curtain is rising (is going up).
 The curtain has risen.
 The decoration are splendid.
 That actor plays admirably.
 This character is a difficult one.
 He excels in comedy.
 This actor plays very badly.
 This actor does not know his part well.
 The curtain ^{is falling} is dropping.
 The curtain has dropped.

第九章 買物のこと

第九章 買物のこと

商業によりて、生計を立つるものは其數其多く商業の種類も亦千差萬別なり、されど大別すれば二となすべし、即ち一は卸賣商 (ホールセール・ディーラーズ wholesale dealers) より貨物を購入し之を小賣するものにして、二は自家製造のものか、或は製産者より直接に引取りし貨物を商ふもの、之なり。

【小賣商の名稱】

今前者に屬するものを擧ぐれば。

書籍商 <u>ブックセラー</u> bookseller.	帽子商 <u>ハッター</u> hatter.
文房具商 <u>ステーショナー</u> stationer.	帽子の手入を兼ね時には其製造をもなす。
書籍雑誌をひさぐ紙ペン先 (nibs), ペン軸 (penholders), 万年筆 (fountain pen), インキ、ケシゴム (indiarubber), 習字帳 (copy books) 等をひさぐ。	手袋商 <u>クラヴァー</u> glover.
煙草商 <u>トバコニスト</u> tobacconist.	稀に製造をも兼ね。
煙草類の外にマッチ (matches), パイプ (pipes) 等をひさぐ。	足袋商 <u>ホーズィア</u> hosier.
呉服商 <u>ドレーパー</u> draper.	靴下 (stockings), 短靴下 (socks), 其他編物類をひさぐ。
服地、更紗類 其他服装の附屬品 (trimming) をひさぐ。	寶石商 <u>ジュワエラー</u> jeweller.
	寶石、指輪、腕輪 (bracelets), 耳輪、襟留 (broaches), 時計鎖等をひさぐ。
	絹物毛織商 <u>マーサー</u> mercer.
	draper と異なりて單に絹物、毛織

英語活用寶函

物のみをひさぐ。

花屋 フローリスト florist.
草花をひさぐ。

旅行具商 アウトフィッター outfitter.
旅行其他航海に必要な物品装束を取揃へ置き販賣す。

青物商 グリーングローサー green-grocer.
果實野菜等の新鮮なるものを賣り捌く。

乾酪商 チーズモンガー cheese-monger.
チーズ (cheese), バタ (butter), 燻肉 (bacon), 鶏卵等をひさぐ。

乳屋 デイリイマン dairyman.
ミルクマン (milkman) とも云ふ。ミルク、バタ、鶏卵等をひさぐ。

魚商 フィッシュモンガー fishmonger.
魚、牡蠣 (oysters) 等をひさぐ。

茶商 ティーマーチャント tea merchant.
茶類を賣る。

藥種商 ドラuggist druggist.
又ケミスト (chemist) とも云ふ。

調劑者 ディスペンシング、ケミスト dispensing chemist.
醫師の處方に従ひ調合して藥劑を作り且其用法等を教ふ。

陶器商 チャイナディーラー china dealer.
陶磁器、硝子器等をひさぐ、陶器ははじめ支那より傳來せる故陶器のことを china といふ。

鐵器商 アイアンモンガー iron monger.
鐵器一式をひさぐ。

刃物商 カッター cutler.
小刀、剃刀、其他刃物類を販賣し又磨礪す。

香油商 パーフューマー perfumer.
香水香油等をひさぐ。

玩具商 トイディーラー toydealer.
玩具類を賣る。

鳥商 バーツファンシーア birds fancier.
鳥類を飼養して顧客を待つもの。

小間物商 ハバダッシュヤー haberdasher.
糸、針、リボン、レース、ボタン等をひさぐ。

等なり。

第九章 買物のこと

後者に屬するものは、

【製造販賣業及卸賣商の名稱】

麩包屋 ベーカール baker.
パン類をひさぐ。

菓子商 コンフェクショナー confectioner.
カラメル、チョコレート、ドロップ等々をひさぐ。

屠獸商 ブッチャー butcher.
牛、犢、羊、豚等を屠殺しビーフ (beef), ヴェール (veal), ムツドン (mutton), ポーク (pork) として販賣す。

醸造業 ブルーワー brewer.
酒類を醸造販賣す。

靴商 ブート、アムド、シューメーカー boot and shoemaker.
短靴、ゴム靴、長靴等を製造販賣す。

婦子用帽子商 ミリナー milliner.
婦人用帽子を造りて販賣す。

毛皮商 ファーリアー furrier.
毛皮帽、ボア (boa), 手套 (muffs), 等なり。

外套襟等をうる。

眼鏡商 オプティシアン optician.
眼鏡類をうる。

時計商 ウォッチ、アムド、クロックメーカー watch and clock maker.
時計、腕時計、アムド、クロックメーカー等を製造販賣し又修理す。

銃砲商 ガンスミス gunsmith.
小銃、ピストル、獵銃等を製造販賣し又修理す。

馬具商 サッドラー saddler.
馬具一式をうる。

室内裝飾商 アップホルステラー upholsterer.
窓掛 (curtain), 寢臺等々をつくり且つ裝飾す。

家具商 ファーニチュア、ディーラー furniture dealer.
桌子、椅子、絨氈等をうる。

錫器商 ティンマン tinman.
錫製什器の製造販賣をなす。

【ストアのこと】

以上は商店の種類を重ねるものを挙げたるものにして、是等の店舗は各々其業の中心たるべき地點を定め、群居すること多し、されば時計を買はんには某街に行くを要し、呉服商を尋ねんには、他の某街に走らざる可らず、故に此不便を避けん爲めに、ストアシステム (store system) なる商業組織生れたり、こは我國三越、白木屋の店舗にて既に採用せる如く一個の店舗にて、種々の商品を陳列販賣するものにて、足一たびこゝに入らば、呉服物、刷毛留針よりして旅行用具一式に至るまで、要するところのもの得られざるはなし、但しこゝにては常に現金支拂 (カッシュシステム (cash system)) を要し懸賣するとなし、又コーオペラティブ、ストア (co-operative store) なるものあり、是は一種の購賣組合にして、數十人のもの相集まりて組織し、最低價格を以て最良貨物を購求する趣向なり、勿論組合外のものもこゝに於て、購求するを許さざるものとす、尙ストア (store) の一種にリミテッドコンパニ (limited company) (limited company は Ltd' と略字にて記す、有限責任の義なり) と稱するものあり、こは數人の株主 (シェアホルダーズ shareholders) の合資にて成れるものにして、顧客を四方に待つことストアに同じ、こゝに至れば衣食住に關する一切の調度品目命のまゝに目前に現はるべく、借家の周旋も、家具の飾附も、棺桶の用意も、萬端滞りなくすますべく、石碑の建立まで引受ける至便の仕組なり。

【勸工場】

勸工場 (バザー bazars) も至る所にありて、日常必要なる品物又は人目を惹くにたる商品を陳列して、需要に應ず、ロンドンにて有名なるはオールドボンドストリート (Old Bond street) にあるローヤル、アーケード (Royal Arcade) とピカデリイ (Piccadilly) にあるバーリントン、アーケード (Burlington Arcade) なり。

【市場】

庖厨用の蔬菜肉類を、新鮮なるまゝ供給せん爲に、毎朝ロンドンにては一定の場所に市場 (マーケット Market) 開かる、日の出の頃若くは其以前より、小賣商人は皆貨車に野菜、果實、肉類、魚類、野禽、花類等を積んで所定の市場に集り來り顧客を待つものにして、中々に賑かなるものなり、最名高きはコヴェントガーデン (Covent Garden) の市場にして一日兩回開かる、故、ロンドンに至るものは必らず一覽すべし、第一回は午前六時頃にて、野菜物を賣り、他は少しく遅れて果實及び草花の市を開くものとす。

扱以上の商店に入り、買物を爲すには夫々必要の言ひ方を知り、値段の應答、品目の呼び方等心得べきことなれど、先づ第一に貨幣のこと度量衡の事を是非領知せざる可らずこれを知らずば、買物も爲し得ざるべきにより、茲に夫等の事に就き一言すべし。

【貨幣のこと】

英語活用寶函

英國の硬貨は、金貨、銀貨、銅貨(或は青銅)の三種ある外に紙幣發行され、此四種の貨幣相待つて、通用されつゝあり、硬貨は英國の造幣局(ローヤルマイント Royal Mint)にて鑄造し、紙幣は英蘭銀行(イングランド、バンク)より發行さる。金貨(ゴールドコイン gold coin)には一磅(ポンド pound)と半磅の二種あり、£ といふ略字を用ひて、帳簿、受取書等に記入す、(£ は拉丁語の libra より來り / は同じく solidus の long l にかたどり、d は denarius より取るなり、読み方は次の如し、£2 10s 4d. = two pounds ten and four pence.)、磅は又サザレン (sovereign) 又はスターリング (sterling) の名あり、同物異名にして價格は同じと知るべし、又ギニア (guinea) と云ふ貨幣の名あれど、こは名のみ存し、之に相當する貨幣はあらず、されど會費、寄附金額等は尙此名を以て呼ぶ事多し、價格は二十一志 (シリング shilling) にして磅は二十志に等し、サザレンは普通略して、サヴ (sov.) と呼ぶ。

銀貨(シルヴァーコイン silver coin)には一志、二志(又フロリン florin)、半クラウン (ハーフ、ア、クラウン half a crown)、四志、一クラウン、六片 (シックスペンス six pence) 三片 (スリーペンニース three penny piece) の七種あり、此内半クラウンは二志半にあたる故、ツ、アンド、シックス (two and six) とも云ひ、三片は又スリーペンニースビット (three penny bit) とも云ひ、四個にて一志にあたるものなり、通常銀貨は補

第九章 買物のこと

助貨として店舖にては二磅以上授受することなし、志は、s/ の略字を用ひ、又 / を用ふることもあり。

銅貨(カッパーコイン copper coin)是一片 (ペンニイ one penny) 半片 (ワンハーフペンニイ one half penny) 一フューズィング (one farthing) の三種あり、一片は十二個にて一志にあたり、一フューズィングは四個にて一片にあたる、されどもこは下層社會の外、餘りに見當らず、すべて銅貨は一志以内の額のみ授受し、夫以上は拒絶さる、penny の略字は d なり。

紙幣は五磅を最低とし百磅に至るまで種々あり、尙領會に便ならしめん爲次に一表を掲ぐ。

【英貨換算表】

種	類	質	換算	號記	本邦換算
磅	pound	金	= 20 shillings	£	9, 82, 1,
半磅	half a pond	„	= 10 shillings		4, 91, 0, 5
一志	shilling	銀	= 12 pence	s 又 /	49, 1
二志	two shillings	„	= 24 pence		98, 2
半クラウン	half a crown	„	= 2½ shillings		1, 22, 7, 5,
四志	four shillings	„	= 48 pence		1, 96, 4,
一クラウン	a crown	„	= 5 shillings		2, 45, 5,
六片	six pence	„	= ½ shilling		24, 5, 5,
三片	three pence	„	= ¼ shilling		12, 2, 8,